

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

[トップ](#) > [サステナビリティ](#)

グンゼグループは、新たな製品・サービスの提供により持続可能な社会の実現に貢献するとともに、社会的価値の創出と経済的利益の追求を両立させ、成長し続けます



トップメッセージ >



グンゼのサステナビリティ >

- > 企業理念体系
- > 企業行動憲章
- > サステナビリティ・マネジメント
- > 価値創造プロセス
- > マテリアリティ



環境 >

- > マネジメント
- > 気候変動対応
- > 資源循環
- > 化学物質管理
- > 廃棄物削減
- > 水資源の保全
- > 生物多様性
- > 環境配慮製品・技術



社会 >

- > 人権
- > 人的資本
- > ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン
- > 健康と安全
- > 品質保証・顧客責任
- > サプライチェーン
- > 社会貢献
- > ステークホルダーコミュニケーション
- > 社外からの評価（ESG関連）



ガバナンス >

- > コーポレート・ガバナンス
- > コンプライアンス
- > リスクマネジメント

ESGデータ関連 >

- > サステナビリティウェブサイトアーカイブ
- > 方針・ガイドライン一覧
- > ESGパフォーマンスデータ
- > 第三者検証
- > 編集方針

イニシアティブへの参画・外部評価 >

- > イニシアティブへの参画・外部評価
- > GRIスタンダード対照表
- > ISO26000対照表
- > TCFD対照表

サステナビリティニュース >



統合レポート >

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



トップメッセージ



抜本的な戦略転換を進め、持続的に成長できる企業に創りかえることで、企業価値の向上を図る

「ニッチな市場を切り取る」戦略で、グローバル市場で生き残る

昨今、地政学的リスクをはじめとした不確実性が国際的に高まっています。そうした中、日本における最も大きな構造的課題は「人口減少」であると感じています。これは、商品の売れ行き、マーケットサイズの縮小、国際社会での発言力低下、産業構造の変化など、あらゆる領域に深刻な影響を及ぼしています。特にマーケットサイズの縮小は、企業数の減少にもつながっていきます。企業として淘汰される側に回るのか、それとも生き残る側に回るのか、その分かれ道に、私たちは今立たされていると考えています。

だからこそ、企業は危機感を強めるとともに、生き残りをかけ抜本的な戦略転換を図らねばなりません。そこで私は、グローバル市場でいかに競争力を高めていくかがグンゼにとっての命題と考えており、その克服なくして生き残りは難しいと感じています。

とはいえグローバル市場には競合も多数存在し、特に当社のような企業規模では、グローバルで正面から勝負していくには限界があります。本格的に戦うには、企業規模として売上高5,000億円～6,000億円規模が最低限必要だと考えています。

そこでグンゼでは広範なグローバル展開ではなく「ニッチな市場を切り取る」という独自の戦略を立てています。例えば中期経営計画では、アパレル事業においてグローバル市場への拡大に取り組む販売戦略として、特定価格帯のメンズ下着市場に特化するなど、具体的に戦略的なアプローチを目指しています。

限られた経営資源を最大限に活用するために、慎重に市場セグメントを選定し、地産地消の発想に基づき特定の地域や市場に経営資源を集中させていきます。

「VISION 2030 stage1」の振り返りと見えてきた課題

グンゼは、機能ソリューション事業、メディカル事業、アパレル事業、ライフクリエイイト事業の4つのセグメントを展開していますが、企業規模に比べて事業領域が幅広いことが特徴です。それぞれが独自に目指すべき価値や成長の方向性、そして課題を有しています。

2024年度で「VISION 2030 stage1」を終えました。私なりに点数をつけると100点満点中70点です。及第点とはいえ、決して満足できる結果ではありません。

メディカル事業と機能ソリューション事業は、当初の目標を達成できたので評価しています。メディカル事業は生体吸収性分野における独自の技術開発に注力しました。患者さま・お医者さまの双方にとって価値のある医療機器の開発や、多くの大学の研究室との密接な連携を通じて、ニッチながら高付加価値の市場を開拓しています。機能ソリューション事業においては、半導体分野や環境関連製品など、常に変化する市場ニーズに対応した製品開発を行っています。

一方、アパレル事業とライフクリエイイト事業は、今後事業戦略の見直しが必要な状況にあります。特にアパレルは厳しい環境に直面しました。私たちが取り扱うアパレル商品は輸入比率が高いため為替の影響を受けやすく、さらに日本国内の人口減少による衣料品市場の縮小、という構造的な課題にも直面しています。さらに、お客さまが目的に応じて買い方を選択する傾向が強まる中で、私たちが主力としてきた量販店や百貨店の売場は確実に減少しています。

このように厳しい状況が続く中でも、私はアパレルがグンゼの看板事業であり、継続し、進化させていく意義があると感じています。その思いを形にするために、2025年度からスタートした「stage2」では構造改革に取り組み、あらゆる点を見直していく決意です。

「stage2」で実行する成長戦略と構造改革

機能ソリューション事業においては「stage1」から、プラスチックフィルムとエンジニアリングプラスチックの両分野で投資を進めてきました。プラスチックフィルム分野では、滋賀県守山市にある守山工場にサーキュラファクトリー®を建設、エンジニアリングプラスチック分野では愛知県江南市にある江南工場に第7号棟を増設しました。「stage2」では、これらの工場を活用してさらに収益を上げていくことを目指します。

メディカル事業では「stage1」で新商品を上市しており、特に手術後の臓器同士の癒着を軽減させる癒着防止材は顧客の新規獲得が進み、2025年4月に増産に対応するために京都府綾部市に第三工場を新設し、下期から稼働していきます。

一方で、アパレル事業、ライフクリエイイト事業については構造改革に取り組みます。アパレル事業においては、個々のブランドの競争力や在庫水準の適正化、販売チャネルや物流体制を含め抜本的に見直します。構造改革の目的は、単に収益性を改善するだけでなく、その先にある成長の可能性をつかむための基礎づくりと考え、より筋肉質な事業体制へと転換していきます。

日本の産業構造の変革に合わせた財務戦略を展開

また財務戦略においては、従来の堅実ながらやや保守的であった財務戦略から、「stage2」ではより動的で柔軟な資本政策への転換を図ります。これには2つの背景があります。1つ目はグローバルな資金を呼び込むための日本企業全体の課題です。

東京証券取引所が先導する形で、海外投資家から見た最低限の投資基準として「ROE 8%」「PBR 1倍」といった水準が示されており、私たちも最低限の財務目標として目指さなければなりません。もう1つは、当社の資本構成の問題です。現在、自己資本比率は70%を超える水準に達しており、資本としてはやや厚すぎる状況です。経営資源を積極的な成長投資や株式還元に分けるとともに、構造改革による資本効率向上に取り組み、資本の最適化を図っていきます。

中長期視点で売り上げ規模を3〜4倍にしていくには、M&Aは重要な選択肢の一つですが、私は、戦略的かつ慎重なアプローチを取る必要があると考えています。大切なのは「相性」と「タイミング」で、買収を急げば、長期的に見ると不幸な結果を招くリスクもあります。親和性のある事業領域で、適切なタイミングを見極め、質的な成長を重視していきたいと思っています。

社員一人ひとりの幸せと成長を重視

グンゼグループでは2026年4月から人事制度の改定を計画しています。管理職にはジョブ型を導入し、能力のある人材をしっかりと評価・処遇できるようにしていきます。ただし、私は「人の幸せ」は一つではないと考えています。キャリアアップを望む人もいれば、地元で安定した暮らしを大切にしたい人もいます。そのどちらにも応えられるように多様なコースを用意し、一人ひとりの幸せと成長を重視した制度をつくっていきます。

これらの取り組みは、創業者・波多野鶴吉が大切にできた「善い人が良い糸をつくる」という精神をこれからも継承していくためにも必要な制度改定と考えています。

そして私が社員に対して求めたいことは、まず一人ひとりの人間性です。専門スキルは本人の努力で後から身につけられるものですが、良好な人間性、そして前向きにやり抜く力は、一朝一夕で得られるものではありません。これらには、協調性やチームワーク力が含まれており、日本企業においては重要な資質です。こうした基本的な人間力を備えた人材を育てていきたいと考えています。

また、人材と並んで、持続可能な企業であり続けるために重視していることが「環境対策」です。グンゼはプラスチックという素材を扱う企業として、地球環境への責任を自覚してきました。その責任を果たすためにサーキュラーメーカーとしての構想を進め、国内初の資源循環型工場モデルとしてグリーンローンを活用し「守山サーキュラーファクトリー」を立ち上げました。この取り組みはすでに2,000名を超える関係者の方々が現地を訪れており、2024年10月に経済産業省から表彰されました。これらの活動を通じて、私たち独自の環境保全の取り組みが企業価値の向上に繋がっていると感じています。



ステークホルダーの皆さまに“ここちよさ”を提供する

今のグンゼについて若年層の認知度が十分とは言えないと感じています。年配の方々にも「肌着の会社」という印象が強く、エンジニアリングプラスチックやメディカルといった事業を含めた、企業の全体像が伝わっていないのが現状です。このままでは知名度もブランドの幅も広がりません。

しかし、最近少しずつですが、メディカル事業に関心を持ってくれる学生の応募が見られるようになりました。これは新しい成長事業が少しずつ若い世代にも届き始めている証だと思います。今後さまざまな事業に関心を持つ入社志望者が増えれば、着実に知名度も上がってくると感じています。

私が「VISION2030」の策定にあたって最も大切にしたいことは「マルチステークホルダー」という考え方でした。株主、従業員、お客さま、地域社会などすべてのステークホルダーに対して、バランスよく価値を届け、満足いただける会社でありたいと思っています。そのために私たちが大切にしていることは“ここちよさ”の提供です。この“ここちよさ”こそが、グンゼらしさであり、それが企業価値の向上に繋がるものと確信しています。

これからも、私自身がこの想いを具体的に発信し、グンゼの魅力を一人でも多くの方に届けていきたいと考えています。皆さまのより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

グンゼ株式会社
代表取締役社長

岡 高広

関連リンク

[中期経営計画](#) > [統合レポート](#) >

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業テベロッパ分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

グンゼのサステナビリティ



企業理念体系 >

人間尊重、優良品の生産、共存共栄を企業理念とし、創業以来受け継いでいます



企業行動憲章 >

グンゼグループは信頼される企業であり続けるために、行動規範を遵守しています



サステナビリティ・マネジメント >

サステナビリティ基本方針のもと、持続可能な社会の実現に貢献しています



価値創造プロセス >

社会課題の解決につながる新たな価値を創造し続けます



マテリアリティ >

中期経営計画の重要経営課題をマテリアリティとして特定し、適切に対応しています

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

企業理念体系



創業以来の「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」という精神を核として、グンゼの理念を統合的に表現しています。

脈々と受け継がれるグンゼの経営理念

1896 創業の精神

○ 人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる

当社は1896年、京都府何鹿郡（現在の綾部市）に地域産業であった蚕糸業の振興を目的として設立されました。当時の社名「郡是製絲株式会社」の郡是は、「郡の是（方針）」として会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかり、地域の人々の暮らしを豊かにしたい」という、創業者 波多野鶴吉の強い思いが込められています。



1963 三つの章句

—— 誠意 ——

一所懸命、これが誠意である。小事をおろそかにしない。表裏がない。遅怠がない。間断がない。約束を違えない。責任感も勇気もこれより出で、知恵もここから生まれる。成功の基礎である。

—— 愛情 ——

思いやりの心である。相手の身になって考える。非礼を行わない。よく忍待する。知恵はここから出て、人を生かし、事を生かし、物を生かす。

—— 謙虚 ——

己を空しうして他から学ぼうとする精神である。進歩の母体である。競争は、きのうの我とする。

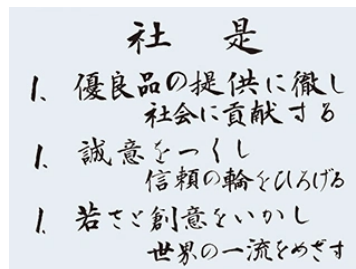
- 1 あいさつをする
- 2 はきものをそろえる
- 3 そうじをする



1976

社是

- 第1項 優良品の提供に徹し社会に貢献する
第2項 誠意をつくし信頼の輪をひろげる
第3項 若さと創意をいかし世界の一流をめざす



1997

環境憲章

○ 環境憲章

地球・社会との健全な持続発展を促進するためにグンゼグループ環境憲章を制定

1998

行動規範

○ 行動規範

企業市民としての果たすべき活動と行動を行動規範で明記

- 第1項 グンゼが果たすべき役割
第2項 企業活動において守るべきルール
第3項 企業活動において個人が心がけるべき事項

2007

CSR基本方針

○ 企業としてのコミットメントを社会に開示

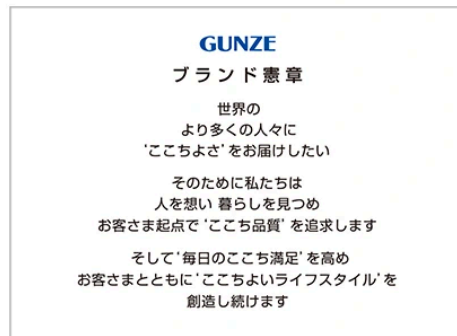
- | | |
|------------|---------------|
| 1 お客さまのために | 2 お取引先さまのために |
| 3 地域社会のために | 4 従業員との関係において |
| 5 地球環境のために | 6 株主・投資家のために |

2012

ブランド憲章

ために

グンゼブランドの社内外との約束としてブランド憲章を制定



2019

サステナブル調達ガイドライン

サプライチェーン全体でのサステナブル調達の実現

- 1 公平な参入機会の提供
- 2 公正なサプライヤーの選定
- 3 最適な地域からの調達
- 4 地球環境保全と、環境の負荷低減
- 5 法令・社会規範の順守
- 6 情報の適切な管理・保護

[サステナビリティ・マネジメント](#)

プラスチック資源循環基本方針

グンゼは、プラスチックの3R+Renewable※を積極的に推進し、廃棄量を削減することで、プラスチック資源が循環する社会の実現に貢献する。

- 1 プラスチックの減量化・再利用を推進する。
- 2 分別・リサイクルし易い製品設計と再生原料の積極的使用により、効果的・効率的なプラスチック資源循環に貢献する。
- 3 植物由来原料による製品開発を行い、石油化学原料の使用量削減に貢献する。
- 4 廃棄物の適切な管理と環境負荷を低減する生産活動により、つくる責任を果たす。

※3R+Renewable
3R=Reduce, Reuse, Recycle
(廃棄物の削減、再使用、有効利用) + Renewable (再生利用)

[資源循環](#)

2022

グンゼ人権方針

○企業理念の中にある人権の尊重への取り組み姿勢を明確にするため制定

- 1 私たちは、「国連グローバルコンパクト」(※1)や「ビジネスと人権に関する指導原則」(※2)などの国際規範を支持し、尊重します。
- 2 私たちは、人権・人格・個性(多様性)を尊重し、事業活動において人種・国籍・性別等による差別を行いません。また、児童労働、強制労働などをさせず、過酷な懲罰等の非人道的な行為を行いません。
- 3 私たちは、従業員との関係において、「サステナビリティ推進規程」で定めた取り組みを推進し、内部通報制度などの実効的な仕組みを通じて、人権に対する負の影響を把握し、適切に対処するよう努めます。
- 4 私たちは、「グンゼグループサステナブル調達方針」に基づき、サプライチェーンとの関係において、「グンゼグループサプライヤー行動規範」の遵守を再確認し、人権に対する負の影響を引き起こすリスクがないか情報を収集し、そのリスクの回避または軽減に取り組むよう求めます。
- 5 私たちは、人権尊重に関する知識が従業員に行き渡るよう教育を行い、正しい理解が進むよう取り組みます。

※1「国連グローバル・コンパクト」は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。当社は2020年に署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野からなる「国連グローバル・コンパクト10原則」を支持しています。

※2「ビジネスと人権に関する指導原則」は、2011年に国連において策定され、あらゆる企業に、人権の保護・尊重への取り組みを促すものです。企業に対して、国際社会に承認された人権により、基本的な諸原則にのっとって社会的・道義的な責任を十分に認識し、人権を尊重することを求めています。

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告

重要なお知らせ

ご利用条件について

プライバシーポリシー

ソーシャルメディアポリシー

お問い合わせ窓口

サイトマップ



サステナビリティ・マネジメント

方針・基本的な考え方 ▼ グンゼグループサステナビリティ基本方針 ▼ サステナビリティ推進体制 ▼
グンゼグループサステナブル調達方針 ▼ グンゼグループサプライヤー行動規範 ▼

方針・基本的な考え方

グンゼは1896年（明治29年）、京都府何鹿（いかるが）郡（現在の綾部市）に設立されました。

私企業として利潤のみを追求するのではなく、「郡の方針（是）」として地場産業を発展させ、何鹿郡を豊かにする」という強い思いを「郡是（グンゼ）製絲株式会社」という社名に託しました。

この「郡是」という考え方を基に、グンゼグループは、「人間尊重と優良品の生産を基礎として会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」という創業の精神を、現在まで受け継いでまいりました。

近年、グローバル化の中で、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。企業理念を高く掲げた上で、持続可能な成長をもたらす経営を行うこと、すなわちサステナビリティに対するステークホルダーの関心は、かつてない高まりを見せています。

国連の持続可能な開発目標（SDGs）に代表される、持続可能な社会の実現に向けた国際社会の活動の高まりを受けて、企業理念を実現していくためには、自社のみならず、サプライチェーン全体で取り組むことが必要です。昨今の急激な環境変化を考えると、サプライチェーンにおけるサステナビリティの考え方を、より具体的にサプライヤー様に提示する必要がある、との認識に至り、グンゼグループサステナブル調達活動へのさらなるご理解とご協力をいただくために、「グンゼグループサステナブル調達ガイドライン」を制定しました。

サプライヤー様におかれましては、このガイドラインの趣旨をご理解いただき、「サプライヤー行動規範」の各項目を順守し、そのために必要な行動・活動の実践をお願いします。さらに、サプライヤー様自身のサプライチェーンにも普及・浸透いただきますよう、お願い申し上げます。

グンゼグループは、持続可能な社会の構築に向けて、これからもサプライヤー様と一緒に取り組んでまいり所存ですので、何卒引き続き、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

代表取締役 兼 専務執行役員
経営戦略部長
サステナビリティ担当
岡 高広

グンゼグループサステナビリティ基本方針

グンゼグループは、「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」という創業の精神を変えてはならない経系（たていと）、社会からの期待に誠意をもって柔軟に応えることを緯系（よこいと）として、透明性の高い経営と世界に通じる公正なルールの遵守を通じて、経済的価値および社会的価値を創出し、持続可能な地球と社会の実現に貢献します。

（１）お客さまのために

常にお客さまの立場に立って考え、事業を行う世界各国の文化・慣習を理解し、優良な商品・サービスの提供に徹し、“売って喜び 買って喜ぶ”を実践します。品質を第一義に、安全・安心・快適・満足を追求し、環境と人にやさしい製品・サービスの開発および提供により持続可能な社会の実現のために努力します。

（２）お取引先さまのために

共存共栄の実現を目指します。事業活動に関わるそれぞれの国の関連法令およびその精神を遵守し、公正かつ自由な取引を行います。

公正さを疑われるような贈答や接待を行ったり、受けたりしません。サプライヤー行動規範に従い、雇用における差別の禁止、強制労働の禁止および児童労働の禁止を求めます。

（３）地域社会のために

積極的に社会・地域活動に参加し、社会との友好な関係を築き、社会の持続可能性に貢献します。

（４）従業員との関係において

人権・人格・個性を尊重し、人種・国籍・性別等による雇用および処遇に関する差別を行わず、機会の均等を図ります。事業活動に関わるすべての人の人権を尊重し、強制労働・児童労働・過酷な懲罰等、非人道的な労働行為は行いません。

労働時間に関する法律および賃金・福利厚生に関する法律を遵守し、従業員が安全で健康に働くことのできる、ハラスメントのない、こころよい職場環境を確保します。

多様性を重んじ、従業員が適財※適所において、各々が活躍できる能力開発を推進し、社会に貢献できる人材※を育成します。

従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り尊重します。

※グンゼでは「人は財産である」と考え、「適財」や「人材」を用いています。

（５）地球環境のために

事業活動の全過程において、生物多様性を含めた地球環境の保護および温室効果ガス削減に積極的に取り組むと共に、環境配慮型製品・サービスの提供を通じて、持続可能な地球と社会の実現に貢献します。

（６）株主・投資家のために

企業理念である共存共栄の精神に基づき、サステナブル経営を実践し、企業の信頼を高めます。株主・投資家との対話を重視すると共に、企業情報を積極的かつ公正に開示し、その信頼に応えます。

サステナビリティ推進体制

グンゼグループでは、持続可能な社会を構築することを社会的な責任と考え、サステナビリティのある経営を目指し、中長期的テーマと主要推進事項に取り組みます。また、サステナビリティ委員会を設置し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現および企業価値向上を目指します。中長期的テーマ及び主要推進事項は、サステナビリティ委員会の審議を経て、変更又は追加されることがあります。

中長期的テーマと主要推進事項

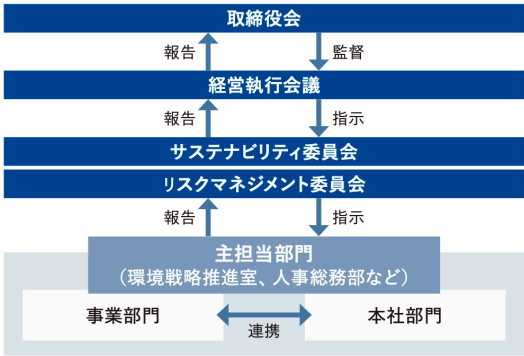
1. 気候変動への対応
2. 資源循環型社会の実現
3. サステナブルな調達
4. ウェルネス&ヘルス
5. 人と社会への配慮

グンゼグループのカンパニー長、事業部長、機能部門の長、機能部各室長及び関係会社社長は、サステナビリティ推進の取組みにおいて、以下の責任を有します。

1. 自部門又は自部署の構成員のサステナビリティに対する意識を高め、サステナビリティ経営を実践します。
2. サステナビリティ委員会で決定した、サステナビリティに関する全社の推進事項について、自部門又は自部署で実行・推進します。
3. サステナビリティ委員会から求めがあったときは、自部門・自部署のサステナビリティ推進状況について調査し、現状及び課題等について回答します。
4. サステナビリティについて、自部門・自部署の構成員の理解向上のために、教育研修の機会を与えます。

グンゼグループのサステナビリティ推進体制は次のとおりです。

サステナビリティ推進におけるガバナンス体制図



サステナビリティ推進における会議体・組織の役割

会議体・組織	役割
取締役会	業務執行において協議・決定されたサステナビリティ課題（気候変動を中心とした環境課題や人的資本などに関する課題）に関する取り組み施策の進捗を監督
経営執行会議	全社グループにまたがるサステナビリティ課題（気候変動を中心とした環境課題や人的資本などに関する課題）に関する経営管理上の重要事項、業務執行に関する重要事項を協議・決定
サステナビリティ委員会 （原則四半期に一回開催）	サステナビリティに関する基本方針や対応方針の審議・決定
リスクマネジメント委員会 （原則四半期に一回開催）	サステナビリティに関するリスク事象の発生、採られた、または採られる予定の措置、リスク予防などについて協議
主担当部門	サステナビリティ課題に合わせて主導的に当該課題への対応推進、リスクと機会を特定（環境戦略推進室：気候変動を中心とした環境課題、人事総務部：グンゼグループの人的資本など）

サステナビリティ委員会

グンゼグループは、経営理念及び経営方針にもとづき、自社事業活動を通じて持続可能な社会の実現及び企業価値向上を目指すため、サステナブル経営の方向性を定めて推進することを目的とし、サステナビリティ委員会を設置しています。

サステナビリティ委員会では、サステナビリティに関する基本方針及び主要推進事項、組織及び体制の整備、計画の状況確認並びに情報の集計及び管理、グンゼグループの活動の社外に対する開示、全社的な教育研修活動の計画及び実施について審議し、決定いたします。サステナビリティ委員会の委員長は、サステナビリティ担当取締役又は執行役員が担い、委員は本社部門と部門長を中心に構成され、原則として4半期に1回開催いたします。

2021年4月改定

2019年1月改定

[グンゼグループ環境憲章](#) ▶

[統合レポート](#)

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

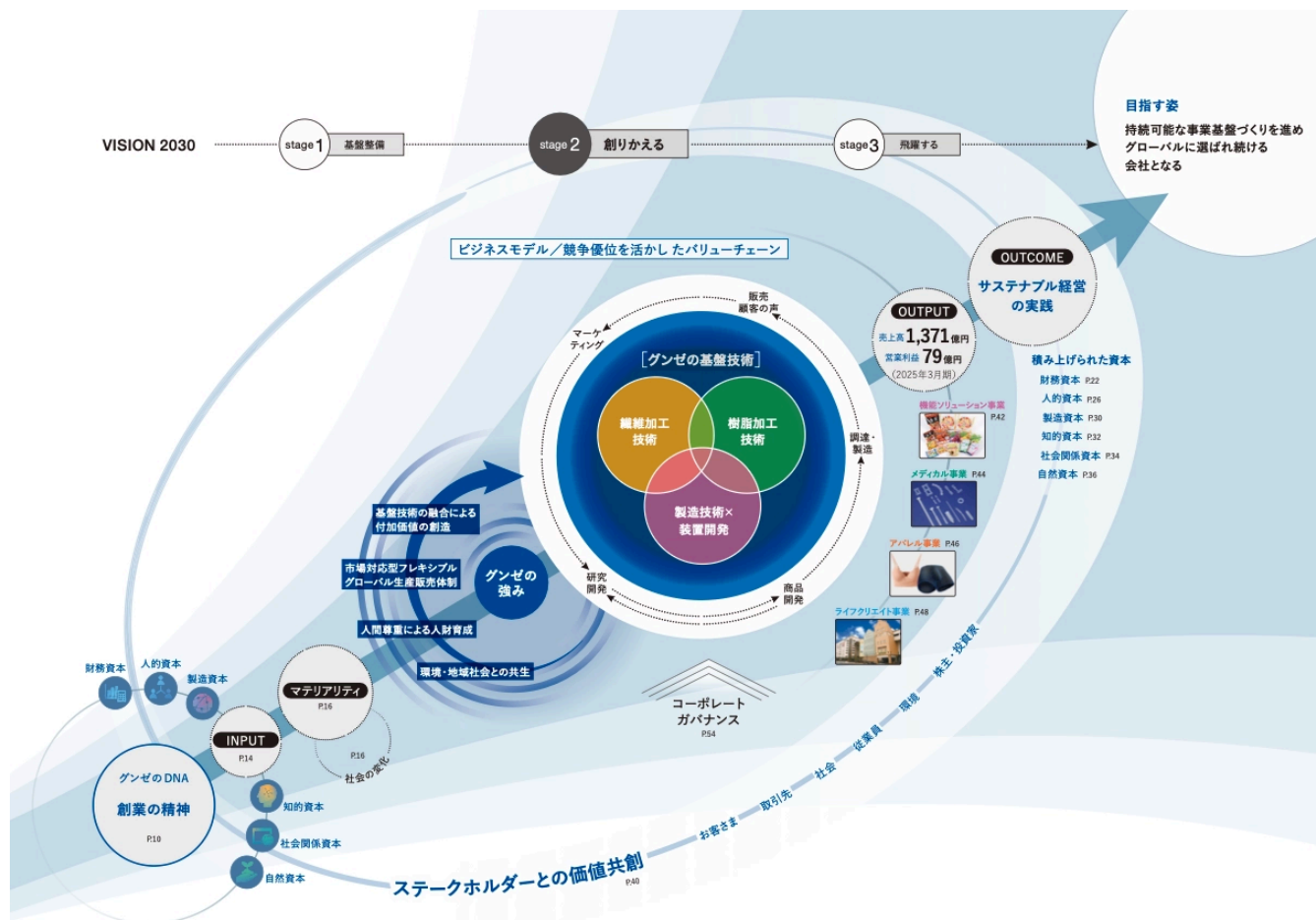
- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



グンゼグループの価値創造プロセス

グンゼグループは社会課題を起点に、新たな価値を創造し「こちよさ」を提供することで持続可能な社会を実現できるよう貢献していきます。

そして、価値創造モデルで示したバリューチェーンの活動は、グンゼグループの持つ諸資本を効率的に活用し、グンゼならではの強みを活かすことで、グンゼの事業活動を強化なものにしています。



[グンゼ統合レポート2025 価値創造プロセス](#) (PDF:1.7MB)

[グンゼ統合レポート2025 全ページ](#) (PDF:11.1MB)



マテリアリティ

外部環境の変化を踏まえ、グンゼグループの中長期的な価値創造に影響を与える重要な社会課題を特定し、関連するリスクと機会を抽出しました。

これらに適切に対応し、中期経営計画の重要経営課題をマテリアリティとして認識することで、サステナビリティアクションプラン（対応策）を推進し、さらなる価値創造を目指します。

リスクと機会・マテリアリティ

グンゼグループは、急速に変化する外部環境に的確に対応し、持続的な企業価値の向上を図るため、マテリアリティ（重要課題）を特定し、それぞれに対してKPIを設定の上、具体的な施策を推進しています。「stage1」で顕在化した

課題と気づきを踏まえて、持続可能な企業を目指すため、さらなる深化と実効性の向上に取り組んでいます。

社会の変化	リスク	機会	マテリアリティ	グンゼグループの施策	「stage1」KPIと実績（2024年度）▶P18~19	持続可能な企業として目指すべき課題▶P20~21		
グンゼグループをめぐる市場環境の変化	・不採算事業部門の発生による収益性の低下 ・競争力の低下による技術・サービスの陳腐化 ・人口減少による国内市場縮小	多様な事業展開が生み出す高い社会課題対応力	新たな価値の創出	中期	● 新規事業の創出と既存事業の成長（M&A含む）	● 新規事業関連 ・次世代型リチウムイオン電池向けフィルムの基本機能開発・試験用サンプル供給までは完了。量産化に至らず事業化は断念	● グローバルソリューションカンパニーへの挑戦（機能ソリューション、メディカル、アパレル） ● 技術の専門集団によるイノベーションの創出 ● M&Aによる事業領域の拡大（メディカル領域、資源循環領域） ● エンブラ分野における新領域への拡大 ● 新技術によるアパレル製品の進化 ● 環境配慮型商品の拡大と資源循環技術の完成	
事業展開国のカントリーリスク	・米中摩擦、ウクライナ・イスラエル紛争、中国経済の悪化など政治・経済状況の激変による営業継続の困難 ・外国為替レートの変動による海外生産の収益性の悪化			短期	● サステナビリティを追求した新商品・新サービスの提供	● 環境配慮型製品の開発 ・リサイクル原料を使用した環境対応収納フィルム「GEOPLAS*」の開発・採用拡大 ・食品廃棄ロス削減、冷凍食品真空包装用チューブフィルムの開発・採用拡大 ● メディカル関連製品の売上高 ・研究から販売まで一気通貫に運営できる医療機器専門の組織体制へと変革 ・新製品の上市（患者防止材、頭蓋形状矯正ヘルメットなど）		● ウェルネスヘルスカテゴリ商品の売上高 ・メディスユア（顧客のQOL向上に貢献するブランド）、NEXTYLE（加齢による機能低下をサポート）の展開拡大 ・多様なライフスタイルに対応した商品を拡充（アスレドロン、BODY WILD、Tuché他）
大規模な自然災害やパンデミック	・大規模地震や台風、洪水などの自然災害による生産・物流拠点、商業施設の被災 ・社会生活の変化による事業構造の行き詰まり ・サプライチェーンの混乱による原料調達困難			長期	● 多様な人材が活躍する組織風土づくり	● D&Iの推進（女性活躍の推進など） ・くみん認定取得（2023年度） ・女性管理職比率：6％ ・女性社員比率：35％ ・男性育休取得率：78％		● 女性管理職比率25％以上の実現 ● 採用における女性比率50％の継続 ● 育児・介護支援の確立 ● エンゲージメント改善による生産性向上・業績改善 ● 戦略実現のための多様な人材の獲得 ● コーポレートブランド認知度の向上 ● サプライヤーとの共生共栄 ● 人権や生物多様性を前提とした取引 ● 海外工場での生産性、品種対応力の拡大 ● 現地特性、ニーズに合わせたカスタマイズ生産対応力 ● あらゆる国の人々が安心して働ける体制の整備 ● 自動化技術、デジタル・AI技術の追求による生産性向上
法令など社会的ルールの厳格化	・知的財産などさまざまな訴訟提起によるブランド価値の損失 ・品質基準の変更による製品・サービスの見直し ・法令違反の発生による事業活動の停止	QOLの向上に貢献する事業の拡大	人間尊重のDNAが生み出す人的資本経営	中期	● 働き方改革による意識・業務改革の推進	● 人権尊重に関する取り組み ・外国人技能実習生の実態把握に関する自社アセスメント国内工場6社実施、外国人技能実習生受け入れの製造委託先15工場へのセルフチェック実施 ・サプライヤーアセスメント全関連事業119社への実施	● 女性管理職比率25％以上の実現 ● 採用における女性比率50％の継続 ● 育児・介護支援の確立 ● エンゲージメント改善による生産性向上・業績改善 ● 戦略実現のための多様な人材の獲得 ● コーポレートブランド認知度の向上 ● サプライヤーとの共生共栄 ● 人権や生物多様性を前提とした取引 ● 海外工場での生産性、品種対応力の拡大 ● 現地特性、ニーズに合わせたカスタマイズ生産対応力 ● あらゆる国の人々が安心して働ける体制の整備 ● 自動化技術、デジタル・AI技術の追求による生産性向上	
国内労働市場の縮小	・労働力人口の減少による人材確保が困難 ・人員構成の固定化および逆ピラミッドによる柔軟な発想力の不足 ・女性社員比率が低いことによる多様性の不足	企業価値の進化		短期	● デジタルの積極活用によるプロセス変革（生産、販売、開発、物流、関係などすべて）	● 人事制度の構築、職場環境の改善 ・エンゲージメントスコア：62点 ・年休取得率：73％ ● デジタルツールを活用した働き方改革実践、オフィス環境改善による生産性向上（労働、生産、品質、コストなど）		● 食品廃棄ロス削減フィルムのラインアップ拡大 ・Scope1+Scope2：35％以上削減（2030年度） ・Scope3のサプライチェーン全体での削減 ・Scope3を主体としたCO ₂ 削減 ● プラスチック全工場での廃プラ排出ゼロの実現
人権意識の高まり	・人権や労働環境基準の検証不足による人権侵害の可能性	環境に配慮した経営		長期	● 環境に配慮した経営	● CO ₂ 排出量の削減 ・Scope1+Scope2：108,316t 37.2％以上削減（2013年度比） ・Scope3：393,953t ・2024年度エネルギー原単位削減率：対前年0.2％増加（国内） ・「CDP2024」の気候変動分野でBスコア取得		
IT化の進展	・サイバー攻撃やウイルス感染などによる重要情報漏洩 ・SNSを通じた誤った情報の拡散	サーキュラーエコノミーを主導するビジネスモデルの拡大	中期	● 経営資源の戦略的配分	● 成長事業、成長領域への経営資源の重点投資 ・環境関連投資：守山サーキュラーファクトリー及びESG関連投資71億円（2022～2024年度計） ・EO+SPA売上比率：26％ ・マッシュグループとの合弁会社「Ballelite」設立、新会社「SEESAY」設立	● ROE 10.0％以上、営業利益160億円の実現（2030年度） ● PBRの高水準維持 ● 社内収益改善体制の確立		
地球環境問題の深刻化	・原材料、エネルギーコストの上昇 ・炭素税の導入などの法律・規制に関するリスク	資本コスト重視の経営	長期	● 低成長事業および分野の再構築	● ROE 5.3％ ・GVA -9億円（対2021年度18億円改善） ・電子部品事業の譲渡完了、アパレル生産／物流拠点の集約（中国、インドネシア等）、スポーツクラブの経営改善		● ROE 10.0％以上、営業利益160億円の実現（2030年度） ● PBRの高水準維持 ● 社内収益改善体制の確立	
海洋プラスチック問題に対する国際的意識の高まり	・使い捨てプラスチックに対する規制強化 ・プラスチック代替品の普及による売上減少		短期	● 資本効率の追求によるGVA黒字化				

グンゼ統合レポート2025 事業環境認識（リスクと機会・マテリアリティ） (PDF:1.5MB)

グンゼ統合レポート2025 全ページ (PDF:11.1MB)

サステナビリティ

[トップメッセージ](#)[グンゼのサステナビリティ](#)[環境](#)[社会](#)[ガバナンス](#)[ESGデータ関連](#)[イニシアティブへの参画・外部評価](#)[サステナビリティニュース](#)[統合レポート](#)

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



環境

気候変動の緩和と適応や、サーキュラーエコノミーの実現など世界的な地球環境目標達成に貢献する製品・サービスを提供するとともに、事業活動に伴う環境への負の影響が最小限となるよう努力しています。

マネジメント >

環境配慮製品の提供と事業活動における環境負荷の低減に努めています

気候変動対応 >

気候変動を大きな課題と捉え、グンゼグループ全体で脱炭素に取り組んでいます

資源循環 >

プラスチック分野を筆頭に全社で「3R+Renewable」を推進しています

化学物質管理 >

お客さま、従業員、環境を守るため、化学物質の適正な管理に努めています

廃棄物削減 >

廃棄物の抑制と有効活用により廃棄物量の削減を進めています

水資源の保全 >

水の効率利用および循環利用等による水資源の保全に取り組んでいます

生物多様性 >

社会や地域における環境保護や生物多様性の保全活動を推進しています

環境配慮製品・技術 >

環境配慮の製品・技術を創出し、持続可能な社会の実現を目指します

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんにちは！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業テヘロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報



マネジメント

方針・基本的な考え方 ▾ 体制 ▾ 環境マネジメントシステム ▾ 取り組み ▾

方針・基本的な考え方

グンゼ環境憲章

私たちは、かけがえのない地球を次世代、未来へと受け継いでいく責任を深く自覚し、真に豊かで持続的発展が可能な地球社会を実現するため、一企業市民として環境問題に積極的に取り組み、環境への負荷の軽減に努め、環境を維持、保全していかなければならない。
このため、私たちは、環境に対する社会的責務を認識し、環境問題に取り組むべく、環境基本理念と行動指針を定める。

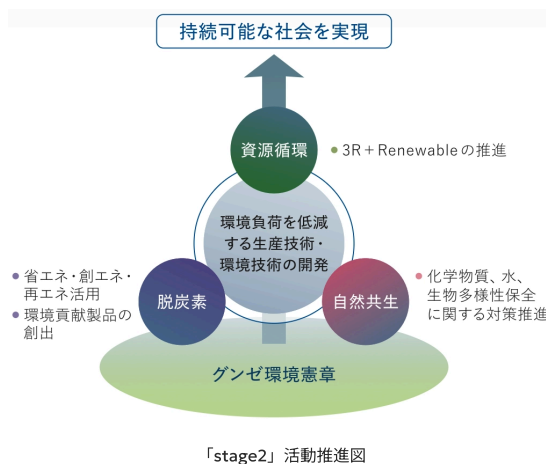
基本理念

私たちは、環境に優れた製品・サービスの提供を通じて、恵み豊かな地球社会の発展に貢献する。
また、私たちは自然の恵みに大きく依存している事実を正しく理解し、生物多様性の保全に配慮した地域環境との共生に努める。

行動指針

事業活動の全ての場面において環境負荷の低減に努め、関係する国内外の生物多様性、地域社会に及ぼす影響などに配慮する。
法・条例の順守はもとより、自主管理基準を設定し、環境管理水準の向上に努める。
資源、エネルギーの効率的利用をはかり、温室効果ガスの排出抑制に努める。
廃棄物の発生量の低減に努めるとともに、回収・再利用化の推進を行い、資源循環に努める。
環境に優れた製品の研究開発、および環境負荷を低減する生産技術、環境技術の開発に努める。
構成員の環境意識の向上をはかり、地域社会の一員として環境保全活動に協力、貢献する。
海外事業の展開において、環境への配慮と環境技術移転に努める。
万一、事故等による問題が発生した場合には、迅速に環境負荷の最小化に努める。

1997年5月制定
2010年5月改定



体制

サステナビリティ推進体制

グンゼグループでは、持続可能な社会を構築することを社会的な責任と考え、サステナビリティのある経営を目指し、中長期的テーマと主要推進事項に取り組みます。
また、サステナビリティ委員会を設置し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現および企業価値向上を目指します。
中長期的テーマ及び主要推進事項は、サステナビリティ委員会の審議を経て、変更又は追加されることがあります。

環境マネジメントシステム

グンゼグループでは、各製造拠点や研究所の活動による地球および地域環境への環境影響をリスクと機会の側面で抽出・特定し、それぞれの維持・改善を目的とした環境マネジメントシステム（ISO14001など）を構築し、運営しています。

環境マネジメントシステム外部認証取得状況はこちら

取り組み

サステナビリティ委員会

グンゼグループは、経営理念及び経営方針にもとづき、自社事業活動を通じて持続可能な社会の実現及び企業価値向上を目指すため、サステナブル経営の方向性を定めて推進することを目的とし、サステナビリティ委員会を設置しています。

サステナビリティ委員会では、サステナビリティに関する基本方針及び主要推進事項、組織及び体制の整備、計画の状況確認並びに情報の集計及び管理、グンゼグループの活動の社外に対する開示、全社的な教育研修活動の計画及び実施について審議し、決定いたします。サステナビリティ委員会の委員長は、サステナビリティ担当取締役又は執行役員が担い、委員は本社部門と部門長を中心に構成され、原則として4半期に1回開催いたします。

自然資本への取り組み

グンゼは、製造現場における環境への配慮として、CO₂排出量の削減、大気汚染防止、水質汚濁防止、化学物質管理に取り組んできました。

CO₂排出量削減においては、コージェネレーションシステム（発電と排熱を同時に利用する設備）や、多くの工場におけるEMS（エネルギー管理システム）の導入により、電力を中心としたエネルギー使用の可視化を実現し、省エネ活動を強化してきました。これによりエネルギー効率が向上し、自然環境への負荷軽減に寄与しています。

また、自然資本である太陽光を活用したソーラーパネルによる創エネ活動にも注力しており、FIT（再生可能エネルギー固定価格買取制度）を活用して得た環境価値（トラッキング付き非化石証書）を買い戻すことで、脱炭素化を推進しています。

加えて、重油からLNGなどへの燃料転換も進め、大気汚染物質の排出削減にも取り組んでいます。

サステナビリティ

トップメッセージ

グンゼのサステナビリティ

環境

社会

ガバナンス

ESGデータ関連

イニシアティブへの参画・外部評価

サステナビリティニュース

統合レポート

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告

重要なお知らせ

ご利用条件について

プライバシーポリシー

ソーシャルメディアポリシー

お問い合わせ窓口

サイトマップ

環境 >

社会 >

ガバナンス >

マネジメント >

気候変動対応 >

資源循環 >

化学物質管理 >

廃棄物削減 >

水資源の保全 >

生物多様性 >

環境配慮製品・技術 >

気候変動対応

方針・基本的な考え方

目標・実績

体制

TCFD提言に基づく情報開示

取り組み

外部との協働

方針・基本的な考え方

サステナブル経営の主要推進事項である「気候変動への対応」としては「脱炭素」による環境負荷低減の全社的な取り組みを推進し、社会的価値と経済的価値の両立を目指します。

2030年までにCO₂の排出量をScope1+2で合計35%以上削減（2013年BM比）を目標として、省エネ、創エネ、再エネ活用に努め、さらにエネルギーイノベーションの技術動向へも着目し、新技術の導入検討を進めることで、事業活動による環境負荷の低減を推進していきます。

また、環境配慮製品の創出へも積極的に取り組み、社会全体の脱炭素につなげていきます。

環境配慮製品についてはこちら >

目標・実績

CO₂排出量削減の数値目標

指標	2030年度
CO ₂ 排出量削減率 (Scope1+2)	35%以上削減 (2013年度対比)

実績はこちら >

体制

Gunzeは気候変動対応をサステナブル経営の主要推進事項の1つに設定し、ガバナンス体制を構築、推進しています。

体制図はこちら >

TCFD提言に基づく情報開示

Gunzeグループは、2021年10月に金融安定理事会(FSB)の「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言」に賛同を表明しました。

TCFDでは、気候変動に関する検討体制や、気候変動が中・長期の企業価値に及ぼす影響、および気候変動によるリスク・機会の特定について評価するための指標と目標、さらにこれらの検討内容が企業経営にどのように反映されるかなどの開示が求められています。

①ガバナンス

気候変動に関するガバナンスは、サステナビリティ推進体制に組み込んでいます。

サステナビリティ推進における会議体・組織の役割

会議体・組織	役割
--------	----

サステナビリティ委員会 (原則四半期に一回開催)	サステナビリティに関する基本方針や対応方針の審議・決定
リスクマネジメント委員会 (原則四半期に一回開催)	サステナビリティに関するリスク事象の発生、採られた、または採られる予定の措置、リスク予防
担当部門	サステナビリティ課題に合わせて主導的に当該課題への対応推進、リスクと機会を特定 (環境戦略推進室：気候変動を中心とした環境課題、人事総務部：グンゼグループの人的資本など)

②リスク管理

気候変動に関する主なリスクは、サステナビリティ推進体制を基本とし、重要な課題は「サステナビリティ委員会」「リスクマネジメント委員会」から経営執行会議に報告の上、取締役会に報告されることにより全社リスクを統合・管理しています。

③戦略

グンゼの主要事業として「プラスチックフィルム分野」と「アパレル（インナーウェア）分野」をシナリオ分析実施対象事業に選定し、短期～長期におけるリスクの特定とその対応策の検討および機会の抽出を実施しました。

今回は、1.5℃目標が世界的に主流になっていることを踏まえ、1.5℃目標に対応した分析を実施しました。具体的には、IEA「World Energy Outlook」で示されているNZE2050^{※1}などの「脱炭素シナリオ（1.5℃シナリオ）」と、IPCCAR5のRCP8.5シナリオ^{※2}などを踏まえた「温暖化進行シナリオ（4℃シナリオ）」を始めとした政府や国際機関が発行した将来予測に関するレポートなどを参考に、2つのシナリオを設定し、脱炭素経済への「移行リスク」および温暖化進行に伴う「物理リスク」の分析を行っています。グンゼグループは、今後も継続的にシナリオ分析の内容を見直し、戦略のレベルアップを図ります。

④指標と目標

2019年に制定したプラスチック資源循環基本方針に基づき、3R+Renewable^{※3}を積極的に推進していますが、新たな資源循環技術の開発を進め、アパレルなど全事業セグメントへ展開し、推進を強化しています。

また、グンゼグループの重点取り組みとして、プラスチックフィルム分野での資源を循環させる「サーキュラーファクトリー化計画」を強力に推進しています。

さらにプラスチックカンパニーでは、ごみゼロプロジェクトが、基幹工場である守山工場において各形状の全品種リサイクル化の体制が完了し、2024年度廃プラ排出量を70%削減しました。

今後は廃プラ排出ゼロの早期達成を目指し、リサイクル社内循環スキームの確立を海外工場へ推進していきます。

そして、シナリオ分析により得られた、リスクと機会に対応した製品の開発も積極的に進めています。

昨年、上市したプラスチックフィルム分野の「GEOPLAS[®]」は、確実に商権を広げました。また、猛暑・暖冬にも対応したアパレル分野の「アセドロン」は、累計出荷枚数が200万枚（2025年7月現在）を突破し、年間を通じてお客さまに支持される商品に成長しました。

これらの取り組みにより、2024年度CDP^{※4}質問書の気候変動分野において、「自社の環境リスクや影響について認識し、行動している」と評価されたことを示す「B」スコアに認定されました。

全世界で24,800社、日本企業は2,100社以上がCDPの質問書を通じて情報開示に応じており、その中で当社が認定された「B」スコアは8段階中、上から3番目となります。

※1 NZE2050：Net Zero by 2050 IEAによる「World Energy Outlook 2020」にて示されたシナリオの1つ。パリ協定の目標を上回る1.5℃シナリオにあたり、2050年までにCO₂排出量ゼロをめざすシナリオ。

※2 RCP8.5シナリオ：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次評価報告書（AR5）統合報告書（SYR）の政策決定者向け要約 図SPM6の2100年に2.6℃～4.8℃の気温上昇が予想されているシナリオ。

※3 3R+Renewable：3RはReduce（リデュース=製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること）、Reuse（リユース=使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること）、Recycle（リサイクル=廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること）の頭文字Rを指し、これにRenewable（リニューアブル=再生利用）を加えたもの。

※4 CDP：気候変動など環境問題に関心を持つ世界の機関投資家などの要請を踏まえ、企業や自治体の環境情報開示のための世界的なシステムを運営する非営利組織。

気候変動によるリスク／機会への対応

リスク項目		リスク	時期	財務 インパクト 影響度	プラスチックフィルム 分野	インナー ウェア 分野	リスクへの対応と機会
移行リスク (1.5℃)	炭素価格	各国で排出権取引や炭素税が導入され、操業コストが上昇	中期 ～長期	大	○	○	リスク対応: 再エネ投資拡大や低炭素エネルギーへの移行により炭素税の財務影響を抑える
	各国のプラスチック規制	規制強化によるバイオ素材やリサイクル素材の導入により原材料価格が上昇	中期 ～長期	大	○	○	リスク対応: 廃プラの分解・再利用技術確立し、顧客ニーズをとらえた製品提供を実施
	エネルギーミックスの変化 (電力価格)	電力会社の再生エネ比率が上昇し、電力価格が上昇	中期 ～長期	小	○	○	リスク対応: 消費電力の少ない機器の利用、自家消費型太陽光発電の設置を推進する
	重要商品の価格増減	原油由来の合成繊維の製造コストが上昇	中期 ～長期	大		○	リスク対応: 原油由来から自然由来素材への転換を推進
	顧客行動の変化	環境負荷影響度に応じて購買決定する消費者の増加	中期 ～長期	中		○	リスク対応: エシカル消費に対応した環境配慮型商品の販売を拡大

物理リスク (4°C)	気温上昇 (綿花栽培量)	気温上昇により綿花価格が上昇	中期 ～長期	中		○	リスク対応: バイオマテリアル、 リサイクル素材の開発
	気温上昇	—	短期 ～長期	中	○	○	機会: 気温上昇に対応した商品 (シュリンクフィルム、肌着)

※時期：短期1～2年、中期3～5年、長期6～10年
※2050年の財務インパクト影響度：小=1億円未満、中=1億～10億円未満、大=10億円以上

CO₂削減実績と今後の取り組み

① Scope1、2の実績について

2024年度の排出量の実績は、合計108,316t-CO₂（対前年比93.8%）となり、2013年度比で37.2%の削減を達成、目標の「2013年度比28%以上削減」を上回りました。
基本方針として、省エネの推進および再エネの導入拡大に取り組んでおり、2024年度は事業所の閉鎖などによる削減に加え、EMS（エネルギー管理システム）を活用した省エネ活動促進や、福島・宇都宮・江南における社内FIT太陽光発電設備の環境価値の買い戻し、新設事務所・工場（江南・綾部）への太陽光発電設備導入を進めました。
今後も海外事業所への太陽光発電設備の展開や、次世代型太陽光発電設備の導入など、再エネ比率の向上施策を推進していきます。

② Scope3の実績について

2024年度の排出量の実績は393,953t-CO₂となりました（前年比約0.8%増）。
Scope3はScope1、2以外のサプライチェーン全体のCO₂排出量のため、全事業の原材料調達・販売の増減の影響を受けます。
今回アパレル事業の原材料調達・販売は減少しましたが、機能ソリューション、メディカル事業は増加し、これを主な要因として、Scope3排出量が微増しています。
V30-2（2025～2027年度）においては、資源循環（3R+Renewable）の全社展開をさらに進め、削減効果の高いリデュース（使用資源の削減）、リサイクル（資源の高度循環）を重点的に推進することで、事業拡大に伴うScope3への影響を最小限に抑える事業基盤づくりを進めます。
さらに今後海外事業所におけるScope3の影響度も確認していきます。

CO₂削減実績（Scope1、2、3）

		2024年度	対2023年度比		対2013年度比	
		排出量（t-CO ₂ ）	削減量（t-CO ₂ ）	削減率（%）	削減量（t-CO ₂ ）	削減率（%）
実績	Scope1+2	108,316	7,201	6.2%	64,193	37.2%
	Scope1	31,051	3,681	10.6%	21,262	40.6%
	Scope2	77,265	3,520	4.4%	42,931	35.7%
	Scope3	393,953	-3,097	-0.8%	—	—

※ Scope1、2は国内・海外のグンゼグループ全事業所を対象に算定（Scope2の算定はマーケット基準）
※ Scope3は国内のグンゼグループ全事業所を対象に算定

取り組み

グンゼグループの環境技術、取り組みについて

気候変動への対応（省エネ、創エネ、再エネ活用）

- ・エネルギーの使用状況や効率を見える化するシステム構築による省エネの推進
- ・ボイラー、空調機などのユーティリティ設備の高効率化
- ・新規建築物の高断熱化、高気密化による省エネ化（ZEB認証、CASBEE認証を取得）
- ・再生可能エネルギーの活用（計画的な太陽光発電の設置、FITの活用）
- ・環境負荷の少ないエネルギーへの転換（重油→LPG・LNG・電化など）

江南工場（愛知県江南市）のZEB[※]オフィス（エンブラ分野）

2023年2月、お客さまのこちよさや、従業員の働き甲斐・働きやすさにつなげたいという想いと考えが反映された、工場の顔となる新事務所が完成しました。
旧事務所は1959年竣工の、歴史を感じる建物でしたが、経年による不具合も出てくる中で、拡大する事業規模や取り扱い品種への対応として、スペースの確保・拡張が急務となっていました。そこで、生産エリアを拡張するために、工場棟にある会議室・事務所を集約し、事務所棟の建て替えを決定しました。建て替えに際しては、単に集約するだけでなく、デザインや快適性に加え、環境にも配慮する施設を目指しました。
建築デザインは、グンゼの歴史的建物の意匠を参考とした今昔融合の建物外観とし、調光・木目調などのアクセントも取り入れ、快適で過ごしやすい空間を演出しました。室内には、利便性・快適性に加えて、食堂のリニューアルにも注力。さまざまなスタイルの座席や、有名店とのコラボメニュー提供など、食事がリラックスできて楽しくなる工夫を行っています。また、ミーティング使用なども想定したレイアウトも、従業員のコミュニケーション向上に一役買っています。さらに環境配慮については、各種の省エネ施策を織込み、ZEB認証を取得することができました。
さまざまな特長、施策をちりばめた新オフィスによって、従業員のモチベーションアップを図り、お客さまにもグンゼの企業姿勢を理解いただくとともに、「環境に配慮した経営」を実践し、事業の持続的成長につなげていきます。





江南工場のZEBオフィス



快適で過ごしやすい空間を演出

[エンジニアリングプラスチェックサイトへ](#)

再生可能エネルギー活用によるCO₂排出量削減の取り組み

グンゼは、事業活動における環境負荷の低減だけでなく、再生可能エネルギーの活用拡大によるCO₂排出量削減にも精力的に取り組んでいます。

現在活用している再生可能エネルギーは、太陽光発電によるものです。

事業拠点である福島県本宮市、愛知県江南市、栃木県下野市に設置した太陽光発電設備ではFIT※1を活用し、発電した分の「環境価値」＝トラッキング付非化石証書※2を取得し、それを買い戻すことで自社の脱炭素に活用しています。

また2023年竣工の滋賀県守山市のサーキュラーファクトリーでは建屋の屋根全体に太陽光パネルを配置し、工場内の電力の一部として使用しています。

これらの設備等により、当社の現在の再生可能エネルギーの利用割合は、国内Scope1,2で見ると5%程度となっています。

さらに、このウエイトを向上させるため、現在建設中の愛知県江南市の新工場および京都府綾部市の新工場にも太陽光発電設備を導入予定です。

また、その他の設置困難な事業所においても今後の太陽光パネルの新技術導入（軽量化等）の検討を進めていきます。

※1 FIT：「再生可能エネルギー固定価格買取制度」の略称です。

この制度は、再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど)を使って発電した電気を、国が定めた固定価格で電力会社が一定期間買い取る仕組み。

※2 トラッキング付非化石証書：従来の非化石証書に対し、発電所の所在地などの情報を紐付けたものを指します。

トラッキング付き非化石証書を購入すると、非化石証書に付与された情報を通じて、どのような過程で再エネ電力が作られているかを追跡することが可能。



グンゼ福島太陽光発電設備

外部との協働

グンゼでは、気候変動問題の解決には、お客さま、お取引先さま、地域社会との協働が欠かせないと考えています。

私たちは、多様なステークホルダーの皆さまと対話を重ね、カーボンニュートラルの実現に向けて、取り組んでいます。

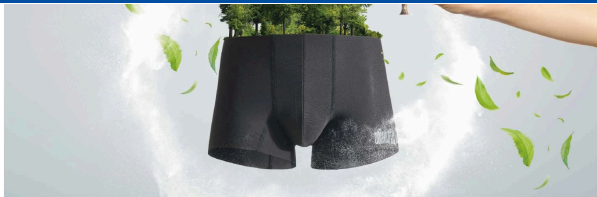
また、グンゼグループは、ステークホルダーと連携しながら気候変動対策を推進、その活動を積極的にサポートし、より良い社会の実現を目指します。

CO₂削減と売上の両方に貢献できるカーボンネガティブ製品

緑化事業におけるCO₂吸収・固定量が、アパレル事業で商品展開するBODYWILDの「立体成型3D-MADEボクサー」と「カットオフ®ボクサー」の生産で発生するCO₂排出量よりも上回ることを、九州大学都市研究センターとの産学共同プロジェクトにより明らかにしました。これにより、第三者機関である一般社団法人計量サステナビリティ学機構による「CARE認証」※を取得し、環境貢献できるカーボンネガティブ製品として商品化しました。

※ CARE認証は、製品やサービスがつくられる過程で労働環境や自然環境に適切な配慮がされているかどうかを、目に見えるかたちにてできる世界初の取り組み。

CARE認証には人権と環境の枠があり、グンゼはCARE認証（ENVIRONMENT：環境）を取得。

[詳しくはこちら >](#)

ESGファインانس

当社は「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」という創業の精神のもと、サステナビリティ意識をもって社会貢献することを重んじてまいりました。

新中期経営計画「VISION 2030 stage1」では、基本戦略の1つとして「環境に配慮した経営」を掲げており、事業活動を通じて環境負荷を低減していく全社的な取り組みをさらに強化してまいります。

取り組みの推進にあたっては、必要資金の調達についてESGファインانس^{※1}を積極的に活用し、レポートイングなどを通じて、当社の活動の透明性を高めてまいります。

※1 ESGファインانس

資金使途が環境（E）・社会（S）、ガバナンス（G）課題の解決に寄与する投資に限定された資金調達手段。

グリーンファイナンス・フレームワーク

当社では2030年までに120億円の環境関連投資を予定しており、これらを資金使途としたグリーンファイナンスを実行するため、以下のとおり「グリーンファイナンス・フレームワーク（※2）」を策定いたしました。

グリーンボンド・ローン原則およびガイドラインの適合性の第三者評価については、株式会社日本格付研究所（以下、JCR）からの評価を受け、「JCRグリーンファイナンス・フレームワーク評価」の最上位である「Green1（F）」を取得しております。

また、本フレームワークにおける「サーキュラーファクトリープロジェクト^{※3}」は、評価取得時点において、本邦初の資源循環型工場の取り組み全体での評価取得となっております。なお、フレームワークの策定および第三者評価取得の助言などを通じて、グリーンファイナンスの支援を行うストラクチャリング・エージェントとして、野村證券株式会社を選定しております。

※2 グリーンファイナンス・フレームワーク

グリーンボンド・ローン原則/ガイドラインに基づき、グリーンファイナンスによって調達する資金の

①資金使途

②プロジェクトの評価及び選定のプロセス

③調達資金の管理

④レポートイングについて当社の方針をまとめたもの

※3 サーキュラーファクトリープロジェクト

プラスチックフィルム事業における、リサイクルに適した製品開発と再原料化技術の確立および廃プラスチックの再利用による廃棄物を出さずに資源循環を実現する工場プロジェクト。

当社グリーンファイナンス・フレームワークについては以下をご参照ください。

[グリーンファイナンス・フレームワーク](#)  (PDF:1.4MB)

JCRの評価については以下をご参照ください。

[JCR第三者評価（セカンドパーティ・オピニオン）](#)  (PDF:1.9MB)

グリーンジェネラルシンジケートローン

サーキュラーファクトリー建設などの必要資金調達のため、このたび、株式会社三菱UFJ銀行をアレンジャーとして、グリーンファイナンス・フレームワークに準拠したグリーンジェネラルシンジケートローン^{※4}の契約を締結いたしました。

※4 グリーンジェネラルシンジケートローン

新規取引金融機関も含め、幅広い金融機関からなるシンジケート団が同一の契約書に基づいて行う融資。調達資金の使途は、環境課題の解決に寄与する投資に限定される。

グリーンジェネラルシンジケートローン概要

契約締結日	2022年9月30日
アレンジャー/エージェント	株式会社三菱UFJ銀行

	南都銀行
組成金額	45億円
借入期間	2022年10月5日～2026年10月5日（4年間）
資金使途	サーキュラーファクトリープロジェクト（守山工場）： CASBEE※ ⁵ Aを取得した建屋建設 エネルギー効率が改善される新設ライン設置 グリーンビルディング： BELS※ ⁶ 5つ星およびZEB※ ⁷ 認証を取得した江南工場事務所建設

※⁵ CASBEE（建築環境総合性能評価システム）

省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮や室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価し、格付けする手法。5段階でランク分けされる。一般財団法人住宅・建築SDGs推進センターが第三者機関による認証制度「CASBEE評価認証制度」を実施している。

※⁶ BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）

国土交通省が定めた「建築物の省エネ性能表示ガイドライン（建築物のエネルギー消費性能の表示に関する指針）」に基づく第三者認証制度の一つ。制度運営主体は一般社団法人住宅性能評価・表示協会。省エネルギー性能を客観的に評価し、5段階の星マークで表示。

※⁷ ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）

快適な室内環境を実現しながら、再生可能エネルギーによる創エネルギーと、断熱性を高めた構造やセンサーなどを駆使した省エネルギーにより、建物で消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。

レポート

調達した資金を完済するまで、年次にて、資金充当状況および環境改善効果をこちらで公表いたします。

[グリーンローン年次レポート（2024年度）](#)  (PDF:380KB)

[グリーンローン年次レポート（2023年度）](#)  (PDF:462KB)

[グリーンローン年次レポート（2022年度）](#)  (PDF:490KB)

関連リンク

[三菱UFJ銀行のリリースのリンク](#) 

[太分銀行のリリースのリンク](#) 

[滋賀銀行のリリースのリンク](#) 

[筑波銀行のリリースのリンク](#) 

[グンゼサステナブルレターvol.1プラスチック資源循環戦略編](#)  (PDF:549KB)

[グンゼ江南工場新事務所棟において『ZEB』認証を取得](#)

サステナビリティ

トップメッセージ 	グンゼのサステナビリティ 	環境 	社会 
ガバナンス 	ESGデータ関連 	イニシアティブへの参画・外部評価 	サステナビリティニュース 
統合レポート 			

[◀ サステナビリティトップへ](#)

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績



- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

- 統合レポート
- IRニュース

採用情報
- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



資源循環

方針・基本的な考え方 ▼ 目標・実績 ▼ 取り組み ▼ 外部との協働 ▼

方針・基本的な考え方

「資源循環」としてはプラスチック分野を筆頭に全社的な「3R+Renewable」を推進していきます。
「3R+Renewable」の中でも環境負荷低減効果の高い「リデュース（使用資源の削減）」、「リサイクル（高度な資源循環）」に着目し、事業への投入資源の効率化（リデュース）及び再生材化（リサイクル）を進めることで、投入バージン資源を削減し、事業活動による環境負荷の低減を推進していきます。

プラスチック資源循環基本方針

海洋プラスチック問題に対する国際的な意識の高まり、新興国におけるゴミ問題の深刻化から使い捨てプラスチックに対する規制強化の流れが加速し、その対応は2015年に国連で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）においても求められている。国際的な取組みが加速している海洋プラスチック問題に対して、プラスチックフィルム包装材料等を製造販売している事業会社としての社会的責任を認識し、本方針を制定する。

グンゼは、プラスチックの3R + Renewable[※]を積極的に推進し、廃棄量を削減することで、
プラスチック資源が循環する社会の実現に貢献する。

- (1) プラスチックの減量化・再利用を推進する。
- (2) 分別・リサイクルし易い製品設計と再生原料の積極的使用により、効果的・効率的なプラスチック資源循環に貢献する。
- (3) 植物由来原料による製品開発を行い、石油化学原料の使用量削減に貢献する。
- (4) 廃棄物の適切な管理と環境負荷を低減する生産活動により、つくる責任を果たす。

※3R + Renewable

3Rは、Reduce（リデュース=製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること）、Reuse（リユース=使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること）、Recycle（リサイクル=廃棄物を原材料やエネルギー源として有効利用すること）の頭文字 R を指し、これにRenewable（リニューアブル=再生利用）を加えたもの。

目標・実績

廃プラ排出量の削減実績（プラスチックフィルム分野）

	廃プラ排出量
2024年度	360t
2020年度	1016t

取り組み

生産技術のイノベーション

プラスチックグループの主力工場である守山工場では、主にペットボトル飲料や洗剤容器のラベルに使用される収縮フィルムを生産しています。
2019年に生産工程で発生した生産屑は年間約1,200トンで、その多くが廃棄処分されていました。そこで私たちは生産屑のゼロ化、いわゆる「ごみゼロ」の実現を目標に、再原材料化に着目し、新たなリサイクル設備の導入と、生産屑削減に注力しました。
また、こうした活動を守山工場に限定せず、国内2社、海外3社工場にも展開すべく、オンラインでのごみゼロ会議を繰り返し行った結果、2023年度生産屑は400トンまで圧縮できました。

守山工場では、2024年度には「ごみゼロ」を達成し、並行して、得意先で発生する生産屑を回収して原材料に戻すPIR^{※1}を進めています。

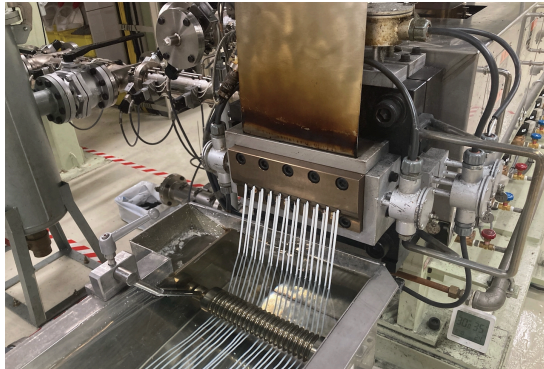
将来的には廃プラの市中回収を行うPCR^{※2}も、得意先や行政、地域の協力を得ながら進めていきます。

また、フィルムのリサイクル方法は多様で、工場内で発生した印刷前フィルム屑は、再資源化のハードルが比較的に低いものの、得意先の印刷メーカーで発生したフィルム屑はインキを取り除く工程（脱墨）が必要なため、工数も難易度も上がります。

すでに印刷済フィルムの脱墨による再資源化は実現可能レベルにありますが、コストに課題があります。今後も社会性と経済性の両立を目指し、目標達成に取り組んでいきます。

※1 PIR：Post Industrial Recycle。生産プロセスで発生する廃棄物の回収、再資源化

※2 PCR：Post Consumer Recycle。市場で使用済みの廃棄物の回収、再資源化



生産屑の再原料化装置

商品開発のイノベーション

グンゼは、異種積層フィルムの開発をコア技術としています。

特に、ポリスチレン（PS）とポリエステル（PET）を積層したハイブリッド収縮フィルムは、高収縮性（美麗性）と剛性（薄膜化）という2つの特性を兼ね備えているため、ペットボトルにとどまらず、異形容器や耐熱性が弱いトイレタリー用品などにも広く採用されています。

グンゼは、「多種多様な原料を選択して加工すること」を強みとして、特徴あるフィルムを開発し、価値を創造してきました。

しかし、異なる複数の素材で構成されたフィルムを材料ごとに分離する場合、リサイクルの難易度が上がるため、材料単体で構成してリサイクルを容易にするモノマテリアルの流れが世界的に主流となりつつあります。

そのような状況でも、グンゼは、あくまで異種積層技術を活かすことを前提に、フィルムの分離再生技術を確立して、リサイクルの課題を解決したいと考えています。

2024年2月に異種分離の実験装置が完成し、今後は社内でのリサイクルに加え、お客さまのもとで発生した生産屑をフィルムに配合し、製品のリサイクル配合率を高めていきます。

すでにリサイクル原料を配合した製品を市場に投入しており、2022年度末には、リサイクル原料30%使用の「GEOPLAS® HCT3」を発売、2023年度末には、リサイクル原料含有5%で業界最軽量となる「GEOPLAS® HCX1」を発売しました。

後者はリサイクル比率が少ないものの、薄膜化技術によって材料を削減した結果、業界最軽量の製品となりました。

さらにリサイクル配合率を高め、2030年までには循環型原料100%の製品供給を進めます。

そして、守山工場をサーキュラーファクトリー®のモデル工場として、そのノウハウを他の生産拠点にも投入することで、「サーキュラーメーカー」に変革したいと考えています。



異種積層フィルムの分離実験装置



「GEOPLAS® HCX1」が採用された飲料

サーキュラーファクトリー®の理解促進活動（プラスチックフィルム分野）

2023年4月に、太陽光や地下水のエネルギー活用、プラスチック廃材を出さない「ゼロ・エミッション」の実現、さらにサステナブル製品の生産のため、約4年の構想期間を経て守山工場に「サーキュラーファクトリー®」が完成しました。2025年11月末までのおよそ2年半で、約420企業（団体）、約2,500名の見学者を受け入れています。コロナ禍で営業担当者は顧客への訪問回数が減り、お客さまの課題やニーズをヒアリングする機会も減っていましたが、この活動をきっかけに環境対応に対する具体的な提案が進み、各種協業プロジェクトにつながっています。また、オンラインによる海外顧客向け工場見学会も実施し、リアルタイムでの対応が好評を博しています。

守山工場の管理事務所には、工場見学者情報を掲示するホワイトボードがあり、ほぼ余白なく埋まった月間見学者表が日々更新されています。見学者は、お得意先さまが中心ですが、行政や地域関係者が多いのも特徴です。これまでは秘密保持の観点から、社外の方を工場に案内する機会はほとんどありませんでした。今回、新工場に通路まで設けて見学者を受け入れたのは、資源循環の取り組みは、一企業単独では実現が難しいためです。例えば、リサイクル回収は行政や地域関係者の協力が不可欠で、素材開発はリサイクル技術や廃棄物処理に長けた顧客の協力が必要です。資源循環の促進という意味では、業界全体を巻き込んでいく必要があります。そのため、敢えて新たな取り組みを開示する戦略に転換しました。

見学者の反応は好評で、顧客との資源循環型のモデルケースもできつつあり、こうした動きが今後の戦略に向けた足掛かりになると信じて、活動を続けていきます。



海外顧客に向けたオンライン説明



サーキュラーファクトリー®の外観

[プラスチックカンパニーサイトへ](#)[サーキュラーファクトリーに関する動画はこちら](#)

外部との協働

他社との協働によるラベルtoラベルの取り組み

ラベルtoラベルとは、使用済みのパッケージラベルから印刷されたインキを取り除き、新しいラベルに再生する技術です。ラベルが再びラベルに生まれ変わることで、資源循環と温室効果ガス削減に寄与します。

[詳しくはこちら](#)

サステナビリティ

[トップメッセージ](#)[グンゼのサステナビリティ](#)[環境](#)[社会](#)[ガバナンス](#)[ESGデータ関連](#)[イニシアティブへの参画・外部評価](#)[サステナビリティニュース](#)[統合レポート](#)[サステナビリティトップへ](#)

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業テロップ分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

化学物質管理

方針・基本的な考え方 ▼ 管理基準 ▼ 体制 ▼ 取り組み ▼ 外部との協働 ▼

方針・基本的な考え方

化学物質には多くの優れた機能があり、企業活動にとって有益なものですが、中には人や環境にとって有害なものも存在します。

そのような化学物質によって、人や環境が害を受ける可能性（リスク）を下げるために、当社では、より安全な物質への転換、工程の効率化、新技術の導入、循環利用などによる使用量の削減に取り組んでおります。

化学物質の使用過程においては、個々の化学物質の危険有害性と暴露量に基づく科学的なリスク評価を行い、その評価結果を踏まえて、より適切な管理となるよう改善を継続しています。

管理基準

当社グループでは化学物質に対し、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、労働安全衛生法等の国内規制、POPs等の国際条約、REACH、TSCA等の海外規制、物質の持つ発がん性情報等に基づき、Aランク（使用禁止）、Bランク（特定管理）、Cランク（使用量削減）およびDランク（排出量削減）、Eランク（その他）の5つの管理基準を設けています。

当社グループでの化学物質の採用および取り扱いの際には上記の法規制に基づく当社管理基準に則った対応を行っています。

体制

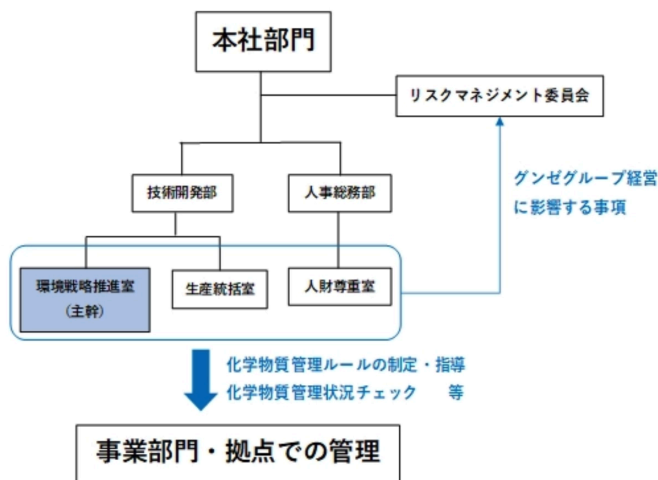
技術開発部長が当社グループの化学物質管理を統括し、技術開発部環境戦略推進室が中心となり、全社の化学物質管理体制の改善に取り組んでいます。

個々の化学物質管理は各事業場の管理部門が担当し、化学物質の危険有害性調査および対策を検討しています。

各事業場と技術開発部は連携しながら、人や環境に優しい事業運営に努めています。

技術開発部は、変化の激しい法改正情報の監視と把握と情報発信、それらを踏まえた当社グループ全体の化学物質管理基準の調整に取り組むとともに、当社グループ全体における化学物質管理水準向上のため、各事業場の化学物質管理者を対象として定期的な研修会を開催しています。

グンゼグループ化学物質管理体制



取り組み

2.場の安全管理（環境保全）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）への対応

当社グループでは、有害化学物質の排出量削減のため、事業所・工場ごとにPRTR法の対象となる化学物質の排出量・移動量を算定して届出を行い、毎年公表される全体の結果を分析して自社の排出量・移動量の削減に生かすように努めています。

排出量の削減は、製造設備・装置の改良や更新、運転条件の改良、当該物質の除去装置の設置、原料・副原料の代替などにより進めています。

大気汚染・水質汚濁防止に向けた取り組み

当社グループは、国・地方自治体などの環境規制や環境保全協定で定められた規制を順守しています。これに加え、事業所・工場などから排出するガスや水には必要に応じて法令よりも厳しい自主管理基準を設け、管理しています。

工程内に監視装置を設置するとともに、自社製のVOC処理装置をはじめとする環境保全技術を活用して排ガス・排水から有害な化学物質を取り除いています。さらに、当該化学物質の使用量・排出量を最小化できるよう製造工程の改善に努めています。

化学物質使用量削減取組の一例

繊維資材分野において、設備・工程の改善により、メタノールの総使用量の削減、揮発による環境排出量の削減ならびに作業環境濃度の低減を実現しました。

この改善では、資源消費量、化学物質の環境排出リスク、作業者のばく露リスク、の3つを同時に下げることができています。

外部との協働

エンジニアリングプラスチックス分野では、一般的には産業廃棄物となる有機系溶剤について、サプライヤーとの協業により再生・循環のリサイクルスキームを確立し、継続的な運用を行っています。

この取り組みは、環境中への有機溶剤の排出量削減だけでなく、社内の資源循環型リサイクルのモデルケースの1つにもなっています。

サステナビリティ

[トップメッセージ](#)[グンゼのサステナビリティ](#)[環境](#)[社会](#)[ガバナンス](#)[ESGデータ関連](#)[イニシアティブへの参画・外部評価](#)[サステナビリティニュース](#)[統合レポート](#)[◀ サステナビリティトップへ](#)

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチックス分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

[▶ 電子公告](#)[▶ 重要なお知らせ](#)[▶ ご利用条件について](#)[▶ プライバシーポリシー](#)[▶ ソーシャルメディアポリシー](#)[▶ お問い合わせ窓口](#)[▶ サイトマップ](#)

廃棄物削減

[方針・基本的な考え方](#) >[目標・実績](#) >[環境法令遵守状況](#) >[取り組み](#) >[外部との協働](#) >

方針・基本的な考え方

全社での「資源循環（3R+Renewable）」を進めるにおいて、「リデュース」により事業へ投入する資源を減らすことで廃棄物を削減し、それでも発生する事業活動からの廃棄物については「リサイクル」を進め、廃棄物の削減を推進していきます。

目標・実績

[廃棄物総発生量はこちら >](#)

環境法令遵守状況

2022～2024年度（VISION 2030 stage1）の3年間の、廃棄物に関する違反（許可・基準・規制違反他）はありませんでした。廃棄物処理法等の各種法令を順守し、適切な管理と処理を行っています。

取り組み

基本的な考え方として、グンゼグループの生産活動から発生する排出物を、水平リサイクルとカスケードリサイクルによって再生し、社内循環を目指します。

具体的な取り組みとしては、プラスチックフィルム工場から排出されるプラスチックのごみは、水平リサイクルとして再原料化を行っています。

水平リサイクルができないものは、他の事業部門で使用しているプラスチック製品（アパレル事業ではハンガーやフック、さらにマシン糸用のコーンなど）へのカスケードリサイクルを行い、社内での循環を進めます。

また、アパレル工場から排出される綿素材・合繊素材の端材を、カスケードリサイクルとして混抄紙(パルプに廃材を混ぜて抄いた紙)に再資源化し、社内でも活用しています。今後は、産業用資材として社外の製品でも幅広く使用いただく提案を推進していきます。

さらに、各工場で使用している化学物質（有機溶剤など）についても、社内外での循環を進めています。

エンブラ事業部では有機溶剤を水平リサイクルするシステム・仕組みが完成しており、社内循環による利益創出もすでに実践できています。

同時に、生産で使用する資源の量を抑制するリデュース、リユースもさらに推進するなど、グンゼグループは持続可能な未来企業として、総合サーキュラーメーカーへの変革を加速していきます。



サーキュラーコットンペーパーの活用例

外部との協働

詳しくはこちら

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

環境 >

社会 >

ガバナンス >

マネジメント >

気候変動対応 >

資源循環 >

化学物質管理 >

廃棄物削減 >

水資源の保全 >

生物多様性 >

環境配慮製品・技術 >

水資源の保全

方針・基本的な考え方

目標・実績

水リスク評価

取り組み

外部との協働

方針・基本的な考え方

水は、当社グループにおいて、アパレル分野での繊維の加工、ライフクリエイティブ分野での樹木の生育をはじめとして、さまざまな形で重要な役割を持っています。当社グループの生産拠点では、水環境を共有する地域社会との共生をはかるため、環境法令や地域の環境規制よりも厳格な自主基準を設定し、環境排水の汚染防止管理に取り組みます。

さらに、各拠点の地理的特性や水使用量に合わせ、水の効率利用および循環利用等による持続可能な水資源利用の取り組みを推進していきます。

目標・実績

最終放流水の水質はこちら >

水リスク評価

当社では国際環境NGOの世界資源研究所（WRI）が提供している「Aqueduct Water Risk Atlas」を活用し、製造拠点立地の水リスクを評価しています。当社グループの重要拠点が点在する中国および東南アジア地域が水リスクの高い地域であったことから、各拠点の情報を踏まえた詳細分析の検討を進めています。

取り組み

アパレル分野での繊維染色技術改善の事例

肌着、ストッキング、ミシン糸の原料となる繊維の染色加工では、着色や風合いの付与のため多量の水やエネルギーを消費します。当社では新たな染色技術を導入・確立することで、製品製造あたりの使用水量および消費エネルギー量を大きく削減し、恒久的な環境負荷低減を実現しました。この染色改善処方は毎年企画される新たな素材・カラーへの水平展開を着実に実施しており、環境負荷低減を継続的に進めています。

プラスチックフィルム分野における水資源の循環活用事例

2023年にサーキュラーファクトリー[®]（資源循環型工場）に転換したプラスチックフィルム分野の基幹工場である守山工場（滋賀県守山市）では、琵琶湖に近い立地を活かし、豊富な地下水を機械の冷却や空調に活用しています。使用後に温まった地下水は、暖房の補助熱源としても活用し、その後、温度を下げた状態で再び地下に戻すことで、限りある水資源を無駄にせず、地域環境にも配慮した持続可能な生産活動に取り組んでいます。

外部との協働

地域環境保全活動への参画

当社グループは、行政やNGOの環境保全活動に賛同しており、拠点近隣の水源保全活動へ積極的に参画しています。一例として、びわ湖や天橋立の清掃活動への参加協力などがあります。

「ゴミゼロ大作戦」への参加

守山市の木浜湖畔で「ゴミゼロ（530）大作戦」が行われ、市民団体や自治会、グンゼも参加しました。



サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

◀ サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
 - プラスチックフィルム分野
 - メディカル分野
 - エンジニアリングプラスチック分野
 - メカトロニクス分野
 - 繊維資材分野
 - 不動産関連分野
 - 商業テヘロッパー分野
 - スポーツクラブ分野
 - 環境緑化分野
 - エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
 - オンラインストア・直営店舗情報
 - カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



環境

社会

ガバナンス

マネジメント

気候変動対応

資源循環

化学物質管理

廃棄物削減

水資源の保全

生物多様性

環境配慮製品・技術

生物多様性

方針・基本的な考え方 目標・実績 外部との協働

方針・基本的な考え方

グンゼ環境憲章において、「私たちは自然の恵みに大きく依存している事実を正しく理解し、生物多様性の保全に配慮した地域環境との共生に努める」ことを基本理念とし、その具体的な行動として「構成員の環境意識の向上をはかり、地域社会の一員として環境保全活動に協力、貢献する」を指針に掲げています。

目標・実績

	モデルフォレスト実施回数	参加人数
2025年度	4回	135人
2024年度	4回	137人
2023年度	4回	125人
2022年度	4回	144人
2021年度	2回	73人
2020年度	1回	56人
2019年度	4回	162人
2018年度	4回	113人

外部との協働

京都モデルフォレスト運動

グンゼは、社団法人京都モデルフォレスト協会と「森林の利用保全に関する協定」を締結し、2010年7月から毎年4回程度、「京都モデルフォレスト運動 in 綾部」として、創業の地・綾部市内の締結地区で里山保全のボランティア活動を行っています。

モデルフォレストとは、1992年の世界地球サミットの際にカナダが提唱した持続可能な地域づくりの実践活動のことで、木材などの生産、地球温暖化の防止、土砂流出・崩壊の防止、水源の涵養、良好な景観の形成、健康の増進、生物多様性など、多面的な機能を持つ森林の整備・保全を目的としています。

京都モデルフォレスト運動 in 綾部は、コロナ禍のため活動が制限されていましたが、2022年度より再開しました。2018年からの取り組みとして、綾部市小畑地区において小畑城跡再生プロジェクトとして展望台の整備やヤマザクラ、モミジの植樹を実施しました。今後の活動では、自生のミツバツツジの群生化に向けた取り組みなど、小畑城を守る会、NPO法人里山ねっと・あやべ、京都府立林業大学校、京都府中丹広域振興局、綾部市農林商工部との協働で進めていきます。



第54回京都モデルフォレスト活動in綾部

[「第54回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施>](#)[「第53回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施>](#)[「第52回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施>](#)[「第51回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施>](#)

「御堂筋のイチョウ並木」に対する支援活動

グンゼは、2018年9月の台風21号による御堂筋（大阪市）のイチョウ並木の甚大な被害を受け、このイチョウ並木を健全に保存し、後世に伝えていくことを目的として、2019年12月に大阪市と「御堂筋におけるイチョウの供給等に関する協定」を締結しました。この協定に基づく要請に応え、2021年度は緑化事業を行うグンゼグリーン（株）を通じて、対象エリアとなる御堂筋（道頓堀橋南詰～難波区間）の植え替えが必要なイチョウ14本を提供しました。今後も継続的に提供を実施していきます。



御堂筋のイチョウ

サステナビリティ

[トップメッセージ](#)[グンゼのサステナビリティ](#)[環境](#)[社会](#)[ガバナンス](#)[ESGデータ関連](#)[イニシアティブへの参画・外部評価](#)[サステナビリティニュース](#)[統合レポート](#)[◀ サステナビリティトップへ](#)

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんにちは！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース





環境 >

社会 >

ガバナンス >

マネジメント >

気候変動対応 >

資源循環 >

化学物質管理 >

廃棄物削減 >

水資源の保全 >

生物多様性 >

環境配慮製品・技術 >

環境配慮製品・技術

[方針・基本的な考え方](#) > [取り組み](#) > [外部との協働](#) >

方針・基本的な考え方

グンゼグループは「環境に優れた製品・サービスの提供を通じて、恵み豊かな地球社会の発展に貢献する」ことを基本理念とし、環境に配慮した製品・技術の創出を推進しています。

取り組み

グンゼグループは、事業活動を通じて環境負荷を低減する取り組みを進めています。プラスチック分野では廃プラ削減や環境配慮型・循環型原材料への転換、事業部門間の垣根を超えたリサイクル商品開発など、資源循環に向けた活動を強化し、サーキュラーメーカーへの転換を目指しています。

リサイクルポリエステルなどの再生原材料の使用、オーガニックコットンやパッケージのバイオマス化など、サステナブルな原材料使用率向上を目指し、積極的に環境配慮型商品の拡充を推進していきます。

繊維資材分野

リサイクルポリエステル100%のミシン糸

[繊維資材サイトへ](#)

プラスチックフィルム分野

リサイクル原料比率30%のハイブリッド収縮フィルム

[プラスチックカンパニーサイトへ](#)

外部との協働

大阪・関西万博のメイン会場「静けさの森」への植栽

2025年に開催された大阪・関西万博では、メイン会場の「静けさの森」に植栽される高さ3〜10mに達するさまざまな樹木を500本以上お届けしました。

さらに、1970年日本万国博覧会（大阪万博）会場などに植えられていた1000本近くの樹木を、静けさの森へ移植する「命のリレー」では、繊維資材分野で開発した特殊素材の活用による新しい移植工法が採用されました。



1970年日本万国博覧会（大阪万博）会場から届ける樹木の移植準備

関連リンク

[環境対応型最軽量収縮フィルム>](#)

[肌にも地球にもやさしいオーガニックコットン混素材のインナー「KIREILABO Fitte」>](#)

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

◀ サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

社会

グンゼグループは、創業の精神である「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」を企業理念として掲げ、「社会にとって必要とされる企業」「社会とともに持続発展する企業」として社会に貢献してまいります。

人権 >

人間尊重を創業の精神とし、
会社をめぐる全ての人々の権利を
大切にしています

人的資本 >

全構成員が働きがいを感じ、
強みを最大限に発揮できる会社を
目指しています

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

誰もが属性や価値観に関わらず、
能力を発揮できる会社を目指しています

健康と安全 >

「安全で働きやすい快適な職場づくり」を
目指して活動を推進しています

品質保証・顧客責任 >

全ての事業で確かな品質保証を実現し、
お客様の信頼に応えています

サプライチェーン >

持続可能な社会の構築に向けて、
サプライヤー様とともに取り組んでいます

社会貢献 >

企業活動を通じて社会貢献に努め、
企業市民としての責任を果たしています

ステークホルダー コミュニケーション >

ステークホルダーとの対話を通じ、
持続的に企業価値の向上を図っています

社外からの評価（ESG関連） >

ESG評価の向上を目指し、
持続可能な企業活動を推進しています

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・
外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんにちは！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報



環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

社外からの評価（ESG関連） >

人権

方針・基本的な考え方 ▼ 目標・実績 ▼ 体制 ▼ 取り組み ▼ 外部との協働 ▼

方針・基本的な考え方

グンゼ人権方針

グンゼグループは、創業の精神である「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」ことを、企業理念として120年もの長い間受け継いできました。

この企業理念の中にある人権の尊重への取り組み姿勢を明確にするため、「グンゼグループ人権方針」をここに定めます。

1.私たちは、「国連グローバルコンパクト」(※1)や「ビジネスと人権に関する指導原則」(※2)などの国際規範を支持し、尊重します。

※1「国連グローバル・コンパクト」は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

当社は2020年に署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野からなる「国連グローバル・コンパクト10原則」を支持しています。

※2「ビジネスと人権に関する指導原則」は、2011年に国連において策定され、あらゆる企業に、人権の保護・尊重への取り組みを促すものです。企業に対して、国際社会に承認された人権により、基本的な諸原則にのっとり社会的・道義的な責任を十分に認識し、人権を尊重することを求めています。

2.私たちは、人権・人格・個性（多様性）を尊重し、事業活動において人種・国籍・性別等による差別を行いません。
また、児童労働、強制労働などをさせず、過酷な懲罰等の非人道的な行為を行いません。

3.私たちは、従業員との関係において、「サステナビリティ推進規程」で定めた取り組みを推進し、内部通報制度などの実効的な仕組みを通じて、人権に対する負の影響を把握し、適切に対処するよう努めます。

4.私たちは、「グンゼグループサステナブル調達方針」に基づき、サプライチェーンとの関係において、「グンゼグループサプライヤー行動規範」の遵守を再確認し、人権に対する負の影響を引き起こすリスクがないか情報を収集し、そのリスクの回避または軽減に取り組むよう求めます。

5.私たちは、人権尊重に関する知識が従業員に行き渡るよう教育を行い、正しい理解が進むように取り組みます。

目標・実績

自社アセスメントの実態調査

	外国人技能実習生の実態調査対象工場数 [※]		
	2022年度	2023年度	2024年度
国内工場	6工場 ・梁瀬工場 ・宮津工場 ・養父アパレル（株） ・東北グンゼ（株） ・津山グンゼ（株） ・九州グンゼ（株）	3工場 ・宮津工場 ・東北グンゼ（株） ・九州グンゼ（株）	2工場 ・梁瀬工場 ・津山グンゼ（株）
製造委託先工場			15工場

※ 調査時点において技能実習生を受け入れている全ての国内工場（6工場）及び 製造委託先（15工場）を対象に実施しています。

主要サプライヤーのアセスメント調査

	調査対象サプライヤー数 [※]
--	--------------------------

エンブラ分野	9
メディカル事業	5
グンゼメディカル（株）	4
アパレル事業	75
繊維資材分野	12

※ 2022年度は調査対象サプライヤーの範囲を幅広く設定して実施しましたが、事業部門の基準統一を図り、2023年度より調査対象を取引金額上位約8割を占める主要サプライヤーに見直しました。2023年度以降はほぼ全てのサプライヤーから回答を取得しています。

体制

グンゼは、「人間尊重」を事業活動の根幹と位置づけ、サステナビリティ委員会およびリスクマネジメント委員会を通じて社内への意識浸透を図るとともに、グローバルな人権課題に対応するための体制を整備しています。

体制図はこちら

取り組み

人権尊重の企業風土を醸成するための取り組み

人権尊重の企業風土を醸成するために、「大阪同和・人権問題企業連絡会」など社外の人権団体に参画しています。また、人権週間に「人権標語」を募集するなど、人権意識の啓発に努めています。

相談・通報への対応

社長直轄の内部通報窓口として、「なんでも相談ホットライン」を設置しています。相談や通報に対しては、ハラスメント防止規程、公益通報者等保護規程に則り、被通報者および関係者のプライバシーに配慮した上で、慎重に対応しています。相談件数は、前年と比較すると減少しましたが、ハラスメント関係の相談が増加しました。公益通報者等保護規程に基づく相談件数の実績はありません。今後も公正・公平な立場で誠実な対応に努めていきます。

人権尊重への取り組み（人権デューデリジェンス）

創業の精神である「人間尊重」を重視するため、これまでもグンゼグループが関わる全ての人々の権利を大切にしてきました。2021年には「グンゼグループサステナブル調達ガイドライン」を定め、人権尊重などのサステナビリティに関する姿勢を明確にし、サプライヤーと共に取り組みを進めています。国連が「ビジネスと人権に関する指導原則」を発表したことを受け、企業に対するさらなる社会的責任が求められるようになったことから、2022年度以降は、これまでの取り組みをさらに強化すべく、以下のように自社も含めたアセスメントを実施しています。

自社アセスメント

外国人技能実習生に関する他社の人権リスク発生事案に鑑み、2022年度に国内6工場を対象に実態調査を実施しました。2023年度および2024年度は、外国人技能実習生からの直接のヒアリングを含む現地調査を実施し、外国人技能実習生の労働環境および生活環境の衛生状況を確認しています。さらに2024年度は、アパレル事業において、外国人技能実習生を受け入れている製造委託先15工場にもセルフチェックを依頼し、労働関連法令が遵守されていることを確認しました。引き続き定期的なアセスメントを通じて、適正な運用が維持されるよう支援していきます。

外部との協働

サプライヤーアセスメント

2022年度より、サプライヤーにおける人権に対する負の影響とリスクを特定、分析・評価を行い適切な対策を策定・実行することを目的として、各事業部の主要サプライヤーを対象にアセスメントを実施しています。

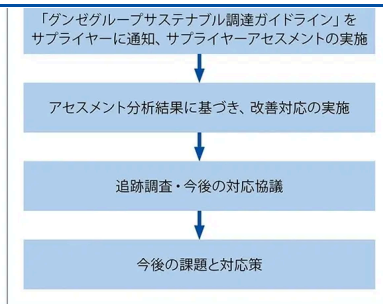
アセスメントでは、サプライヤーの人権配慮、環境保全や品質・安全性にかかわる取り組み状況を確認するため、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのCSR 調達セルフ・アセスメント質問表※を用いて、サプライヤーに自己評価を依頼（以下、「セルフ・アセスメント」）し、回答の評価を行いました。

2022年度および2023年度には、アパレル事業、メディカル事業、プラスチック分野、エンブラ分野および繊維資材分野の国内主要サプライヤー計115社を対象としてセルフ・アセスメントを実施しました。

実施したセルフ・アセスメントの評価結果からは、資本金3億円超の大企業の得点率は高い一方で、3億円以下の中小企業では得点率が低く、十分な取り組みが行われていない傾向があることが分かりました。

2024年度は、グンゼメディカル（株）の主要サプライヤー4社を対象にセルフ・アセスメントを実施し、初めて海外のサプライヤーも対象に含めました。過去3年間のセルフ・アセスメントを通して、サプライチェーンにおける労働環境に問題は認められませんでした。得点率の低いサプライヤーに対しては、担当者が個別に面談を行い、ともに取り組みの改善を推進しています。

※ CSR調達セルフ・アセスメント質問表：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが策定したCSR要件の理解度を評価するための質問表。



※ 人権への負の影響とリスクを特定し、リスクを分析・評価して適切な対策を策定・実行するプロセスのこと

繊維産業における責任ある企業行動実施宣言

グンゼは、日本繊維産業連盟が作成した「繊維産業における企業行動ガイドライン」の趣旨を理解し、同ガイドラインに沿って当社製品の製造に関与するすべての労働者の人権を尊重すべく、「繊維産業における責任ある企業行動実施宣言」を表明しています。

繊維産業における責任ある企業行動実施宣言  

サステナビリティ

トップメッセージ 	グンゼのサステナビリティ 	環境 	社会 
ガバナンス 	ESGデータ関連 	イニシアティブへの参画・外部評価 	サステナビリティニュース 
統合レポート 			

[◀ サステナビリティトップへ](#)

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室 

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報 
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

[▶ 電子公告](#)

[▶ 重要なお知らせ](#)

[▶ ご利用条件について](#)

[▶ プライバシーポリシー](#)

[▶ ソーシャルメディアポリシー](#)

[▶ お問い合わせ窓口](#)

[▶ サイトマップ](#)

環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

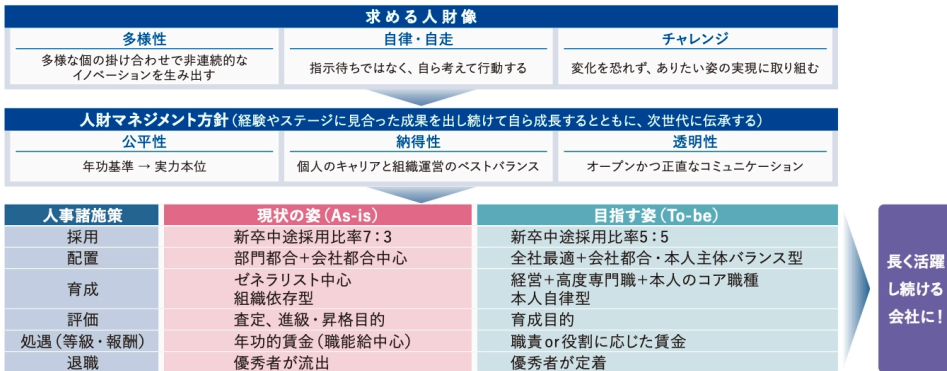
社外からの評価（ESG関連） >

人的資本

方針・基本的な考え方 ▾ 目標・実績 ▾ 体制 ▾ 取り組み ▾ 雇用・福利厚生 ▾ 労働組合 ▾

方針・基本的な考え方

グンゼは、中期経営計画において、“持続可能な事業基盤づくりを進めグローバルに選ばれ続ける会社となる”を基本コンセプトに掲げ、そのうちの人的資本戦略として「持続的企業価値・競争力の向上に繋がる経営戦略を実行できる人財と組織風土を創る」ことを目指します。



目標・実績

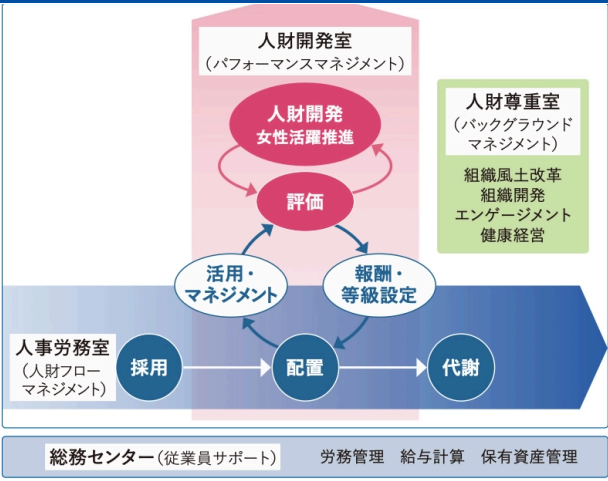
マテリアリティ施策と実績および KPI（2027年→2030年目標）

区分		指標	2024年度		2027年度	2030年度
			目標	実績	目標	目標
企業体質の進化	女性活躍の推進	女性管理職比率	6%以上	6%	14%以上	20%以上
		女性社員比率	35%	35%	38%	41%
		女性総合職採用比率（交替勤務除く）	50%	52%	50%	50%
	子育て支援	男性育児休業取得率	50%	78%	70%	100%
	組織風土づくり	エンゲージメントスコア	70点想定	62点	66点想定	70点想定
	働き方改革	年次有給休暇取得率	75%（15日）	73%（14.5日）	80%（16日）	80%（16日）

実績はこちら >

体制

人財戦略と求める人財像に基づき、期待に合う人財が長く活躍し続けることができるよう、「公平性」「納得性」「透明性」の3つの原則をもとに、人財マネジメント方針を「経験やステージに見合った成果を出し続けて自ら成長するとともに、次世代に伝承する」と定め、あるべき姿の実現に向け諸施策を実行します。



取り組み

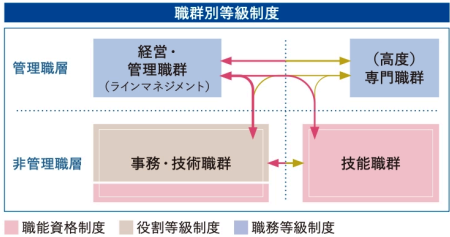
持続的な企業価値向上を目指す人事制度改革

基本的な考え方

社会情勢や従業員の意識の変化に対応し、「公平性」「納得性」「透明性」の原則のもとに、従業員一人ひとりが働きがいを持ちながら強みを最大限に発揮し、活躍し続けることができる制度を構築することにより、持続的な企業価値の向上を目指します。

人事諸施策について

- ・多様な価値観を持つ人財を受け入れ、中途採用比率を5割まで高めます。
 - ・高度で市場価値の高い専門職群を設け、ラインマネジメントと同等の処遇をします。
 - ・失敗を恐れず、チャレンジする人財に報いる評価設計を行います。
 - ・総合職／地域総合職／一般職のコース制を廃止し、全社レベルで期待役割の違いにより職群を分け、職群の特性に応じた等級制度により、職責・職務と報酬の納得性を高めます。
 - ・組織目標と個人目標を連鎖させ、合わせてチャレンジングな目標を設定することで会社と従業員の成長を加速し、評価の納得性を高めます。
 - ・年功要素を極小化させ、職責と処遇のアンマッチが生じない制度とします。
 - ・ライフステージや個人の志向に合わせた選択肢を充実させることにより、会社主体と本人主体のバランスをとった配置戦略を実行することで、長く活躍し続けることのできる制度にします。
- (以上、2026年度施行予定)



目標管理制度・人事評価制度	
育成	経営＋高度専門職＋本人のコア職種 本人自律型
評価	育成目的
目標管理制度の ありたい姿	多様な人財が自らの強みを活かせるチャレンジングな目標を自ら積極的に設定し、それが組織の成長に繋がっている
人事評価制度の ありたい姿	個々の人財の強みを伸ばし、弱みを克服する支援ツールとして機能している

人財育成のために教育・研修

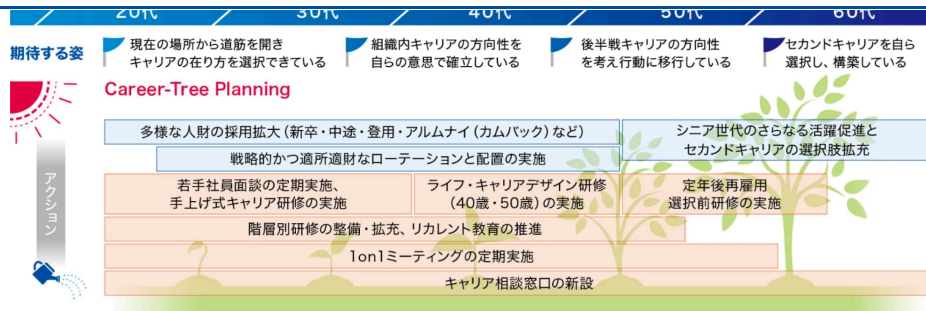
教育研修体系

	階層別教育			その他共通教育		自己啓発支援
	若手社員	次世代リーダー育成	経営幹部育成	コース・職種別	キャリア形成支援	
役員・幹部			リーダーシップ スクールⅢ		56歳キャリア研修	通信教育・eラーニング・リカレント教育 資格取得・語学習得支援制度
管理職		リーダーシップ スクールⅡ			50歳ライフ・キャリア デザイン研修	
中堅社員		新任管理職研修			40歳ライフ・キャリア デザイン研修	
若手社員	リーダーシップ スクールB	リーダーシップ スクールⅠ		一般職研修Ⅱ 一般職研修Ⅰ 一般職研修B	若手育成 担当者研修 キャリア デザイン 研修	
入社3年目	入社3年終了時 フォローアップ研修					
入社2年目	入社2年終了時 フォローアップ研修					
新入社員	キャリア採用時研修 新入社員研修 (入社時・半年後・1年後)			実験計画法 IE基礎研修 QC基礎研修 他		

キャリア自立の推進

昨今の先行き不透明な状況下で企業価値を高めていくためには、人財を「資本」と捉えた人的資本経営に取り組むことが重要であり、自らのキャリアを意識して自律的に行動する人財を育成することが強く求められています。

グンゼグループは一人ひとりが多様性と自律性を備え、自らの強みを生かしたキャリアを実現させるとともに、そのキャリア形成を会社として支援し、戦略的かつ適所適材な配置を行



① 戦略的かつ適所適財なローテーションと配置の実施

2023年より、各部門の人財情報を共有できる場として人財交流会議「Human Resource Share」を設置し、自律的にキャリアを描き、本人主体の異動機会を広げる場として開催しています。この取り組みにより、特に若手のキャリア形成が実現、2023年度は50%の割合で本人希望による異動が実現しました。

② 主体的なキャリア形成の支援

主体的なキャリア形成を支援するために、さまざまな支援の機会を拡充しました。

キャリア教育の拡充

社員のシニア層の構成比率が高いグンゼグループにおいて、シニア層がいきいきと働き、パフォーマンスを発揮し続けることが重要な人事課題だと考えています。そこで、キャリア研修の受講機会を50歳時点に加え、新たに40歳時点、56歳時点にも拡充しました。また、これまで正社員に限定していた通信教育などの自己啓発支援制度を、定年後再雇用社員や契約社員にも拡大し、リスキリングやリカレントの機会を拡充しました。

1on1ミーティングの定着

2022年に導入した1on1ミーティングでは、上司とメンバーのコミュニケーションの機会を増やすことで心理的安全性を醸成し、信頼関係を強め、これらを土台としてメンバーの成長を支援する場となるように活用しています。2024年度現在、導入から2年が経過し、課題についての検証を踏まえ、グンゼ独自の事業体制に適合した進め方にも配慮しながら改善に取り組み、引き続き定着を進めています。

キャリア相談体制の充実

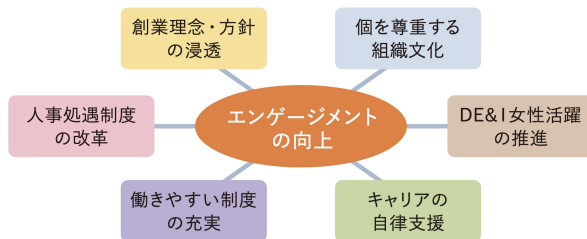
人事スタッフによるキャリア関連資格の取得を進め、キャリアに関する支援体制を強化しました。2023年5月に設置したキャリアサポートデスクでは、キャリア形成、人間関係、能力開発など、働く上での多様な悩みの解決をサポートしました。2024年4月現在で11件に応じましたが、さらなる利用拡大の促進に取り組みます。

キャリアサポートデスクの設置（2023年5月より）

人生100年時代に入り、自律的なキャリア形成を実現するため、従業員は自らのキャリアをデザインし、人生の目標やキャリア像（ライフキャリア）を見定め、それに向けて働きながら歩んでいかなくてはなりません。それらを積極的に支援するため、このたび「キャリアサポートデスク」を設置しました。働く中で起こりえるさまざまな問題について、従業員が一人で考えるのではなく、会社が伴走者となって一緒に考えることをその役割としています。

従業員エンゲージメント

エンゲージメントとは、従業員と会社が信頼関係で結ばれ、従業員が自発的に力を発揮する貢献意欲のことです。毎月のエンゲージメント調査により、従業員や組織の状況を把握し、今後の施策に活かしています。エンゲージメントには会社や組織を取り巻く多様な要素が影響しています。それらに対応し、エンゲージメントを向上させるため、下記のような取り組みを進めています。



エンゲージメント調査結果の概要

エンゲージメント要因分析（主要項目）			
強みを持つ領域	給与への納得感	部署間での協力	事業やサービスへの誇り
課題のある領域	キャリア機会の提供	やりがい	上司や仲間との関係
過去2年で改善がみられる領域	ワークライフバランス	給与への納得感	挑戦する風土

ワークライフバランス

グンゼでは多様な属性・考え方・事情を持つ人が高いパフォーマンスを発揮して働けるようなさまざまな制度を設けています。在宅勤務やフレックス、リモートワークの推進や時間単位年休、カムバック制度などを導入し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方へと改革していきます。

た有給休暇制度を整備しています。

フレックス勤務制度

2018年3月よりフレックスタイム制度を導入しています。始業・終業時刻を従業員個々の自主性に委ねることにより、自主性・主体性を高め、柔軟性に富んだ働き方により生産性の向上を目指します。

テレワーク

従業員一人ひとりの多様なライフスタイルやワークスタイルに応じた更なる生産的・効率的な働き方を実現するため、2018年3月よりテレワークを導入しています。

カムバック制度（退職者再入社制度）

育児・家族介護・配偶者の転勤などのやむを得ない事情により退職した方や、学業・転職等によるキャリアアップのために退職した社員の方に、ふたたびグンゼで活躍していただく制度です。

コース転換制度

一般職から総合職にコース転換し様々な仕事に挑戦したい、結婚により転勤することが難しくなったため地域総合職にコース転換したいなど、多様なワークスタイルに対応した働き方を推進するためにコース転換制度を設けています。

リフレッシュイヤー制度

健康で充実した職業生活を送るために、リフレッシュと職務に対する更なる意欲向上を目的に、勤続年数に応じて連続した有給休暇（リフレッシュ休暇）と表彰金を支給しています。

リフレッシュイヤー10

勤続10年目の対象者には連続3日間のリフレッシュ休暇

リフレッシュイヤー25

勤続25年目の対象者には連続5日間のリフレッシュ休暇と25年勤続表彰金（10万円）

自己啓発支援制度

「取得奨励資格一覧」に定める資格または会社が承認した資格を取得した場合、奨励金（10,000～100,000円）のほか学習費用等援助を受けることができます。また通信教育支援制度では、通信教育修了後、申請により受講料の約半額の援助額を受けることもできます。これらの自己啓発支援制度は休職中も受けることが可能で、やむを得ず休職した方でもキャリア形成を図ることができます。

育児・介護支援制度

育児や介護と仕事を両立させるためには、制度を上手く活用しながら働き続けられる環境づくりが必要だと考え、2015年4月から管理職による「両立支援のためのサポート面談」を実施しています。また制度利用者のみならず、管理職が制度を正しく理解し、円滑に部署全体のマネジメントができるように管理職向けQ&Aハンドブックも整備しています。

育児休職

子どもの2歳の誕生日の前日まで取得可能です

育児の短時間勤務

子どもが小学校6年生までの期間、6時間勤務とすることができます。希望があれば15分単位で、1日30分から2時間を超えない範囲の時間に変更することもできます。

保育利用料補助

育児休職を2か月以上取得し、復職時に共働きまたは母子・父子家庭で、該当となる子を生後6カ月未満で保育施設に預けた場合、子が3歳に達した3月末まで保育料を補助します（上限金額有）。

延長保育利用料補助

共働きまたは母子・父子家庭で、該当となる子を保育施設（学童保育を含む）に預けている者が、就労により延長保育料発生時間帯に該当の子を送迎に行く場合の延長保育料を補助します（上限金額有）。

ベビーシッター等利用料補助

子どもが小学校6年生までの期間、従業員が就労時間を確保するためにベビーシッター等（各市区町村の病児保育やファミリーサポートセンターを含む）を利用したときの利用料を補助します（上限金額有）。

介護サービス等利用料補助

対象家族を介護する従業員が就業時間を確保するために、介護保険サービス等を利用したときの利用料を補助します（上限金額有）。

介護休職

対象家族を介護する場合、介護の短時間勤務と合算して連続した1年以内の期間取得できます。（複数回に分けても可）。

介護の短時間勤務

対象家族を介護する場合、介護休職期間と合算して1年以内の期間。30分単位で1日2時間まで取得できます。

介護休暇

対象家族を介護・その他の世話をするために年間5日取得できます（対象家族が2人以上は10日）。

住宅補助制度

住宅補助制度による家賃補助

休日制度

週休2日制、年間休日115～123日（事業所で異なる）など

退職金制度

退職一時金・確定給付企業年金・確定拠出年金の3制度

従業員特典

グンゼストア、グンゼのスポーツ施設の利用割引

その他福利厚生制度

持ち株会、福祉基金(結婚祝など各種祝金、見舞金など)など各種制度あり。

労働組合

労働協約の締結

グンゼは、結社の自由と団体交渉権を尊重しています。

事業の健全な発展と従業員の社会的、経済的地位の向上を期することを労使共通の目標と定め、建設的かつ安定した労使関係の構築に努めています。

当社にはユニオンショップ制の労働組合が結成されており、労使で合意した労働協約において「労働組合への加入が認められている従業員」は全員労働組合に加入しています。

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

社外からの評価（ESG関連） >

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

[方針・基本的な考え方](#) > [目標・実績](#) > [取り組み](#) > [社外からの評価](#) >

方針・基本的な考え方

グンゼグループでは、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)を最も重要な人財戦略の一つと位置付けています。属性や価値観などに関わらず、すべての構成員が働きがいを持ちながら自らの能力を十分に発揮できている姿を目指します。

目標・実績

[実績はこちら](#) >

取り組み

グンゼの女性活躍推進

グンゼグループではDE&Iを重要な人財戦略と位置付けており、女性活躍推進に積極的に取り組んでいます。

専任部署の設置

2025年4月に人事総務部人財開発室に女性活躍推進事務局を設置しました。

女性採用比率のアップ、女性管理職候補者の個別育成計画の策定、アンコンシャス・バイアスを解消するための研修などの諸施策を推進します。

経営層の意識改革

2024年10月「女性活躍から始める人的資本経営」をテーマに全社講演会を開催し、女性活躍の意義や先進企業の好事例を講師からお話いただきました。

講演会に先立ち、女性従業員のキャリア志向や女性活躍を阻む課題などに関する社内アンケートを実施し、その結果をもとに、講師と社長がディスカッションし、女性活躍のあり方についてのトップメッセージを全社に発信しました。

女性リーダー層の形成・育成

GLSL（グンゼリーダーシップスクール・レディス）研修では、女性従業員への期待を伝え、自律的なキャリアイメージを醸成し、参加者が組織の中でリーダーシップを発揮することを目的に開催しています。

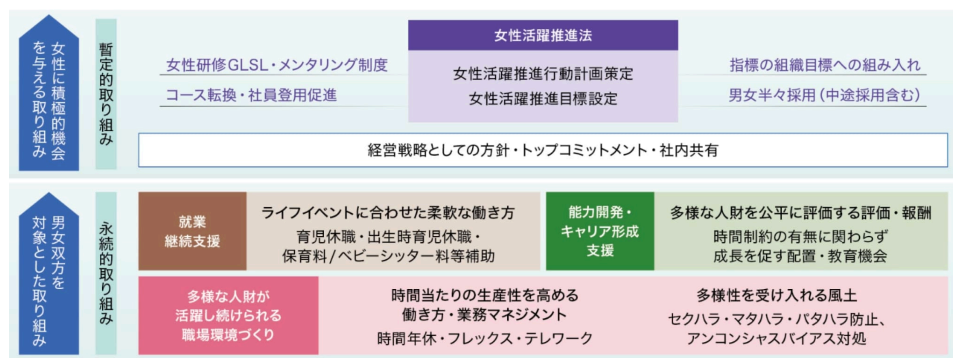
2024年度は一般職も対象に加え、過去3年間で65名が受講しました。

研修を機に、マネジメントの役割を通じて活躍する従業員もいれば、あらためて学び直しを始める従業員がいるなど、それぞれのキャリアオーナーシップの確立に役立っています。



GLSL研修の様子

女性活躍に向けた取り組みマップ



仕事と家庭の両立で、中長期的な視点で会社に貢献



IP・リーガル部
法務コンプライアンス室長
小林 千夏

2016年にグンゼに中途入社、2025年に法務コンプライアンス室長を拝命しました。

当室は法律相談や契約レビューの他、中期経営計画に基づく各事業施策の推進に対し、法的観点からの支援を行っています。

私生活では二児の母として慌ただしい日々を過ごしています。家事育児は「できる方ができることをする」。保育園や塾の送迎や料理などを夫婦で何とか分担しています。

海外出張や急な重要案件の会議で帰宅が遅くなることもありますが、夫のサポートで遂行できています。

日々、優先順位の見極めとタイムマネジメントを意識して業務に取り組んでいます。育児や生活を優先せざるを得ない時期もありますが、他と比較して焦ったり諦めたりすることなく、中長期的な目線で会社に貢献するという気持ちが大事だと思います。

グンゼのD&Iの取り組み事例

グローバル化を加速するため、世界を飛び回る



Gunze United Limited
マネージャー
Faisal Chowdhury

アパレル業界でのマーチャンダイザーとして業務経験があり、日本での勤務経験があったことから2014年に日本語通訳としてGunzeUnitedに入社し、ミシン糸の営業も担当することになりました。

当時のバングラデシュではグンゼのミシン糸はほとんど認知されておらず受注の獲得は困難を極めました。頻りに顧客訪問を行うことによりお客さまとの信頼関係を構築してきました。

会社への貢献という成功体験は私に大きな自信を与えてくれました。このたびグンゼの正社員になることができたことは人生における大きな節目であり、大変光栄に思っています。

今は重点課題である事業のグローバル化に向け、世界中を飛び回っています。

“Never give up, & Always hope for the best.”

の精神で事業に貢献していきます。

障がい者雇用

「法定雇用率の達成」を基本に、継続的な障がい者雇用機会の維持・創出に取り組んでいます。

具体的には、各事業所の障がい者雇用推進者を中心に、受け入れ可能な職場・職務などを特定した上で、地域のハローワークとも連携しながら職場・職務とのマッチング・

育児・介護支援への取り組み

グンゼが両立支援において目指すありたい姿は「育児/介護を理由に辞める人がいない」「安心して制度を利用できる組織風土である」「育児/介護を経験しても能力を最大限に発揮し、キャリアの展望がもてる」の3つです。

2024年度に実施した社内アンケートの結果を踏まえ、2025年4月の法改正を機に見直しを加えた現在の制度概要は右表のとおりです。

今後も引き続き両立支援の仕組みづくりと、組織風土への浸透策実施に取り組んでいきます。

両立支援制度の概要

育児	介護
育児休職 (上限は2歳まで。5日間有給)	介護休職 (上限は1年間)
育児の短時間勤務 (上限は小学校6年生まで)	介護の短時間勤務 (上限は通算3年)
子の看護等休暇 (上限は小学校6年生まで)	介護休暇
育児サービス利用料補助 ①保育利用料補助 ②延長保育利用料補助 ③ベビーシッター等利用料補助	介護サービス等利用料補助
両立支援のサポート面談	
「両立支援のためのハンドブック」による情報提供	

支援制度

母子休暇

妊娠中または出産後1年以内に医師から指導を受けた場合、または妊娠4ヶ月までのつわりにより就業が困難な場合に取得可能です。

通院休暇

妊娠中または出産後1年以内の女性が母子保健法による健康診査等のため、労働時間内に通院する必要がある場合に取得可能です。

妻の出産休暇

妻の出産時に、3日以内および出産地への往復日数の休暇を取得することができます。

子どもの看護休暇

小学校6年生までの子どもの病気やケガの世話、予防接種や健康診断受診、感染症に伴う学級閉鎖、入園（入学）式、卒園（卒業）式のために取得することができます。1時間単位の取得も可能で、4時間以内の取得は0.5日、5時間以上は1日としてカウントします。

育児休職者へのサポート面談

女性社員がライフイベントを経てもやりがいを持って働き続けられるように、2015年4月から育児休職者と上司が以下タイミングで面談を実施、育児休職からの復職をスムーズに行えるようにサポートしています。

- (1) 妊娠報告時
- (2) 産休取得時
- (3) 育児復帰前
- (4) 復職先決定後
- (5) 復職3ヶ月後



メンタリング



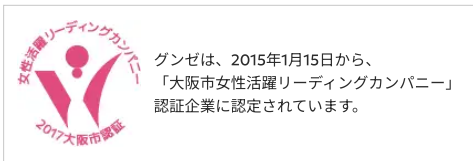
社外からの評価

女性活躍推進に基づく一般事業主行動計画及び次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画

●あるべき姿：当社はダイバーシティ & インクルージョン（DE&I）推進を通じて、「多様な人財が長く活躍し続ける会社」を目指しています。

1. 計画期間：2025年4月1日～2028年3月31日（3年間）

2. 計画内容：添付



グンゼは、2015年1月15日から、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証企業に認定されています。

次世代育成支援対策推進法・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画   (PDF:149kb)

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

◀ サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室 

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報 
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

社外からの評価（ESG関連） >

健康と安全

方針・基本的な考え方

目標・実績

体制

取り組み

方針・基本的な考え方

健康経営の取り組み

グンゼは、創業の精神である「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者と共存共栄をはかる」に基づき、「人財」こそが企業経営における最も重要な資源であると考え、従業員一人ひとりがお互いを尊重しあい、心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

こうした取り組みが評価され、健康経営優良法人の認定を受けておりますが、従業員が心身ともに健康で、本来のパフォーマンスを発揮できるよう、今後も継続して健康経営に取り組めます。

健康経営宣言

グンゼは、創業の精神に基づき、「人財」こそが企業経営における最も重要な資源であると考え、従業員一人ひとりが、お互いを尊重しあい、心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりに取り組めます。従業員がそれぞれの能力を十分に発揮することで、社会にとって必要とされる企業を目指し、健康経営を積極的に推進することを宣言します。

2026年6月
グンゼ株式会社 代表取締役社長
岡 高広

目標・実績

実績はこちら >

体制

「健康経営宣言」の実現に向けて、推進体制は経営トップを健康経営推進統括責任者としています。実務は人財尊重室が中心となり、関係部署と連携しながら、従業員の健康増進に積極的に取り組んでいます。



健康経営戦略マップ

健康経営の推進によって解決したい課題を明確にし、具体的な取り組み内容や目標指標を整理し、計画的に実行しています。

詳細はこちら

取り組み

メンタルヘルス

メンタルヘルス不全者の発生を防止するために、管理者のラインケア研修・心の電話相談窓口による相談対応を推進しています。

今後は、ストレスチェックの実施（法的に実施が義務化されていない50人未満事業場も含めて実施）により、従業員自身に自分のストレス状態を把握してもらった上で、産業医等と連携して職場分析の実施・高ストレス者への相談対応などを推進していきます。

労働災害撲滅に向けた取り組み

労働災害ゼロの「安全で働きやすい快適な職場づくり」を目指して活動を推進しています。

具体的には、リスクアセスメントを通じた労働災害発生リスクの低減・安全作業教育の強化、従業員一人ひとりの安全意識を高めるための取り組みなどを、安全衛生委員会を中心に推進しています。

リスクアセスメントを通じた労働災害発生リスクの低減・安全作業教育の強化、従業員一人ひとりの安全意識を高めるための取り組みなどを、安全衛生委員会を中心に推進しています。

サステナビリティ

トップメッセージ

グンゼのサステナビリティ

環境

社会

ガバナンス

ESGデータ関連

イニシアティブへの参画・外部評価

サステナビリティニュース

統合レポート

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんにちは！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング プラスチックス分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報



環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

社外からの評価（ESG関連） >

品質保証・顧客責任

基本的な考え方 >

体制 >

マネジメントシステム規格認証取得状況 >

取り組み >

外部との協働 >

お客様へのお約束 >

基本的な考え方

グンゼは創業以来、「人間尊重と優良品の提供」という経営理念のもと、製品安全規定に則ってお客様に安全で安心してご使用いただける製品・サービスを提供することを最優先に考えています。

これからも多様な事業領域において、製品安全基本方針と一貫した品質保証体制のもと、お客様の信頼にお応えし続けます。

製品安全基本方針

安全はすべてに優先することを基本として、お客様に安心して使っていただける商品を製造し、提供する。

体制

品質保証体制

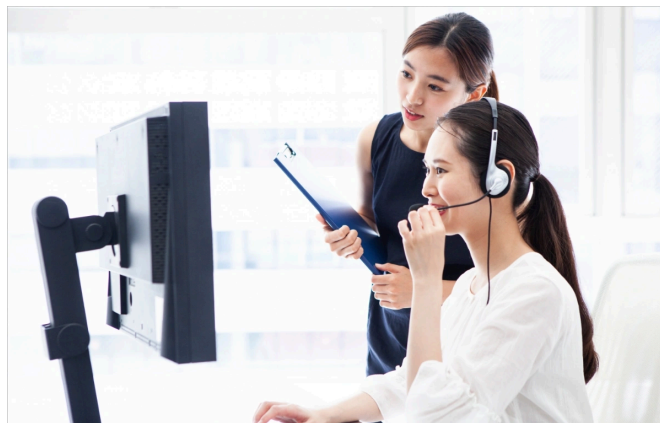
当社では、代表取締役社長のもと、品質保証統括責任者を中心とした品質保証体制を構築しています。

- ・技術開発部 品質管理部門: 全社横断的品質管理・監査・改善活動の統括及び不正防止に関する管理・監督
- ・事業部門 品質保証部門: 各事業部の製品特性に応じた品質保証、品質管理の実行

各事業部門において専門性を活かした品質管理を実施するとともに、全社横断的な品質保証活動により、統一された高い品質水準を維持しています。

お客様相談室

お客様相談室での対応



お客さま対応体制



お客さまの声を全社で共有し、すべてのお客さまに「ここちよさ」をお届けできるよう、お客様相談室では日々活動に取り組んでいます。相談室に寄せられる声の93%がアパレル関連で、商品をどこで購入できるか、この商品の特徴を教えてくださいといった多くの問合せを頂いております。迅速、正確にお客さまをご案内できるように日々、販売部門とも連絡を取り合い、情報を共有しています。また、クレームやご意見に対しては原因を調査するため、各事業部門と連携をとりながら丁寧な対応を心がけています。

主要外部認証規格

ISO9001 : 品質マネジメントシステム

ISO13485 : 医療機器品質マネジメントシステム（メディカル事業部）

OEKO-TEX® STANDARD100 : 繊維製品の安全性認証（繊維資材事業部）

品質マネジメントシステム外部認証取得状況はこちら

取り組み

本社品質部門による定期的な品質監査の実施

全員参加の品質活動（階層別品質教育含む）、改善提案の実施

データ活用による品質管理の推進

お客様の声の活用

外部との協働

お客様への適切な製品情報提供

お客様へのお約束

グンゼは、これらの取り組みを通じて、お客様に「安心・安全・高品質」な製品を継続的に提供し、豊かな生活の実現に貢献してまいります。

品質に関するご意見・ご要望がございましたら、お客様相談窓口までお気軽にお声をお寄せください。

お客様相談室はこちら

サステナビリティ

トップメッセージ

グンゼのサステナビリティ

環境

社会

ガバナンス

ESGデータ関連

イニシアティブへの参画・
外部評価

サステナビリティニュース

統合レポート

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報

環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

社外からの評価（ESG関連） >

サプライチェーン

方針・基本的な考え方

目標・実績

体制

グリーン購入・調達

取り組み

方針・基本的な考え方

企業活動において企業理念を実現していくために、自社のみならず、サプライチェーン全体で取り組むことが社会より求められています。昨今の急激な環境変化を考え合わせると、サプライチェーンにおけるサステナビリティの考え方を、より具体的にサプライヤー様に提示する必要があるとの認識に至り、グンゼグループサステナブル調達活動へのさらなるご理解とご協力をいただくために、2019年1月に「グンゼグループサステナブル調達ガイドライン」を制定しました。グンゼグループは、持続可能な社会の構築に向けて、これからもサプライヤー様と一緒に取り組んでまいります。

グンゼグループサプライヤー行動規範（2010年3月制定、2019年1月改定）

グンゼグループは、「グンゼグループ行動規範」において、世界に通じる公正なルールに則り活動することを基本方針としています。サプライヤー様各位がこの行動規範の示す、法令の順守、有用かつ安全な製品・サービスの開発・提供、環境への取り組み、人権・人格・個性の尊重に関する基本方針の ご理解を賜わるとともに順守に取り組んでいただきますよう、お願い申し上げます。

第1条 法令順守

- (1) 社会のルールを順守し、公正かつ自由な競争の中で企業活動を行います。
- (2) 法令を順守し、常に高い倫理観をもち、反社会的行為は行いません。
- (3) 国際ルールを順守し、関係各国の文化、慣習を尊重し、信頼される企業活動を行います。

第2条 優良品の提供

企業活動を通じて社会に有用、かつ安全な製品・サービスを開発、提供します。

第3条 環境保全

企業活動にあたって、環境問題に積極的に取り組み、地球との共存に努めます。

第4条 人権

- (1) 人権・人格・個性を尊重し、人種・国籍・性別等による雇用と職業に関する差別を行いません。
- (2) 児童労働、強制労働、過酷な懲罰等の非人道的な労働行為を行いません。
- (3) 従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り、尊重します。

第5条 労働

- (1) 安全で清潔な作業環境を確保し、従業員の健康に配慮します。
- (2) 労働時間に関する法律および賃金・福利厚生に関する法律を順守します。
- (3) 外国人・移住労働者（技能実習生を含む）を雇用する場合は、関係法令を順守し、外国人・移住労働者の人権侵害につながるような不当な労働管理を行いません。

第6条 機密情報と知的財産について

取引により知り得た技術、営業、個人等の機密情報の漏洩防止に努めるとともに知的財産を尊重します。

第7条 贈答・接待

不当な利益等の取得を目的とする贈答・接待を行いません。

	調査対象サプライヤー数 [※]
	2022～2024年度
プラスチック分野	14
エンブラ分野	9
メディカル事業	5
グンゼメディカル（株）	4
アパレル事業	75
繊維資材分野	12

※ 2022年度は調査対象サプライヤーの範囲を幅広く設定して実施しましたが、事業部門の基準統一を図り、2023年度より調査対象を取引金額上位約8割を占める主要サプライヤーに見直しました。2023年度以降はほぼ全てのサプライヤーから回答を取得しています。

体制

サステナビリティ委員会およびリスクマネジメント委員会を設置し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現と企業価値の最大化に取り組んでいます。

体制図はこちら

グリーン購入・調達

グンゼは、地球環境保全と環境の負荷低減に貢献する購買調達活動を行います。
有害化学物質を含まない部材を採用し、環境負荷低減に寄与するグリーン調達を推進します。

グンゼグループサステナブル調達方針

グンゼグループは、法令順守はもとより、地球環境への配慮などを含めた統合的なサステナブル調達をグローバルに推進することで、社会的責任を果たします。
サプライヤー様と協働して、品質・価格・納入期間などに加えて地球環境・労働環境・人権などのサステナブル要素を考慮し、サプライチェーン全体でサステナブル調達を実現します。
そのために必要に応じて、サプライヤー様におけるサプライチェーンでのサステナブル調達状況の調査等を実施し、違反状態が是正されない場合には必要な措置を講じます。

- （１）私たちは、自由競争原理に基づき、国籍、企業規模、取引実績の有無等を問わず、全てのサプライヤー様に対して自由競争原理に基づいた公平な参入機会を提供します。
- （２）私たちは、部材・サービスの調達に際しては、品質・価格・納期・環境保全・技術・事業運営体制等に基づき、国内外の法令・社会規範を順守し、企業倫理に基づき公正にサプライヤーを選定します。
- （３）私たちは、グローバルな視野に立ち、ワールドワイドのサプライヤー様から優れた部材・サービスを最適な地域から調達します。
- （４）私たちは、地球環境保全と環境の負荷低減に貢献する購買調達活動を行います。有害化学物質を含まない部材を採用し、環境負荷低減に寄与するグリーン調達を推進します。
- （５）私たちは、高い倫理性をもって法令・社会規範を順守します。調達・購買活動に関連する法令や社会規範を順守し、サプライヤー様とのパートナーシップを築きます。
- （６）私たちは、調達活動を通じて得た情報は適切に管理・保護します。

2019年1月制定

2021年4月改定

取り組み

公正・公平な取引引きのために

グンゼグループは、法律や社会のルールを遵守するとともに高い倫理観をもち、公正かつ自由な競争の中で企業活動を行うために、事業ごとに態勢整備を進めています。

医療機関等との関係の透明性に関する指針

メディカル事業部では、2014年度から高い倫理性と公共性が求められる医療関連企業の一員として、日本医療機器産業連合会が策定する「医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン」および医療機器業公正取引協議会が定める「医療機器業公正競争規約」とそれらの精神に従い、「医療機関等との関係の透明性に関する指針」を公表しています。

医療機関等との関係の透明性に関する指針

グンゼは、サプライチェーンにおけるお取引先の皆さまや、価値創造を図る事業者の皆さまとの連携によるサプライチェーン全体での付加価値向上と共存共栄の構築を目指します。



パートナーシップ構築宣言 (PDF:148kb)

反社会的団体、反社会的勢力への対応

グンゼグループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える暴力団、総会屋などの勢力、団体に対し、いかなる要求も受け入れない断固とした態度を示し、これらの団体との一切の関係を遮断します。

特に、商法違反となる金品供与はもとより、不当な利益をもたらす恐れのある寄付金、賛助金の要求や、資材、書籍、情報などの購入要請には応じない姿勢を貫きます。お取引先さまとの関係においても、「グンゼグループサプライヤー行動規範」を再確認するとともに、反社会的勢力の排除に関する条文を盛り込んだ契約内容となるよう整備しています。

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告

重要なお知らせ

ご利用条件について

プライバシーポリシー

ソーシャルメディアポリシー

お問い合わせ窓口

サイトマップ

環境 >

社会 >

ガバナンス >

人権 >

人的資本 >

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン >

健康と安全 >

品質保証・顧客責任 >

サプライチェーン >

社会貢献 >

ステークホルダーコミュニケーション >

社外からの評価（ESG関連） >

社会貢献

方針・基本的な考え方 >

次世代育成 >

地域コミュニティ・自治体 >

慈善活動、ボランティア活動 >

被災地・人道支援 >

外部との協働 >

方針・基本的な考え方

グンゼグループは、グンゼグループ行動規範第一章において、「グンゼは、企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たします」と宣言しています。

第1章 グンゼは、企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たします。

- （1）社会に有用、かつ安全な製品・サービスを開発、提供し、お客様に安心と満足をお届けします。
- （2）企業活動にあたって、環境問題に積極的に取り組み、地球との共存に努めます。
- （3）社会活動、地域活動を支援、またはこれに参加し、社会貢献を果たします。
- （4）構成員が良き企業人、社会人となるよう教育、啓発し、あらゆる企業活動において人権、人格、個性を尊重します。
- （5）社会とのコミュニケーションを大切に、開かれた企業として、企業情報を積極的、かつ公正に開示します。

[グンゼグループ行動規範はこちら >](#)

次世代育成

グンゼの肌着教室

[詳しくはこちら >](#)

地域コミュニティ・自治体

包括連携協定

大阪市と地域活性化包括連携協定を締結

2020年3月健康・医療、スポーツ振興、環境、こどもの健全育成など10分野にわたる包括連携協定を締結しました。グンゼはこの協定に基づき「がん啓発キャンペーン」「スポーツ振興イベント」「御堂筋の環境保全」「こども用肌着の提供」など事業を通じて地域の活性化に努めてまいります。



締結式の様子

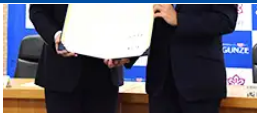
今後の連携・協働していく分野および主な連携事例（★は主な取組み）

連携分野	主な連携事例（締結時点での事例）
1. 健康・医療に関すること	<p>★「がん啓発キャンペーン」の実施</p> <p>10月の市民健康月間及び乳がん月間にあわせ、がん啓発のためのイベントを実施することで、検診受診率向上に寄与し、がん予防に貢献します。</p> <p>・すこやかパートナーへの登録</p> <p>すこやかパートナーへ登録し、「健康都市大阪の実現」をめざした健康づくりの取組を推進します。</p> <p>・健康分野に関するセミナーや講師派遣の協力</p>

		市民の健康増進に関する啓発・広報等に協力します。また、「おおさか健康マイレージ」に連携し、市民の健康活動の普及に協力します。
2. スポーツ振興に関すること	★スポーツジムトレーナーによるスポーツ振興イベントや講師派遣の協力	スポーツジムを活用し、スポーツ振興や健康増進等、イベントや講座を実施します。また、各区が実施する健康展等のイベント、健康講座へ、スポーツジムトレーナーを講師として派遣します。
	・スポーツ振興に関する施策への協力	スポーツに関する知見や情報の提供など、大阪市が実施するスポーツ振興施策に協力します。
	・スポーツ振興に関する広報協力	市民に向けたスポーツ振興の広報に協力します。
3. 環境に関すること	★御堂筋の環境保全に関する協力	イチョウをグンゼ自社用地にて育成し、台風等で御堂筋のイチョウに被害が出た場合や、保全・育成上の必要に応じて無償で提供します。 また、御堂筋での清掃活動を実施し、御堂筋の環境保全に貢献します。
4. こどもの健全育成に関すること	★こども用肌着の提供（こどもの貧困に関する課題解決や子育て家庭支援施策への協力）	こども支援ネットワーク事業を活用し、こども食堂等を実施している団体を通じて、こども用肌着を提供します。 継続的な関わりが必要な子育て家庭に対する支援のため、こども用肌着を提供します。
	★「こども肌着教室」の実施	こどもや保護者を対象に「こども肌着教室」を実施し、「からだの仕組みと肌着の役割」を理解いただくことで、こどもの衛生的で健康な体づくりの応援をします。
	・出前授業の実施	大学生を対象に、キャリアデザイン教育の出前講座を実施することで、学生の就業観や職業観を培うお手伝いをします。
	・児童虐待防止に関する啓発等への協力	児童虐待防止のため、オレンジリボンキャンペーンへの協力等を行います。
	・職場体験学習の実施	中学生以上を対象とした職場体験学習の受け入れ協力を行います。
5. 市民生活の安全・安心に関すること	・災害救助物資の供給	大阪市内において災害が発生した場合に、肌着、ソックス類等を供給します。
	・「こども110番」事業への協力	大阪市内で対応可能な店舗において、「こども110番の家」事業に協力します。
6. 福祉に関すること	・認知症高齢者見守りネットワーク事業への協力	大阪市内で対応可能な店舗において認知症高齢者見守りネットワークへ協力するとともに、社員に対して認知症サポーター養成講座を実施します。
7. 就労支援・雇用促進に関すること	・「大阪ハートフル商店街」事業の広報協力	「大阪ハートフル商店街」（障がい者が生産する商品の販売）事業について、大阪市内の対応可能な店舗（3店舗）で商品ディスプレイを行う等、広報協力を行います。
	・雇用促進に関するセミナーへの講師派遣	大阪市の雇用促進に関するセミナーに、講師を派遣します。 （テーマ：イクボス、離職防止等）
	・女性の活躍促進に関する取組への協力	大阪市の女性活躍促進に関する啓発・広報等の取組に協力します。
8. 市民活動の推進に関すること	・市民活動推進への協力	地域でのイベント等への参画や、大阪市市民活動総合ポータルサイトに団体登録を行い、可能な範囲で店舗スペースを地域に提供する等の協力を行います。
9. 区政・市政のPRに関すること	・市内店舗を活用した区政・市政のPRへの協力	大阪市内で対応可能な店舗を活用し、ポスター掲示やチラシ配架等、区政・市政のPRへの協力を行います。 また、大阪市が実施するイベント等への協力や、可能な範囲で店舗スペースを提供する等の協力を行います。
10. その他、市民サービスの向上及び地域の活性化に関すること	・その他、市民サービスの向上及び地域の活性化に関すること	

（店舗の閉鎖などに伴い、一部見直しをしております）

て取り組みを進めていきます。



締結式の様子

連携分野	◎ 新規 ○ 継続	主な連携事例（締結時点での事例）
1. 地域活性化	◎	移住イベントの共催 ・大阪本社、東京支社を会場として提供 ・綾部本店やあやべグンゼスクエアを現地説明会会場として提供 ・事業所所在地の福知山、宮津、亀岡地区については、地域における働き方モデルとして情報発信
	○	「北部産業創造センター」の活用支援への協力 ・センターを拠点とする産学連携の推進や地元のものづくり中小企業との交流など
	○	スポーツ・トレイルの普及、推進への協力 ・あやべグンゼスクエアを、「京都『ゆラリー』サイクリングロード」のサポートステーションとして提供
	◎	「京都府地域の安心・安全サポート事業所」の登録
2. 健康・医療	◎	がん対策推進事業への協力 ・「がんに関する啓発キャンペーン」の実施 ・商品とタイアップしたがん啓発運動への協力
3. 環境	○	京都モデルフォレスト運動の推進 ・小畑地区の再生プロジェクトの実施
4. 子ども	◎	「京のまなび教室」特別講師派遣事業への協力
	◎	児童養護施設における肌着支援
	◎	オレンジリボンキャンペーンの啓発 ・事業所及び直営店にて推進
	◎	きょうと子育て応援パスポートへの協賛 ・グンゼ直営店、グンゼスポーツにおける協賛登録
	◎	きょうと子育てピアサポートセンターの周知
5. スポーツ振興	◎	障害者スポーツへの支援 ・事業所所在地における障害者スポーツ関連イベントの支援 ・グンゼスポーツクラブにおけるインストラクターの障害者スポーツ指導資格の取得
6. 防災	◎	災害支援活動 ・災害発生時の緊急支援物資（肌着、靴下等）の無償提供 ・長期支援が必要な場合「災害時における応急対策物資供給等に関する協定」に基づき優先的に商品を提供

（店舗の閉鎖などに伴い、一部見直しをしております）

大阪府と包括連携協定を締結

2017年9月、大阪府民の皆さまの「健康」と「安心」を支えるため、健康・医療、スポーツ振興、地域活性化、子ども、環境、防災の6分野にわたる連携協定と協働に関する包括連携協定を大阪府と締結しました。グンゼはこの協定に基づき「乳がん検診キャンペーン」「健康イベント」「緑化事業」など事業を通じた地域の活性化に向けて取り組みを進めていきます。



締結式の様子

連携分野	◎ 新規 ○ 継続	主な連携事例（締結時点での事例）
1. 健康・医療	◎	グンゼ直営店舗における「がんに関する啓発キャンペーン」の実施 グンゼ店舗やなんばウォークにおいて、府民に向けて、がん検診・特定健診の受診率向上をテーマとしたキャンペーンを実施します
	◎	商品とタイアップしたがん啓発運動への協力 術後患者のQOL向上のためにグンゼが開発した"Medicure（メディキュア）"の商品パッケージに、がん検診受診の啓発デ

		てMedicare（メデイケア）を活用したQOLの向上に関する展示を行うなど、ヘルスケアに関する情報を提供します
	○	大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォームにおける取組みの推進 大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォームの事業者会員としての取組みに加え、同プラットフォーム参画事業者への各種支援、アドバイスをを行い、健康寿命延伸産業の発展を促進します
2. スポーツ振興	◎	市町村と連携したスポーツ活動の促進 グンゼスポーツ株式会社が運営するスポーツクラブと府内市町村が連携し、シニア向けスポーツイベントや健康イベントを実施するなど、スポーツ振興や府民の健康づくりに協力します
3. 地域活性化	◎	2025年国際博覧会の誘致に向けた機運醸成 2025日本万国博覧会誘致委員会の会員企業としての参画に加え、グンゼが有する全国の情報発信ネットワークを活用し、誘致に向けた国内の機運醸成に協力します
4. 子ども	○	大阪府が進める「放課後子ども教室」に参画し、府内の小学生を対象に『『肌着を着よう！』～汗の役割と肌着の効果～』のプログラムを実施します
5. 環境	◎	緑化事業への協力 大阪府が進める緑化事業と連携し、グンゼグリーン株式会社が樹木の苗木を寄附するなど、府内の緑化推進に協力します
6. 防災	◎	被災時の物品支援に関する協力 大阪府内において災害が発生した際は、避難所へ生活必需品である肌着やソックス、医療用弾性ストッキングなどを寄贈し、復旧にいち早く協力します
	◎	大阪880万人訓練への協力 大阪880万人訓練などの防災訓練に協力します

(店舗の閉鎖などに伴い、一部見直しをしております)

地域社会との交流

グンゼ博物苑

グンゼ博物苑は、グンゼ創立100周年の1996年に、大正時代に使用されていた蔵を改造し、歴史的な資料・商品・資料などを一堂に集め展示しているグンゼの博物苑です。

2014年には、グンゼ博物苑（展示蔵・集蔵・今昔蔵・道光庵）とあやべ特産館、綾部バラ園からなる「あやべグンゼスクエア」がオープンしました。あやべグンゼスクエアは綾部市の重要観光拠点として位置づけられており、京都府が推進する魅力ある観光まちづくり「海の京都」「森の京都」の活動に協力しています。
集蔵は、各種サークル団体・個人の文化、芸術、教育、福祉を目的とする展示会にご利用いただいています。その他、スクエアの連携会議（綾部市・商工会議所・観光協会・グンゼ博物苑）を開催し、綾部市の行事やあやべ特産館の各種イベントの開催に協力しています。

2016年には、創立120周年を記念してリニューアルしました。従来の展示蔵を、創業蔵・現代蔵・未来蔵として刷新。グンゼの歴史と現代、そして未来へと続く道のりを紹介し、体験できるゾーンとして生まれ変わりました。



	来苑者数	集蔵利用者数
2024年度	52,002名	27団体
2023年度	27,740名	22団体
2022年度	16,363名	17団体
2021年度	6,778名	14団体
2020年度	8,618名	7団体
2019年度	41,896名	23団体

関連サイト

[グンゼ博物苑](#)



環境保全に関する取り組み

[詳しくはこちら](#)

慈善活動、ボランティア活動

グンゼは、創立110周年記念の社会貢献事業として2006年にグンゼラブアース倶楽部を発足しました。
会員から募った寄付金と会社のマッチングシステムによるNPO団体等への寄付などを通じて社会に貢献しています。

支援先



AMD(アムダ) [外部リンク](#)



認定NPO法人
J.POSH [外部リンク](#)



ブリッジフォースマイル [外部リンク](#)



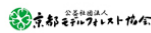
みらいこども財団 [外部リンク](#)



Save Earth Foundation
(セーブアースファウン
デーション) [外部リンク](#)



子どもの笑顔
はぐくみプロジェクト [外部リンク](#)



京都モデルフォレスト
協会 [外部リンク](#)



チームふくしま [外部リンク](#)

活動報告

グンゼラブアース倶楽部活動報告



グンゼラブアース倶楽部では、年に一度、その年の活動内容をまとめた会報を発行しております。詳しい活動内容は下記よりご覧いただけます（過去3年分のみ表示しております）。

[2025年度 活動報告](#) [外部リンク](#) (PDF:2.3MB)

[2024年度 活動報告](#) [外部リンク](#) (PDF:9.3MB)

[2023年度 活動報告](#) [外部リンク](#) (PDF:3.5MB)

被災地・人道支援

グンゼは、日本国内での大規模自然災害発生時には、緊急災害対応アライアンス「SEMA（シーマ）*」を通じて、支援を実施しています。

* 日本国内での大規模自然災害発生時に、民間企業と市民団体（CSO）との連携により企業が持つ物資・サービス等の支援をワンストップで提供する災害対応アライアンスで、民間企業および市民団体（CSO）が加盟。



外部との協働

ピンクリボン運動へ参加

グンゼは2015年よりピンクリボン運動を推進している「認定NPO法人 J.POSH」のオフィシャルサポーターとしてその活動を応援しています。また、各地で開催されているピンクリボン運動にも協賛しています。



サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

◀ サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告

重要なお知らせ

ご利用条件について

プライバシーポリシー

ソーシャルメディアポリシー

お問い合わせ窓口

サイトマップ

環境

社会

ガバナンス

人権

人的資本

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン

健康と安全

品質保証・顧客責任

サプライチェーン

社会貢献

ステークホルダーコミュニケーション

社外からの評価（ESG関連）

ステークホルダーコミュニケーション

方針・基本的な考え方 目標・実績 ステークホルダーとのコミュニケーション 取り組み

方針・基本的な考え方

グンゼグループは、創業の精神として「会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」と掲げ、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切にしてきました。特定した6つのステークホルダーとの対話を通じ、社会的価値および経済的価値を創出し、持続可能な地球と社会の実現に貢献します。

目標・実績

2024年度実績

分類	2024年度実績	対応者
機関投資家・証券アナリスト向け	決算説明会 4回 (5月・11月は対面・オンラインのハイブリッド開催、8月・2月はオンライン開催) 延べ出席者数 178社 230名	・代表取締役会長、社長 ・取締役 財務経理部長 ・常務執行役員 経営戦略部長 ・執行役員 ・コーポレートコミュニケーション部広報IR室
	1on1ミーティング 延べ 142社 215名 (対面 57名、Web 158名)	・代表取締役社長 ・取締役 財務経理部長 ・常務執行役員 経営戦略部長 ・執行役員 ・コーポレートコミュニケーション部広報IR室
個人投資家向け	決算説明会書き起こしおよび Q&A の Web 配信 2回(5月、11月)	・コーポレートコミュニケーション部 広報 IR 室

主な対話のテーマ

テーマ	詳細
中期経営計画の方向性	・コア事業における成長戦略 ・低ROIC事業の構造改革 ・財務戦略（株主還元策）
事業環境・業績	・売上・利益、セグメント別業績動向など ・市場環境、競合状況 ・持続可能な成長に向けた新製品開発状況
資本政策	・資本コスト、目標ROEに関する意見交換 ・自社株買い、株主還元方針のあり方
ESG関連	・取締役構成、報酬制度などコーポレートガバナンス ・人材戦略、ダイバーシティなど人的資本戦略

ステークホルダー	共創する価値	エンゲージメント手段	2024年度の実績
お客さま	優良な製品・サービスの提供に徹し“売って喜び買って喜ぶ”の実践。品質を第一に、安全、安心、快適、満足を追求し、環境と人にやさしい製品・サービスの開発を行う	・お客さま相談窓口 ・医局説明会	・お客さま満足度 90 点 (お客さまへのアンケート調査による)
取引先	関連法令およびその精神を順守することはもとより、公平かつ自由な取引を行う。雇用における差別の禁止、強制労働の禁止、児童労働の禁止を求める	・アパレル総合展示会 ・企業共催セミナー（メディカル） ・日々の営業活動 ・人権デューデリジェンス	・自社アセスメント (国内工場 2工場 製造委託先工場 15工場) ・サプライヤーアセスメント 4社 (グンゼメディカル(株)の 主要サプライヤー)
社会	積極的に社会、地域活動に参加し、社会との友好な関係を築き、地域社会との持続可能性を追求する	・包括連携協定（大阪府、大阪市、京都府）による取り組み事業 ・京都モデルフォレスト運動in綾部への参加 ・グンゼラブアース倶楽部での寄付	・京都モデルフォレスト運動 4回 ・包括連携取り組み事業 18件
従業員	雇用および処遇における差別を行わず、機会の均等を図る。 事業活動に関わる全ての人の人権を尊重し、強制労働・児童労働は行わない。 従業員が適所適財、多様性を発揮できる能力開発を推進し、社会に貢献できる人財を育成する	・1on1ミーティング ・研修・セミナー ・メンタリング ・育児休職サポート面談 ・なんでも相談ホットライン	・エンゲージメントスコア 62 点 ・育児休職取得率 女性 87% 男性 78%
環境	事業活動の全過程において、生物多様性を含めた地球環境の保護および温室効果ガス削減に積極的に取り組むとともに、環境配慮型製品・サービスの提供を通じて、持続可能な地球と社会の実現に貢献する	・Scope3把握のためのサプライヤーとの対話 ・サーキュラーファクトリーを中心とした資源循環活動	・CO ₂ 排出量削減実績 37% ・Scope3 393,953t-CO₂ ・プラスチックフィルムHCX販売実績 約 40t
株主・投資家	サステナビリティ経営の推進を通じ企業の信頼を高める。 企業情報を積極的かつ公正に開示し、その信頼に応える	・株主総会 ・決算説明会 ・スモールミーティング ・個別IR面談 ・アナリスト・機関投資家向け工場見学会 ・個人投資家向け企業説明会	・IR面談者数 約 460 人

取り組み

株主・投資家との対話



執行役員
コーポレートコミュニケーション部長
中嶋 順子

グンゼグループは、株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を通じて、企業価値の持続的な向上を図ることを経営の重要課題と位置づけています。四半期ごとに開催している機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会や個別ミーティングに加え、スモールミーティングやカンファレンスへの参加など、さまざまな機会を通じて、事業環境や業績、経営戦略に関する情報を分かりやすく発信し、対話の場を広く設けています。

近年では、財務情報にとどまらず、ESGを含む非財務情報に関する質問や意見が増加しています。人的資本の活用、環境課題への対応、さらにはサプライチェーンを通じた人権尊重への取り組みなどについても、グンゼグループの考え方や具体的な取り組みを丁寧に説明するよう努めています。

こうした対話を通じて寄せられたご意見は、IR部門から経営層へ定期的にフィードバックした上で、取締役会などの議論を通じて経営戦略の立案、見直しなどに反映しています。また、透明性と公平性のある情報開示を徹底するため、IRサイトの充実や決算説明資料の改善、多言語対応の強化にも取り組んでいます。

今後も誠実かつ双方向の対話を継続し、資本市場との信頼関係を一層深めながら、企業価値の向上に努めていきます。



セルサイドアナリストとの1on1ミーティング

2025年3月期の決算説明会の様子
(ハイブリッド開催)

サステナビリティ

トップメッセージ



グンゼのサステナビリティ



環境



社会



ガバナンス



ESGデータ関連

イニシアティブへの参画・
外部評価

サステナビリティニュース



統合レポート



◀ サステナビリティトップへ

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

▶ 電子公告

▶ 重要なお知らせ

▶ ご利用条件について

▶ プライバシーポリシー

▶ ソーシャルメディアポリシー

▶ お問い合わせ窓口

▶ サイトマップ

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス >

内部統制機能の強化・整備を図り、
コーポレートガバナンスの
充実に努めています

コンプライアンス >

法令遵守と企業倫理を徹底し、
社会から信頼される企業経営を
実践しています

リスクマネジメント >

企業活動におけるリスクを適切に管理し、
安定した企業運営を実現しています

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・
外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work, Our future.

> 電子公告

> 重要なお知らせ

> ご利用条件について

> プライバシーポリシー

> ソーシャルメディアポリシー

> お問い合わせ窓口

> サイトマップ

締役会で決定するなど、コーポレートガバナンスの強化に努めています。

なお、2015年にグンゼグループのコーポレートガバナンスに関する基本方針として、「グンゼ コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定し、2021年に改定しました。

ガバナンス強化の変遷

	取り組み内容
2005年度	執行役員制度を導入し、取締役数の削減を実施
2006年度	取締役の任期を2年から1年に変更
	社外取締役、女性取締役を登用
2015年度	グンゼ コーポレートガバナンス・ガイドライン制定
2018年度	女性取締役が2名体制に
2019年度	指名・報酬委員会を設置（取締役会の諮問機関、社外取締役が議長）
	取締役の社外ウェイトが1/3に達する
2021年度	取締役・監査役のスキルマトリックスを公表

会議体及び委員会の概要

取締役会

取締役会は株主からの委託を受け、すべての株主のために効率的かつ実効的なコーポレートガバナンスを実現し、それを通じてグンゼグループが持続的に成長し長期的な企業価値の最大化を図ることについて責任を負います。

また、その責任を果たすため経営全般に対する監督機能を発揮して経営の公正性・透明性を確保するとともに、社長その他の経営陣の指名、評価およびその報酬の決定、グンゼグループが直面する重大なリスクの評価、対応策の策定ならびに重要な業務執行の決定などを通じて、自社のために最善の意思決定を行っています。

取締役会は原則として月1回開催（2024年度は13回開催）しており、業務執行に関する重要事項や法令、定款に定められた事項の決定を行うとともに、取締役の職務執行状態を監督しています。

取締役会の議論

法令・定款に定められた事項の審議に加え、重要な業務に関する事項として、四半期決算や次年度方針・営業予算、その他の個別案件の審議、および各執行部門からの報告、情報共有が適時・適切になされ、社外役員などからの積極的な質疑、課題提起、多様な視点からの議論がなされています。

2024年度は、中長期的視点での会社の方向性、中期経営計画「VISION2030 stage2」の策定、取締役会のあり方などについて、特に活発な議論がなされました。

また個別案件として、エンブラ分野における新棟（工場棟）の建設、メディカル事業における手術支援ロボットの導入、電子部品分野の構造改革、メカトロ分野の事業譲渡、アパレル事業の構造改革などについて提案・報告がなされ、審議しています。

取締役会の実効性評価

グンゼグループでは、全ての取締役・監査役が取締役会の有効性、自らの役員としての業績などについて毎年自己評価を行い、その結果を取締役会に提出、取締役会はその集計結果に基づき、毎年、取締役会全体の実効性について分析・評価を行うこととしています。

2019年度からは自己評価・分析において外部機関の助言を得て実施することとしており、2025年3月に取締役会の構成員であるすべての取締役・監査役が、外部機関に直接回答することにより匿名性を確保した上でアンケートを実施しました。

外部機関からの集計結果の報告、助言を踏まえ、取締役会にて報告し、評価・議論を行いました。アンケートでは、取締役会の構成、運営状況、付議事項、個々の役割遂行、相互監督等、総じて肯定的な評価が得られており、さらに外部機関活用以降の評価結果の推移、前年度評価並びに社外データとの比較も勘案し、取締役会全体の実効性については安定的に確保されていると認識しています。

抽出された課題への対策を行い、取締役会の実効性の更なる向上に向け、引き続き取り組んでいきます。

2024年度開催実績

	開催回数	議題数	報告数	出席率 （社内役員）	出席率 （社外役員）
取締役会	13	32	53	100%	100%

主な議題・報告	件数
経営戦略（中期経営計画含む）	10
決算・財務	16

個別案件	22
その他	11

分析・評価プロセス



2024年度における課題

- 資本効率などを意識した経営戦略の議論の活性化（次期中期経営計画の策定年度であることも踏まえた、中長期的な会社の方向性などの議論）
- 取締役・監査役に求められるトレーニング（役割・責務に対する必要な知識など）機会の創出

2024年度の主な実施事項

- 取締役会・役員会における重点課題に関する報告、ディスカッションなどの中で、資本効率などを意識した経営戦略について、活発な議論を実施
- 取締役会・役員会において、中長期視点での会社の方向性、中期経営計画の策定、取締役会のあり方などについて活発な議論を実施
- 役割・責務に対する必要な知識の情報提供および議論の場として取締役会研修会を実施するなど、取締役・監査役のトレーニング機会を創出

実効性評価を踏まえた2025年度以降の課題

- 中長期的な経営戦略などについての議論の更なる活性化（取締役会・役員会合・取締役研修会におけるディスカッション）
- 役員トレーニングの継続実施（役割・責務に対する必要な知識・スキルの取得や適切な更新、強化）

監査役会

監査役会は原則として取締役会開催に先立ち定期的に開催されるほか、必要に応じ随時開催され、法令・定款および監査役会規則の定めるところにより、監査に係る重要事項について報告を受け協議を行い、または決議をします。

2024年度開催実績

	開催回数	議題数	報告数	出席率 (社内役員)	出席率 (社外役員)
取締役会	15	20	26	100%	100%

監査役の活動内容

監査役の主な活動内容は以下の通りであり、常勤および非常勤別に実施した主な活動に●または○印を付しています。

活動内容	回数他	業務分担		
		常勤	社外 非常勤	非常勤
取締役会への出席、意見表明	13回	●	●	●
社外役員会合(本社部門・事業部門からの取り組み報告会)出席、意見交換	9回	●	●	●
その他重要会議への出席、意見表明 (経営執行会議・予算会議・事業グループ長会議・リスクマネジメント等委員会 他)	39回	●		○
重要な資料(稟議書など決裁資料、重要な契約書)閲覧、検証	随時	●		○
取締役との個別面談、意見交換(社外取締役との意見交換会1回を含む)	18回	●	○	○
執行役員・幹部社員などとの個別面談、業務執行状況の聴取、意見交換	99回	●	○	○
主要事業所・関係会社への往訪、調査	28単位	●	○	○
主要事業所・関係会社への棚卸実査立会い	3単位	●		
上記活動ならびに各部門・事業所などの自主点検票徴収を通じた、 内部統制システム整備・運用状況の調査と監視検証	自主点検 44単位	●	○	○
子会社監査役との連携(グループ監査役連絡会、個別コミュニケーション)	連絡会2回	●	○	●

取締役・監査役の選任について

取締役・監査役候補者の指名および経営陣幹部の選任については、取締役会にて定める選任基準に基づき、指名・報酬委員会での審議を経た上で取締役会で決定します。

取締役については、グンゼグループが機能ソリューション、メディカル、アパレル、ライフクリエイトの各事業を多角的かつグローバルに展開していることから、これらの事業活動について適切かつ迅速な意思決定と執行の監督を行うことができるよう、ジェンダーや国際性を含む多様性に配慮しながら、取締役会全体として各事業分野に加えて財務経理、技術開発・研究、営業・マーケティング、法務、人事などについて知識・経験・能力を有する社内出身の取締役と、他社での経営経験や社外の専門的な知識・経験と公正かつ客観的な立場から積極的な助言・提言できる複数の社外取締役を選任し、バランスのとれた取締役会を構成することを基本方針とし、指名・報酬委員会の審議を経た上で取締役会にて決定します。

監査役については、最低1名は財務・会計に関する適切な知見を有している者を含め、専門的な視点と独立的な立場から公正な意見表明を行える者で監査役会を構成することを基本方針として、指名・報酬委員会での審議および監査役会の同意を経た上で取締役会にて決定します。

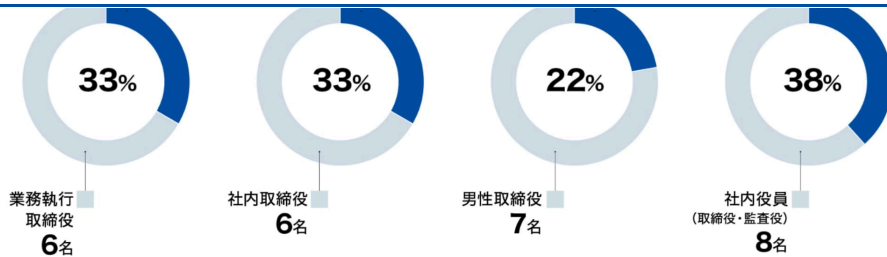
また、代表取締役などの業務執行取締役および執行役員の経営陣幹部については、業績などにつき指名・報酬委員会で毎年定期的に審査し、取締役会にて定める解任基準に該当するとの審査結果であった場合は、取締役会へ解任を勧告、取締役会は審査結果を検証の上基準に該当するとの結論に至った場合は、取締役候補者として指名せず、また代表取締役・業務執行役員および執行役員としての役職を解任します。

取締役・監査役のスキルマトリックス

属性		氏名・役職等	職歴・年齢	指名・報酬委員会	社内役員	社外役員	主な専門分野				
					各事業分野の経営	他社での経営経験	財務経理	生産技術・研究開発	営業・マーケティング	法務	国際性
取締役	男性	佐口 敏康 代表取締役会長	12年/ 満64歳	○	○				○		
	男性	岡 高広 代表取締役社長	2年/ 満63歳	○	○				○		○
	独立/ 男性	鯨岡 修 社外取締役	7年/ 満70歳	○ (議長)		○			○		
	独立/ 女性	木田 理恵 社外取締役	6年/ 満57歳	○		○			○		
	独立/ 女性	船戸 貴美子 社外取締役	-/ 満57歳	○						○	
	男性	澤田 博和 取締役	3年/ 満61歳				○				
	男性	奥田 智久 取締役	2年/ 満61歳		○			○			○
	男性	河西 亮二 取締役	5年/ 満63歳		○		○				○
	男性	松田 晶二郎 取締役	1年/ 満57歳		○			○			○
監査役	男性	鈴木 富夫 常勤監査役	5年/ 満62歳				○				○
	独立/ 男性	船富 康次 社外監査役	3年/ 満65歳				○				
	独立/ 男性	中 紀人 社外監査役	3年/ 満64歳							○	
	女性	吉鹿 央子 監査役	1年/ 満61歳							○	○

・各人の有するスキルのうち主なものに○印をつけています (2026年6月25日現在)

取締役会の構成



取締役・監査役のトレーニング

新任取締役（社外取締役を含む）は、就任後速やかに法務、コンプライアンス等取締役または外部弁護士などによる研修プログラムに参加するとともに、経営戦略、財務状態その他の重要な事項につき社長またはその指名する業務執行取締役または役員から説明を受けることとしています。

また取締役および監査役は、その役割を果たすためにグンゼグループの財務状態、法令遵守、コーポレートガバナンスその他の事項に関して、常に能動的に情報を収集し研鑽を積み重ねなければならないこととしています。なお、外部研修などにかかる費用は、請求などに基づき会社が負担しています。

指名・報酬委員会

取締役・監査役候補者の指名、経営陣幹部の選任および取締役の報酬などの決定手続きにおける独立性・透明性・客観性を確保することを目的に、取締役会の諮問機関として代表取締役2名と社外取締役3名で構成され、社外取締役を議長とする指名・報酬委員会を設置しています。

2024年度は取締役・監査役ならびに執行役員の選任・解任、取締役・監査役の報酬などを審議するとともに、最高経営責任者を含む経営幹部候補者の育成状況についての確認、意見交換を行いました。

取締役報酬の審議においては、2022年度に業績連動の割合を高めた役員報酬制度に改定を行い、改定後の制度に基づいた個人別の報酬等の内容と決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行い、取締役会に答申しています。

指名・報酬委員会 審議・決定事項

- ・取締役・監査役の選任・解任（株主総会決議事項）、ならびに執行役員の選任・解任
- ・代表取締役、役付取締役の選任・解任
- ・後継者計画（育成を含む）
- ・取締役の報酬限度額（株主総会決議事項）
- ・取締役の報酬等（個々の金額を含む）
- ・その他指名、報酬に関わる経営上の重要事項

2024年度 指名・報酬委員会審議内容

- ・取締役の選任・解任
- ・代表取締役、役付取締役の選任・解任
- ・執行役員の選任・解任
- ・取締役の報酬改定（減額措置含む）
- ・取締役賞与、株式報酬
- ・経営幹部候補者育成

後継者計画

取締役会は社長の後継者の育成を経営上の重要事項の一つであると認識し、指名・報酬委員会での審議により社長の資質に関する要件や育成方針を定めた承継プランを策定し、取締役会で決定しています。

取締役会は当該承継プランを共有し、指名・報酬委員会の報告により社長候補者となり得る経営幹部の育成状況を定期的に確認するとともに、社長が退任するときには承継プランに基づき、社長の後継者となるべき候補者を決定しています。

役員報酬制度

業績連動賞与

業績連動賞与として取締役に対して賞与を毎年一定の時期に支給しています。

業績連動賞与額の算定基礎として選定した業績指標の内容は、各事業年度のGVA（経済的付加価値）であり、当該業績指標を選定した理由はグンゼグループの業績や株主利益と連動性があり、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるために最も適切な指標であると判断したからです。業績連動賞与の額は個々の役員報酬月額に役位ごとに定められた役員賞与係数、並びにGVA対業績予想増減額に応じた業績連動係数を乗じて算出しています。

なお、当事業年度におけるGVAの実績は△9億円（前事業年度は△16億円）でした。

業績連動型株式報酬

取締役（社外取締役を除く）に対し中長期的な企業価値向上に対する意識を高めるため、業績連動型株式報酬として譲渡制限付株式を毎年一定時期に支給しています。

業績連動型株式報酬の額の算定基礎として選定した業績指標の内容は、各事業年度の株主総利回り（Total Shareholders Return）とTOPIXとの相対評価、および全社CO₂排出量削減目標の達成度合に基づく評価で、当該業績指標を選定した理由は、株主の皆様との一層の株主価値共有を進めグンゼグループの企業価値向上に対する貢献意識を高めるために、また環境負荷を低減した事業活動推進のために最も適切な指標であると判断したからです。

業績連動型株式報酬の額は個々の役員報酬月額に役位別に定めた係数（固定部分・変動部分）を乗じて算定しており、変動部分については、TSRとTOPIXとの相対評価及び全社CO₂排出量削減目標の達成度合に応じた業績連動係数を乗じて算出しています。

なお、当該事業年度の支給に用いた前事業年度のTSR伸長率（対2021年度末比）は155.41%（TOPIX 伸長率：149.56%）、全社CO₂排出量削減率（対2013年度比）は33.0%（目標値：27.0%）でした。

取締役 (社外取締役を除く)	138	72	27	38	8
監査役 (社外監査役を除く)	24	24	-	-	2
社外取締役	21	21	-	-	3
社外監査役	14	14	-	-	2

(注) 対象となる役員数には、2024年6月開催の定時株主総会終結の時をもって退任した社外監査役2名を含む。

役員報酬制度のKPI

報酬の種類	KPI (業績指標)
賞与	・ 各事業年度のGVAを反映
株式報酬	・ 各事業年度の株主総利回り (TSR) とTOPIXとの相対評価を反映 ・ ESG評価指標として、全社CO ₂ 排出量削減目標の達成度合いを反映

報酬構成比率 (%)

	固定報酬	業績連動賞与	業績連動型株式報酬	合計
代表取締役社長	50.0	30.0	20.0	100.0
取締役 (社外取締役を除く)	62.0	24.0	14.0	100.0
監査役 (社外監査役を除く)	100.0	-	-	100.0
社外取締役	100.0	-	-	100.0
社外監査役	100.0	-	-	100.0

(注) 取締役は執行に基づく報酬も含めた場合の比率。

業務執行体制

経営執行会議

	開催回数	議案数	出席率
経営執行会議	16	54	99%

主な議題	付議報告件数
経営戦略	14
予算・決算	19
財務	7
組織・人事	6
ガバナンス・リスクマネジメント	3
中期経営計画	2
個別案件	3

取締役会で決定された経営の基本方針に基づいて、グンゼグループ全体にまたがる経営管理上の重要事項、業務執行に関する重要事項を協議・決定するとともに、部門活動の総合的な調整および特に重要な個別統制に関し協議決定することを目的として設置。
社長、各機能部門、事業セグメントを統括・担当する取締役もしくは執行役員をメンバーとしています。
2024年度は16回開催し、54議案（2023年度は17回、56議案）の協議・決定を実施しました。



事業グループ長会議	12	100%
-----------	----	------

グンゼグループの効率的な経営の遂行を図るとともに、経営目標の達成を図ることを目的とし、

- ①経営方針および重要事項の周知徹底、
 - ②経営参画体制および内部統制の運用強化、
 - ③事業グループ経営の調整および統制等による効率的な経営遂行
- の3項目について議論しています。

毎月所定の様式に基づいた報告をするとともに、四半期に1回以上、社長、各機能部門、事業セグメントを統括・担当する取締役もしくは執行役員、並びに機能部門長、事業グループ長で、対面による会議を開催しています。

毎年1月には年度経営方針および予算編成方針が担当部門から説明され、周知徹底を図るとともに、その他の月には直近の経営状況や今後の見込み、事業運営上の重要事項などに関して各事業部門から報告がなされ、経営目標の達成に向けて進捗管理を行っています。

役員会合

	開催回数	件数	出席率
役員会合	8	10	90%

内容	件数
経営方針・中期経営計画	4
各事業部門の現状報告、重点取り組み事項	2
各機能部門の現状報告、重点取り組み事項	2
個別課題への取り組み状況	2

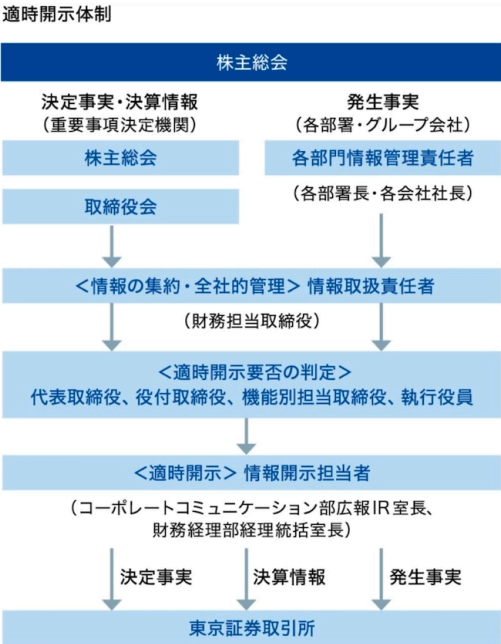
社外取締役、監査役がその時々抱える課題について積極的に意見を交わすなど、事業に対する理解を深める機会として実施しています。

会合の内容は、中期経営計画や各事業部門・機能部門の現況と重点取り組み事項、社会課題に対する全社的な取り組み状況などについて2024年度は8回開催し、10テーマについて質疑応答・意見交換を実施しました。

適時開示体制

各部門で決定または発生した重要な事実は、遅滞なく情報取扱責任者に一元的に集約し、「決定事実」「決算情報」については、情報取扱責任者が開示の要否を関係者と協議した上で、株主総会・取締役会決議など、会社の業務執行を実質的に決定する機関により決議が行われた時点で、また「発生事実」については、情報取扱責任者がその発生を認識した時点で速やかにトップを含めた経営層と協議し、適時適切に開示する体制を構築しています。

開示が決定された重要な会社情報については、情報取扱責任者が直ちに情報開示担当者に開示指示を行うとともに、情報開示担当者は「適時開示規則」「会社情報適時開示ガイドブック」に則り適時適切に開示処理を行っています。





代表取締役 社長 堀内 博
取締役 副社長 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博

取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博

取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博

取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博

取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博
取締役 常務 堀内 博

政策保有株に関する取り組み

詳しくは財務資本戦略をご覧ください ➤

サステナビリティ

トップメッセージ ➤	グンゼのサステナビリティ ➤	環境 ➤	社会 ➤
ガバナンス ➤	ESGデータ関連 ➤	イニシアティブへの参画・外部評価 ➤	サステナビリティニュース ➤
統合レポート ➤			

◀ サステナビリティトップへ

- 企業情報

 - トップメッセージ
 - 経営理念
 - 会社概要
 - 役員一覧
 - コーポレートブランド
 - 沿革・歴史
 - 拠点情報
 - グローバルネットワーク
 - スペシャルコンテンツ
 - こんなところに！グンゼ
- 製品・サービス

 - アパレル分野
 - プラスチックフィルム分野
 - メディカル分野
 - エンジニアリングプラスチック分野
 - メカトロニクス分野
 - 繊維資材分野
 - 不動産関連分野
 - 商業デベロッパー分野
 - スポーツクラブ分野
 - 環境緑化分野
 - エンジニアリング分野
- 技術・研究開発

 - グンゼの技術力
 - 研究開発体制
 - 研究開発戦略
 - QOLへの取り組み
 - 研究開発の歴史
- サステナビリティ

 - トップメッセージ
 - グンゼのサステナビリティ
 - 環境
 - 社会
 - ガバナンス
 - ESGデータ関連
 - イニシアティブへの参画・外部評価
 - サステナビリティニュース
 - 統合レポート
 - グンゼの肌着教室
- 株主・投資家情報

 - トップメッセージ
 - 経営方針
 - 財務・業績
 - 株主・株式情報
 - IR資料室
 - 個人投資家の皆さまへ
 - IRサポート
 - 統合レポート
 - IRニュース
- 採用情報

 - 新卒採用情報
 - キャリア採用情報
 - 数字で見るGUNZE
 - Our work. Our future.

コンプライアンス

方針・基本的な考え方

目標・実績

体制

取り組み

教育啓発活動

税務方針の制定

方針・基本的な考え方

グンゼグループは、『創業の精神』である「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者と共存共栄をはかる」をコンプライアンスの核としています。従業員が守るべきルールを具体的に分かりやすくまとめた「グンゼグループ行動規範」を制定し、グループ従業員の理解の促進とルールの周知徹底を図っています。

[グンゼ行動規範はこちら >](#)

目標・実績

社内窓口である「なんでも相談ホットライン」、及び弁護士が対応する通報窓口への通報・相談件数は以下のページを参照ください。

[詳しくはこちら >](#)

体制

社内窓口である「なんでも相談ホットライン」では、コンプライアンスなどに関する相談を受け付けており、関係者のプライバシーに配慮した上で問題解決を図っています。加えて、弁護士が対応する通報窓口も設置しており、公益通報対象に該当する内容の通報を受けた際は弁護士から直接、監査役に報告できるルートを確認するなど、より重大な不正に対応する仕組みづくりも行っております。

取り組み

グンゼグループでは、労災、不正行為、ハラスメント、その他コンプライアンス違反行為の発生原因を早期に把握し、適切な対処を図るため、「なんでも相談ホットライン」を社内に設けるほか、弁護士が対応する社外通報窓口も設置しています。

グループ全体に基本方針を共有するため、社内イントラネットやポスター掲示などを活用したトップメッセージの発信や、グンゼグループの全従業員が利用できることを明確にするため社内規程を改訂するなど、利用促進に向けた活動を進めています。

2022年度からは新入社員を対象に、e-ラーニングおよびIP・リーガル部講師によるリアル研修をいずれも実施するハイブリッド研修を始めました。グンゼの倫理観を共有するとともに、部署や責任範囲にかかわらず必須知識といえる、インサイダー取引規制やソーシャルメディアを利用する際の注意点について、理解を深めてもらうことを目的に、フォローアップ研修も実施しています。また、改正障害者差別解消法施行のタイミングで、グンゼグループが運営する店舗や施設を使用するすべてのお客さまに、これからも安心してご利用いただけるように、グンゼグループが行うべき適切な配慮について研修を行いました。

また、アパレル事業では多くの技能実習生を受け入れています。ベトナムおよびインドネシアからの技能実習生が実習生全体の9割以上を占めていることから、2024年度にベトナム語およびインドネシア語で相談できる窓口を設置しました。

いずれの窓口においても、通報内容に対してはプライバシーに配慮した上で、公正かつ迅速な調査を行い、問題解決を図っています。

また、技能実習生が安心して働くことができるように、就業規則の翻訳も進めており、既にいくつかの工場ではベトナム語の就業規則を備え置きしています。



教育啓発活動

IP・リーガル部員がトレーナーとなり、社内研修会を開催



IP・リーガル部では、下請法、独占禁止法、景品表示法、フリーランス新法、PLなどの法令や特許の読み方、出願時の注意点などについて、「全員がトレーナー」「教えることにより学ぶ」を合言葉に、当該分野のエキスパートを目指す部員が、講師として研修を提供しています。

実際に対面で行う研修だけではなく、リモートでも参加することができ、仕事の都合などで参加できなかった場合は、後にイントラネットで研修録画を視聴できる仕組みを整えています。

2024年度は、IP・リーガル部主催の研修に、総計582人の従業員が出席しました。

税務方針の制定

グンゼグループ税務方針

グンゼは、1896年、京都府（現在の綾部市）の地域産業である蚕糸業の振興を目的に設立されました。以来、創業の精神である「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」を経系（たていと）に、時代のニーズに合わせた事業の展開を緯系（よこいと）にして、変革と挑戦を続けてまいりました。

私たちは、事業を行う国・地域での適正な納税は義務であるとともに社会貢献の基本として捉えております。これからも社会とともに持続的に成長することを通して株主価値の向上に取り組み、適正な納税に努めてまいります。

1. 法令遵守

グンゼグループは、「グンゼ行動規範」において、「企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たす」こと、「世界に通じる公正なルールにのっとり活動すること」を宣言しています。

各国・地域の法令を遵守するとともに、常に高い倫理観を持ち、違法な、また反社会的な行為は行いません。

また、租税回避目的の行為や通常の事業活動を逸脱する税務プランニングは行いません。

2. 株主価値の向上

グンゼグループは、二重課税の防止に努めるほか、通常の事業活動の範囲内における優遇税制の活用などの税務プランニングを検討・実施することで、税コストを最適化し、株主価値の向上に努めます。

3. 移転価格

グンゼグループは、関連者間の取引について、OECD移転価格ガイドラインに基づき、関連各社が負担するリスクと、保有する機能・資産に応じた、独立企業間価格で行うことで、各国・地域における適正な納税に努めます。

4. 税務当局との関係

グンゼグループは、税務当局の要請に対し、適時適切な情報提供を行うなど、真摯に対応し、健全な関係構築に努めます。

税務当局から指導を受けた場合には、原因を究明し、適切な改善措置を講じ、再発防止に取り組みます。

サステナビリティ

[トップメッセージ](#)[グンゼのサステナビリティ](#)[環境](#)[社会](#)[ガバナンス](#)[ESGデータ関連](#)[イニシアティブへの参画・外部評価](#)[サステナビリティニュース](#)[統合レポート](#)

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



リスクマネジメント

[方針・基本的な考え方](#)[リスクマネジメントの取り組み](#)[データ・セキュリティ、プライバシー](#)[事業継続マネジメント](#)

方針・基本的な考え方

リスクマネジメント体制の強化

グンゼグループではリスク全般について未然防止や不測の事態への適切な対応を図るため、リスクマネジメント委員会を設置しています。労災、不正行為、そしてあらゆるハラスメントをゼロにすることを目標に、具体的なリスクの洗い出しを行い、リスクを最小化すべく対策に取り組んでいます。

目標・実績

	リスクマネジメント委員会開催数
2024年度	6回
2023年度	4回
2022年度	4回

体制

リスクマネジメント委員会では、リスク管理に関する規定に基づき、リスクの予防並びに発生したリスクについての対処及び再発予防策等について審議及び検討を行っています。本委員会は、コンプライアンス担当役員、および部門長で構成しています。

[体制図はこちら](#)

リスクマネジメントの取り組み

2024年度に6回開催したリスクマネジメント委員会ではそれぞれのリスクに対して定めた主担当部門によるモニタリングの結果の報告を受け、対策の実行状況の確認および今後の対応を協議・決定しました。

これらの取り組みは、取締役会へ報告され、取締役会が必要に応じて指示を行うことで内部統制の実効性を担保しています。

2022年度以降、不正行為防止に向けて、関係する機能部門が連携し工場・事業所への訪問監査を実施しており、リスクマネジメント委員会においても定期的に監査結果を共有し、さらなる改善を図っています。

また海外赴任者のリスクを踏まえた支援体制の強化にも取り組んでいます。近年、国内外で大規模災害や紛争が相次いで発生していることを踏まえ、緊急時に迅速かつ確な対応が可能となるよう、社内規程の整備および見直しを進め対応体制の強化を図っています。

2023年度は、従業員に対する安全な職場環境の提供を重視し、労働災害撲滅を念頭に、各事業所の耐震診断や老朽化施設の解体を進めました。

また、製品を製造・販売する事業者の責任として、景品表示法または薬機法の違反はもとより、商品や広告上の不適切な表現によってお客さまにご迷惑をおかけるリスクは避けなければなりません。

特にアパレル商品をネット通販で提供する機会が増加することに伴い、より多くの方にとって適切な表示・表現を記載することが重要となってきています。

お客さまにお届けする製品の表示・表現について、複数部門の担当者による社内データベース上での事前審査を行うとともに、社内研修の実施により、リスクの最小化に取り組んでいます。

2022年度は、それぞれのリスクに対して定めた主担当部門によるモニタリングの結果の報告を受け、対策の実行状況の確認および今後の対応を協議・決定しました。

国際関係の変化による原材料の価格変動や供給が途絶するリスクについても、リスクマネジメント委員会において、各事業部門が直面しているリスクの情報を収集、把握し、本社部門と事業部門が一体となったリスクマネジメントを推進しています。

また、アパレルカンパニーのECルート拡販推進によって増加する、景表法、薬機法違反や不適切な表現により社会的信用が低下するリスクについては、法務コンプライアンス室による研修の実施や、複数部門の担当者による社内データベース上での審査など、事業部門を横断してリスクを軽減し、企業価値を継続的に増大させる活動を行っています。

セキュリティ基本方針

グンゼグループは情報セキュリティの維持・向上に向けて2006年度より「ITセキュリティ方針」を定め、組織的な体制の下でグループ全体のリスク状況の把握、基本方針の策定、定期的な診断・モニタリング、インシデント発生時の対応やセキュリティ意識の向上など、体系的な取り組みを行っています。

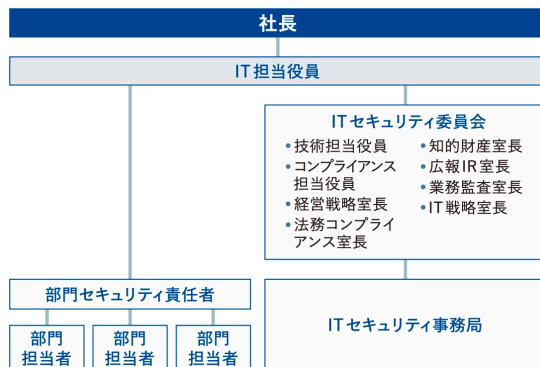
ITセキュリティ方針の概要

項目	内容
1. 基本理念	全ての情報資産の使用および保護に関し、情報セキュリティを通じて業務の適正性、有効性および効率性を確保すること、本方針が全ての役員および従業員に適用されることなどの基本事項を記載
2. 組織体制	社長をトップとする体制とIT担当役員を中心とした運営体制および責務を記載
3. 役員および従業員の責務	IT情報セキュリティ維持・向上のための遵守事項や情報資産の取り扱いを記載
4. 法令順守	関連する各法令(個人情報保護法、不正アクセス禁止法、著作権法等)および規範の遵守を記載
5. 事故発生時の対応	事故発生時は、影響度に応じた事故対応チームを発足し対応すること、また関連部門と連携し、対外公表をはじめ各国・各地域における当局への届出を適時・適切に行なうことなどの事故対応方針を記載
6. 違反時の対応	役員および従業員が、当該規程や関連する文書に定められた事項に違反した場合の処分を記載

体制

グンゼグループは、セキュリティ対策活動を推進するための組織として、経営が任命したIT担当役員を委員長にITセキュリティ委員会を設置しています。本委員会は、全社のセキュリティに関する状況把握、管理体制の維持、セキュリティに関する対策標準の策定、各施策の審議および決定を行います。また、ITセキュリティ事務局を設置し、委員会で決定した対策事項の実行および監督のため、各部門のセキュリティ責任者・担当者へ対策を指示・フォローしています。

ITセキュリティ運用組織図



取り組み

①教育・啓発

教育・啓発活動の一環として、従業員に対して情報セキュリティに関する重要な情報を定期的に配信しています。また、セキュリティ訓練の実施により、理解状況の確認と振り返りを行い、従業員の情報リテラシー向上に取り組んでいます。情報資産の適切な管理・活用について、従業員への教育・訓練を継続的に実施し、組織全体での情報セキュリティ意識の向上に努めています。

②セキュリティ対策

システムへの不正な侵入、情報漏えい、改ざん、紛失・盗難、破壊、利用妨害等を防止するため、適切な対策を講じて情報システムを安定的に運用します。特に、高度化するサーバー攻撃に対して、定期的な対策の見直しを実施しています。また、事業活動に必要な情報システムやネットワークを継続利用できるよう適切に管理します。情報セキュリティ上の問題が発生した場合は、関連部門及び外部の関連機関と連携して被害の拡大防止と原因究明を進め、再発を防止します。

事業継続マネジメント

グンゼグループでは、大地震・風水害などの自然災害や事故、感染症の蔓延など、事業継続に支障をきたすさまざまなリスクに備え、人命第一に、事業を早急に復旧し、供給責任を果たすために事業継続マネジメントの構築を目指しています。

サステナビリティ

◀ サステナビリティトップへ

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

▶ 電子公告

▶ 重要なお知らせ

▶ ご利用条件について

▶ プライバシーポリシー

▶ ソーシャルメディアポリシー

▶ お問い合わせ窓口

▶ サイトマップ

ESGデータ関連

サステナビリティ レポートアーカイブ >

グンゼのサステナビリティサイトの
PDF版を掲載しています

方針・ガイドライン一覧 >

グンゼグループの方針や
ガイドラインなどをまとめています

ESGパフォーマンスデータ >

E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)に
関するデータを掲載しています

第三者検証 >

データの正確性の確保のため、
第三者機関による検証を受けています

編集方針 >

サステナビリティ情報を中心に、
網羅的でわかりやすい情報開示に努めています

サステナビリティ

[トップメッセージ >](#)[グンゼのサステナビリティ >](#)[環境 >](#)[社会 >](#)[ガバナンス >](#)[ESGデータ関連 >](#)[イニシアティブへの参画・
外部評価 >](#)[サステナビリティニュース >](#)[統合レポート >](#)[< サステナビリティトップへ](#)

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

[> 電子公告](#)[> 重要なお知らせ](#)[> ご利用条件について](#)[> プライバシーポリシー](#)[> ソーシャルメディアポリシー](#)[> お問い合わせ窓口](#)[> サイトマップ](#)

サステナビリティウェブサイトアーカイブ

毎年11月時点のグンゼサステナビリティサイトのPDF版を掲載しています。

なお、サステナビリティサイトは、随時更新しています。



トップ > サステナビリティ



グンゼサステナビリティウェブサイト2025

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・
外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

> 電子公告

> 重要なお知らせ

> ご利用条件について

> プライバシーポリシー

> ソーシャルメディアポリシー

> お問い合わせ窓口

> サイトマップ

方針・ガイドライン一覧

方針・ガイドライン

グンゼグループの方針やガイドラインなどをまとめています。

項目	方針・ガイドライン
行動規範	グンゼグループ行動規範 グンゼグループサステナビリティ基本方針
環境	グンゼ環境憲章 プラスチック資源循環基本方針
社会	グンゼ人権方針 グンゼグループサプライヤー行動規範 グンゼグループサステナブル調達方針 製品安全基本方針 医療機関等との関係の透明性に関する指針 パートナーシップ構築宣言 繊維産業における責任ある企業行動実施宣言 健康経営宣言
ガバナンス	グンゼコーポレートガバナンスガイドライン セキュリティ基本方針 グンゼグループ税務方針 プライバシーポリシー 情報開示の基本方針 配当に関する方針 ソーシャルメディアポリシー

サステナビリティ

トップメッセージ >	グンゼのサステナビリティ >	環境 >	社会 >
ガバナンス >	ESGデータ関連 >	イニシアティブへの参画・外部評価 >	サステナビリティニュース >
統合レポート >			

[< サステナビリティトップへ](#)



- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



ESGパフォーマンスデータ

環境 > 社会 > ガバナンス > マネジメントシステム認証取得状況 >

環境

環境関連（Gunzeグループ）

	集計範囲		集計期間	2021年	2022年	2023年	2024年	単位
CO ₂ 排出量	国内+海外	scope1	年度	38,979	38,643	34,732	31,051	t -CO ₂
		scope2	年度	85,177	79,681	80,785	77,265	
	国内	scope3	年度	411,434	423,860	390,856	393,953	
廃棄物総発生量	Gunzeグループ（国内）		年度	6,787	7,553	6,713	7,311	t
	Gunzeグループ（海外）		年度	2,093	1,741	1,218	1,220	
エネルギー消費量	Gunzeグループ（国内）		年度	46,674	46,389	43,445	39,962	KI （原油換算）
	Gunzeグループ（海外）		年度	20,399	17,802	15,821	12,875	
水質汚濁物質：BOD	Gunzeグループ（国内）		年度	3.2	3.7	3.0	3.9	t
	Gunzeグループ（海外）		年度	0.2	0.6	0.4	0.4	
水質汚濁物質：COD	Gunzeグループ（国内）		年度	17.5	15.1	14.7	15.3	t
	Gunzeグループ（海外）		年度	3.0	4.7	3.7	3.8	

太陽光発電設備 事業所一覧

事業所	発電量 (MWh/年)	削減量 (t-CO ₂ /年)	稼働年月日
守山工場（新棟）	1,214	405	2023年1月
江南工場（事務所棟）	105	40	2023年2月
江南工場（6号棟）	238	90	2023年2月
綾部エンブラ(株)	554	194	2023年9月
メディカル（包装棟）	77	34	2024年9月
メディカル（事務所、第3工場）	234	102	2025年3月
江南工場（7号棟）	388	150	2025年3月

太陽光発電FIT事業展開

事業所	発電量 (MWh/年)	削減量 (t-CO ₂ /年)	稼働年月日
福島プラスチック	2,400	1,300	2014年1月



福島・宇都宮・江南でのFIT事業において、発電した分の売電による収入と「環境価値」トラッキング付非化石証書を取得し、自社の太陽光発電を使った再生エネルギーによりCO₂削減を実施しています。

社会

従業員関連

		集計範囲	集計期間	2021年	2022年	2023年	2024年	単位
従業員数	合計	グンゼグループ	年度	5,692	5,214	4,883	4,339	人
	合計	グンゼ(株)		1,662	1,553	1,449	1,401	人
	男性			1,111	1,027	958	904	
	女性			551	526	491	497	
管理職に占める 女性比率	管理職 (課長級以上)	グンゼ(株)	年度 ※4月1日時点	3.1	5.1	7.0	6.0	%
採用数	合計	グンゼ(株)	年度	26	25	27	31	人
	男性			15	13	13	15	
	女性			11	12	14	16	
離職率		グンゼ(株) 正社員離職率	年度	12		8	8	%
障がい者雇用率		グンゼ(株)	年度 ※3月20日時点	2.07	2.2	2.46	2.77	%
平均年齢		グンゼ(株)	年度	43.7	43.3	43.5	43.5	歳
平均勤続年数		グンゼ(株)	年度	20.2	19.7	20.0	19.9	年
定年退職後再雇用率		グンゼ(株)	年度	72	75.6	72.2	60	%
有給休暇 取得平均日数		グンゼ(株)	年度	12.8	14.1	14.9	14.5	日
時間外・ 休日労働平均時間		グンゼ(株)	年度	5.24	6.51	6.63	6.61	時間
育児休職取得者数		グンゼ(株)	年度	14	17	20	20	人
育児短時間 勤務利用者数		グンゼ(株)	年度	53	52	59	64	人
男性育児休職 取得者率		グンゼ(株)	年度	5	36	42	78	%
子の看護休暇 取得者数		グンゼ(株)	年度	12	15	16	19	人
介護休職取得者数		グンゼ(株)	年度	3	2	1	1	人
介護短時間 勤務利用者数		グンゼ(株)	年度	2	4	4	2	人
介護休暇取得者数		グンゼ(株)	年度	3	8	3	6	人
労働災害発生件数		グンゼグループ	年度	37	32	31	34	件
(内休業災害数)		グンゼグループ	年度	12	13	13	11	件
労働災害休業度数率		グンゼ(株)	年度	0.26	2.07	2.06	1.15	%



なんでも相談ホットライン

内容	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	ホットライン	社外通報窓口	ホットライン	社外通報窓口	ホットライン	社外通報窓口	ホットライン	社外通報窓口
職場の人間関係	7件	0件	6件	0件	4件	0件	3件	2件
セクシュアル・ハラスメント	0件	0件	1件	0件	2件	0件	0件	0件
パワー・ハラスメント	3件	1件	7件	1件	4件	0件	3件	2件
公益通報対象事実	0件	0件	0件	0件	1件	0件	0件	1件
その他	4件	0件	4件	0件	7件	0件	7件	3件

ガバナンス

ガバナンス関連

	集計範囲	集計期間	2021年	2022年	2023年	2024年	単位
取締役数	グンゼ(株)	年度	8	9	9	9	人
社外取締役数 (独立役員数)	グンゼ(株)	年度	3	3	3	3	人
女性取締役数	グンゼ(株)	年度	2	2	2	2	人
取締役の 女性比率	グンゼ(株)	年度	25	22	22	22	%
研究開発費	グンゼ(株)	年度	2,576	2,501	2,471	2,445	百万円

マネジメントシステム認証取得状況

ISO14001（環境マネジメントシステム）

登録事業者	国内事業所数	事業所名	登録書番号	認証機関
守山事業所	3	守山工場、研究開発部（滋賀）、小津加工センター	E1626	エイエスアール株式会社
グンゼ高分子(株)	1	グンゼ高分子(株)	JQA-EM2660	一般財団法人 日本品質保証機構
グンゼ包装システム(株)	1	グンゼ包装システム(株)守山工場	E2149	エイエスアール株式会社
福島プラスチックス	2	福島プラスチックス、福島グラフィア	E1819	エイエスアール株式会社
エンブラ事業部江南工場	2	江南工場、綾部エンブラ(株)	E1941	エイエスアール株式会社
津山グンゼ	1	津山グンゼ	JQA-EM1690	一般財団法人 日本品質保証機構
アパレルカンパニー	5	技術統括部・商品企画部(宮津)、宮津工場、梁瀬工場、東北グンゼ、養父アパレル	JQA-EM1658	一般財団法人 日本品質保証機構

製品・サービス	業種	工場(株)	ISO規格	品質保証機関
グンゼ高分子(株)	1	グンゼ高分子(株)	JQA-1311	一般財団法人 日本品質保証機構
グンゼ包装システム(株)	2	グンゼ包装システム(株)守山工場、福島グラビア(株)	Q4666	エイエスアール株式会社
エンブラ事業部	2	エンブラ事業部江南工場、綾部エンブラ(株)	Q4247	エイエスアール株式会社
メカトロ事業部	1	メカトロ事業部	JQA-QMA11805	一般財団法人 日本品質保証機構
メディカル事業部 (ISO13485)	1	メディカル事業部綾部工場	Q5 037774 0052 Rev. 04	テュフ ブードジャパン株式会社
繊維資材事業部	1	繊維資材事業部津山工場	JQA-QM4307	一般財団法人 日本品質保証機構

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株主情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

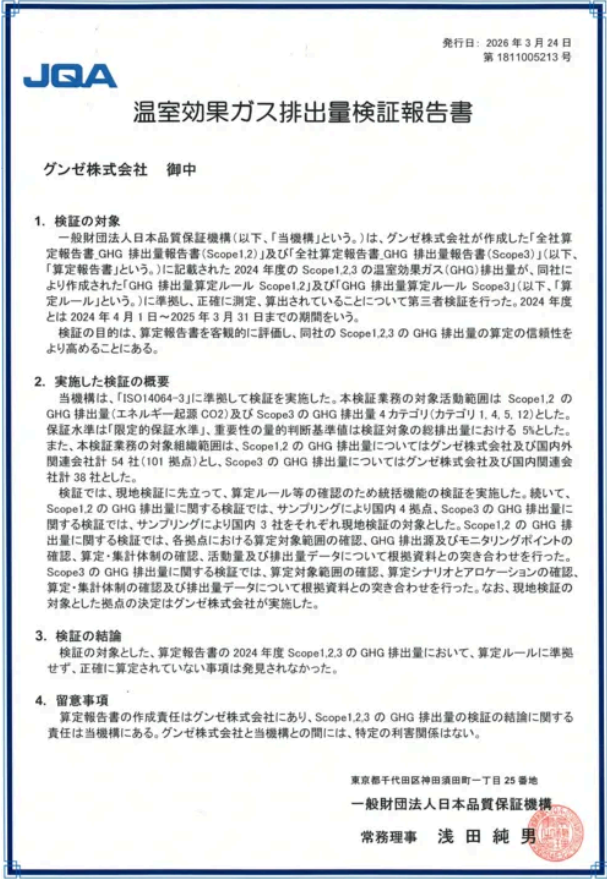
採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

第三者検証

第三者検証（環境）

グンゼグループは、開示データの正確性・信頼性を高めるため、一部の環境データに関して独立した第三者機関による検証を受けています。検証の結果、当社が定める算定ルールへの準拠状況、および算定内容について、重要な不備は認められませんでした。今後も、検証対象データの拡大を図るとともに、透明性と信頼性の高い情報開示に努めていきます。



環境データ（CO2排出量実績）				
気候変動への対応				
CO2排出量（Scope1-2）の推移【単位：t-CO ₂ 】				
目標	2030年までにCO2排出量を2013年度比で35%以上削減			
	2013年度	2023年度	2024年度	2025年度
Scope1	52,313	34,732	31,056	28,547
Scope2（マーケット基準）	120,196	80,785	77,400	70,364
Scope2（ロケーション基準）	-	-	74,392	72,786
2013年度比（Scope1+2）	-	▲33.0%	▲37.2%	▲42.7%
※対象範囲：グンゼグループ財務連結範囲の国内及び海外事業所				
CO2排出量（Scope3）排出量の推移【単位：t-CO ₂ 】				
目標	検討中	2023年度	2024年度	2025年度
Scope3		390,856	395,637	382,151
カテゴリ別				
1. 購入した製品・サービス		228,775	233,836	221,923
2. 資本財		28,185	22,250	35,291
3. 燃料・エネルギー・輸送の活動（Scope1またはScope2に含まれないもの）		14,992	14,838	13,875
4. 上流の輸送・配送		10,830	10,821	10,521
5. 事業において発生した廃棄物		2,720	3,908	3,497
6. 出張		398	425	321
7. 従業員の通勤		1,189	1,279	941
8. 上流のリース資産（対象外）		-	-	-
9. 下流の輸送・配送（カテゴリ4 上流の輸送・配送で計上）		-	-	-
10. 販売した製品の加工（対象外）		-	-	-
11. 販売した製品の使用		10,634	12,504	12,614
12. 販売した製品の廃棄		93,133	95,774	83,169
13. 下流のリース資産（対象外）		-	-	-
14. ファンデーション（対象外）		-	-	-
15. 投資（対象外）		-	-	-
※対象範囲：グンゼグループ財務連結範囲の国内事業所				
※Scope3における第三者検証範囲は全体の80%以上をカバーするカテゴリ1,4,5,12を対象に実施				
第三者検証：2025年3月期以降、第三者検証を実施しており、GRIを付したデータは外部機関による保証を受けています。				

温室効果ガス排出量検証報告書 (PDF:934KB)

CO2排出量の実績データ
(第三者検証を受けた項目を含む) (PDF:311KB)

サステナビリティ

トップメッセージ

グンゼのサステナビリティ

環境

社会

ガバナンス

ESGデータ関連

イニシアティブへの参画・外部評価

サステナビリティニュース

統合レポート

サステナビリティトップへ

- コーポレートブランド
 - 沿革・歴史
 - 拠点情報
 - グローバルネットワーク
 - スペシャルコンテンツ
 - こんなところに！グンゼ
- プラスチック分野
 - メカトロニクス分野
 - 繊維資材分野
 - 不動産関連分野
 - 商業デベロッパー分野
 - スポーツクラブ分野
 - 環境緑化分野
 - エンジニアリング分野
- 研究開発の歴史
- ガバナンス
 - ESGデータ関連
 - イニシアティブへの参画・外部評価
 - サステナビリティニュース
 - 統合レポート
 - グンゼの肌着教室 📺
- IR資料室
 - 個人投資家の皆さまへ
 - IRサポート
 - 統合レポート
 - IRニュース
- 採用情報

 - 新卒採用情報 📺
 - キャリア採用情報
 - 数字で見るGUNZE
 - Our work. Our future.



編集方針

グンゼグループは、サステナビリティウェブページを通じて、持続可能な発展に向けた取り組みやサステナビリティ情報などを網羅的でわかりやすく情報開示し、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を構築しています。また、2018年度からは中長期の成長戦略をご理解いただくために財務情報・非財務情報を中心とした「グンゼ統合レポート」を発行しています。

報告対象期間

特記のない限り、2024年4月～2025年3月を対象としています。
ただし、活動や取り組み内容は一部それ以前からのもの、および直近のものも含まれます。

報告対象範囲

グンゼ株式会社および国内外の関係会社を含めた連結範囲を対象としています。
単体もしくは国内関係会社のための情報もございます。その場合には、情報ごとに対象範囲を明記しています。

参考としたガイドライン

経済産業省「価値協創ガイダンス」
GRIスタンダード（日本語版）
IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
気候関連財務情報開示タスクフォース「TCFD提言」
環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

情報開示について

グンゼ統合レポート

グンゼが創業以来変わらない価値観を大切にしながらも持続可能な事業基盤づくりを進め、グローバルに選ばれ続ける会社を目指す取り組みを、価値創造プロセスに基づく具体的なストーリーによって説明しています。

[グンゼ統合レポート >](#)

サステナビリティ

[トップメッセージ >](#)[グンゼのサステナビリティ >](#)[環境 >](#)[社会 >](#)[ガバナンス >](#)[ESGデータ関連 >](#)[イニシアティブへの参画・外部評価 >](#)[サステナビリティニュース >](#)[統合レポート >](#)[< サステナビリティトップへ](#)

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート



- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



イニシアティブへの参画・外部評価

イニシアティブへの参画・外部評価

参画と評価を通じ、社会と共に持続可能な成長を目指しています

GRIスタンダード対照表 >

GRIスタンダード対照表に基づき、
情報開示しています

ISO26000対照表 >

ISO26000対照表に基づき、
情報開示しています

TCFD対照表 >

TCFD対照表に基づき、情報開示しています

サステナビリティ

[トップメッセージ >](#)[グンゼのサステナビリティ >](#)[環境 >](#)[社会 >](#)[ガバナンス >](#)[ESGデータ関連 >](#)[イニシアティブへの参画・外部評価 >](#)[サステナビリティニュース >](#)[統合レポート >](#)[< サステナビリティトップへ](#)

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

イニシアティブへの参画・外部評価

イニシアティブへの参画 ▾ 外部評価 ▾

イニシアティブへの参画

国連グローバル・コンパクト

WE SUPPORT



グンゼ株式会社は国連グローバル・コンパクトに署名しました。

国連グローバル・コンパクトは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。グンゼ株式会社は、今後、大きく変化する時代からの要請や期待に応じていくために、世界的な取り組みである国連グローバル・コンパクトに署名いたしました。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野からなる「国連グローバル・コンパクト10原則」を支持し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

国連グローバル・コンパクトの参加証明書



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



TCFDコンソーシアム



企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。TCFD提言に賛同する企業や金融機関等が取り組みを推進しています。



CDPの気候変動に関する調査においてBスコアに認定されました。

SOMPOサステナビリティ・インデックス

2025



Sompo Sustainability Index

SOMPOアセットマネジメント株式会社が独自に設定する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に13年連続で選定されました。

くるみん



次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」認定企業として2023年に厚生労働省より認定されました。

サステナビリティ

トップメッセージ



グンゼのサステナビリティ



環境



社会



ガバナンス



ESGデータ関連



イニシアティブへの参画・
外部評価



サステナビリティニュース



統合レポート



◀ サステナビリティトップへ

企業情報

- ・トップメッセージ
- ・経営理念
- ・会社概要
- ・役員一覧
- ・コーポレートブランド
- ・沿革・歴史
- ・拠点情報
- ・グローバルネットワーク
- ・スペシャルコンテンツ

製品・サービス

- ・アパレル分野
- ・プラスチックフィルム分野
- ・メディカル分野
- ・エンジニアリング
プラスチック分野
- ・メカトロニクス分野
- ・繊維資材分野
- ・不動産関連分野
- ・商業デベロッパー分野
- ・保険サービス分野
- ・オンラインストア・直営店舗情報
- ・カタログ通販

技術・研究開発

- ・グンゼの技術力
- ・研究開発体制
- ・研究開発戦略
- ・QOLへの取り組み
- ・研究開発の歴史

サステナビリティ

- ・トップメッセージ
- ・グンゼのサステナビリティ
- ・環境
- ・社会
- ・ガバナンス
- ・ESGデータ関連
- ・イニシアティブへの参画・外部評価
- ・サステナビリティニュース
- ・統合レポート

株主・投資家情報

- ・トップメッセージ
- ・経営方針
- ・財務・業績
- ・株主・株式情報
- ・IR資料室
- ・個人投資家の皆さまへ
- ・IRサポート
- ・統合レポート
- ・IRニュース



- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

➤ 電子公告 ➤ 重要なお知らせ ➤ ご利用条件について ➤ プライバシーポリシー ➤ ソーシャルメディアポリシー ➤ お問い合わせ窓口 ➤ サイトマップ



GRIスタンダード対照表

一般開示事項 2021：GRI2 ▾

マテリアルな項目 2021：GRI3 ▾

経済：GRI200 ▾

環境：GRI300 ▾

社会：GRI400 ▾

一般開示事項 2021：GRI2

GRI項目番号	開示項目	掲載箇所
GRI2：一般開示事項2021		
1.組織と報告実務		
GRI 2-1	組織の詳細	会社概要
GRI 2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	会社概要 拠点情報
GRI 2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	編集方針
GRI 2-4	情報の修正・訂正記述	該当する事例なし
GRI 2-5	外部保証	－
2.活動と労働者		
GRI 2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	会社概要 製品・サービス サプライチェーン
GRI 2-7	従業員	ESGパフォーマンスデータ
GRI 2-8	従業員以外の労働者	－
3.ガバナンス		
GRI 2-9	ガバナンス構造と構成	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス報告書 
GRI 2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス報告書 
GRI 2-11	最高ガバナンス機関の議長	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス報告書 
GRI 2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス報告書 
GRI 2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス報告書  サステナビリティ・マネジメント
GRI 2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	サステナビリティ・マネジメント
GRI 2-15	利益相反	コーポレート・ガバナンス報告書  有価証券報告書
GRI 2-16	重大な懸念事項の伝達	サステナビリティ・マネジメント リスクマネジメント
GRI 2-17	最高ガバナンス機関の集会的知見	コーポレート・ガバナンス



		有価証券報告書
GRI 2-20	報酬の決定プロセス	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンス報告書  有価証券報告書
GRI 2-21	年間報酬総額の比率	—
4.戦略、方針、実務慣行		
GRI 2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	トップメッセージ
GRI 2-23	方針声明	企業行動憲章 人権 方針・ガイドライン一覧
GRI 2-24	方針声明の実践	人権 サステナビリティ・マネジメント コンプライアンス
GRI 2-25	マイナスインパクトの是正プロセス	コンプライアンス リスクマネジメント
GRI 2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	コンプライアンス ESGパフォーマンスデータ
GRI 2-27	法規制遵守	コンプライアンス
GRI 2-28	会員資格をもつ団体	イニシアティブへの参画・外部評価
5.ステークホルダー・エンゲージメント		
GRI 2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	IR:情報開示に関するポリシー ステークホルダーコミュニケーション
GRI 2-30	労働協約	ESGパフォーマンスデータ 人的資本

マテリアルな項目 2021：GRI3

GRI項目番号	開示項目	掲載箇所
GRI3：マテリアルな項目2021		
GRI 3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	マテリアリティ
GRI 3-2	マテリアルトピックのリスト (マテリアルな項目のリスト)	マテリアリティ
GRI 3-3	マテリアルな項目のマネジメント	コーポレート・ガバナンス サステナビリティ・マネジメント

経済：GRI200

GRI項目番号	開示項目	掲載箇所
GRI 201：経済パフォーマンス 2016		
GRI 201-1	創出、分配した直接的経済価値	有価証券報告書 財務・業績ハイライト
GRI 201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	気候変動対応
GRI 201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	有価証券報告書

GRI 202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率（男女別）	－
GRI 202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	－
GRI203：間接的な経済的インパクト 2016		
GRI 203-1	インフラ投資および支援サービス	－
GRI 203-2	著しい間接的な経済的インパクト	該当する事例なし
GRI204：調達慣行 2016		
GRI 204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	－
GRI205：腐敗防止 2016		
GRI 205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	－
GRI 205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	コンプライアンス
GRI 205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	－
GRI206：反競争的行為 2016		
GRI 206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	－
GRI207：税金 2019		
GRI 207-1	税務へのアプローチ	コンプライアンス
GRI 207-2	税務のガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	コンプライアンス
GRI 207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念事項への対処	コンプライアンス
GRI 207-4	国別の報告	－

環境：GRI300

GRI項目番号	開示項目	掲載箇所
GRI301：原材料 2016		
GRI 301-1	使用原材料の重量または体積	－
GRI 301-2	使用したリサイクル材料	－
GRI 301-3	再生利用された製品と梱包材	環境配慮製品・技術
GRI302：エネルギー 2016		
GRI 302-1	エネルギー消費量 組織内のエネルギー消費量	ESGパフォーマンスデータ
GRI 302-2	組織外のエネルギー消費量	－
GRI 302-3	エネルギー原単位	－
GRI 302-4	エネルギー消費量の削減	環境配慮製品・技術 ESGパフォーマンスデータ マネジメント
GRI 302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	環境配慮製品・技術
GRI303：水と廃水 2018		

GRI 303-3	取水	—
GRI 303-4	排水	—
GRI 303-5	水消費	—
GRI304：生物多様性 2016		
GRI 304-1	保護地域および保護地域ではない生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業拠点	—
GRI 304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	—
GRI 304-3	生息地の保護・復元	生物多様性
GRI 304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	—
GRI305：大気への排出 2016		
GRI 305-1	直接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ1）	気候変動対応 ESGパフォーマンスデータ
GRI 305-2	間接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ2）	気候変動対応 ESGパフォーマンスデータ
GRI 305-3	その他の間接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ3）	気候変動対応 ESGパフォーマンスデータ
GRI 305-4	温室効果ガス（GHG）排出原単位	—
GRI 305-5	温室効果ガス（GHG）排出量の削減	気候変動対応
GRI 305-6	オゾン層破壊物質（ODS）の排出量	—
GRI 305-7	窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、およびその他の重大な大気排出物	—
GRI306：廃棄物 2020		
GRI 306-1	廃棄物の発生と重大な廃棄物関連の著しいインパクト	廃棄物削減 ESGパフォーマンスデータ
GRI 306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	廃棄物削減 ESGパフォーマンスデータ
GRI 306-3	発生した廃棄物	ESGパフォーマンスデータ
GRI 306-4	処分されなかった廃棄物	—
GRI 306-5	処分された廃棄物	ESGパフォーマンスデータ
GRI307：環境コンプライアンス 2016		
GRI 307-1	環境法規制の違反	廃棄物削減
GRI308：サプライヤーの環境面のアセスメント 2016		
GRI 308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	サプライチェーン
GRI 308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	人権 サプライチェーン

社会：GRI400

GRI401：雇用 2016



GRI 401-3	育児休暇	ESGパフォーマンスデータ
GRI402：労使関係 2016		
GRI 402-1	事業上の変更にに関する最低通知期間	－
GRI403：労働安全衛生 2018		
GRI 403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	健康と安全
GRI 403-2	危険性の特定、リスク評価、事故調査	リスクマネジメント
GRI 403-3	労働安全衛生における参加、協議	健康と安全
GRI 403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	健康と安全
GRI 403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	健康と安全
GRI 403-6	労働者の健康増進	人的資本
GRI 403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	－
GRI 403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	健康と安全
GRI 403-9	労働関連の障害	ESGパフォーマンスデータ
GRI 403-10	労働関連の疾病・体調不良	ESGパフォーマンスデータ
GRI404：研修と教育 2016		
GRI 404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	ESGパフォーマンスデータ
GRI 404-2	従業員スキル向上のプログラムおよび移行支援プログラム	人的資本
GRI 404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	－
GRI405：ダイバーシティと機会均等 2016		
GRI 405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	ESGパフォーマンスデータ ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン
GRI 405-2	基本給と報酬総額の男女比	有価証券報告書
GRI406：非差別 2016		
GRI 406-1	差別事例と実施した救済措置	コンプライアンス
GRI407：結社の自由と団体交渉 2016		
GRI 407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	人的資本
GRI408：児童労働 2016		
GRI 408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	人権
GRI409：強制労働 2016		
GRI 409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	人権
GRI410：保安慣行 2016		
GRI 410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	－

GRI413：地域コミュニティ 2016		
GRI 413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	社会貢献
GRI 413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在化しているもの、潜在的なもの）を及ぼす事業所	—
GRI414：サプライヤーの社会面のアセスメント 2016		
GRI 414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	サプライチェーン
GRI 414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	—
GRI415：公共政策 2016		
GRI 415-1	政治献金	—
GRI416：顧客の安全衛生 2016		
GRI 416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	—
GRI 416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—
GRI417：マーケティングとラベリング 2016		
GRI 417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	—
GRI 417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	—
GRI 417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—
GRI418：顧客プライバシー 2016		
GRI 418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申し立て	リスクマネジメント

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース



ISO26000対照表

中核主題

組織統治 ▾ 人権 ▾ 労働慣行 ▾ 環境 ▾ 公正な事業慣行 ▾ 消費者課題 ▾ コミュニティ参画および発展 ▾

組織統治

課題	グンゼサイト内当該リンク
課題1：組織統治	<div><div>▶</div> トップメッセージ</div> <div><div>▶</div> サステナビリティマネジメント</div> <div><div>▶</div> ステークホルダーコミュニケーション</div> <div><div>▶</div> コーポレート・ガバナンス</div>

人権

課題	グンゼサイト内当該リンク
課題1：デューディリジェンス 課題2：人権に関する危機的状況 課題3：加担の回避 課題4：苦情解決 課題5：差別及び社会的弱者 課題6：市民的及び政治的権利 課題7：経済的、社会的及び文化的権利 課題8：労働における基本的原則及び権利	<div><div>▶</div> サステナビリティ・マネジメント</div> <div><div>▶</div> 人権</div> <div><div>▶</div> 人的資本</div> <div><div>▶</div> 品質保証・顧客責任</div> <div><div>▶</div> サプライチェーン</div> <div><div>▶</div> ステークホルダーコミュニケーション</div> <div><div>▶</div> コンプライアンス</div>

労働慣行

課題	グンゼサイト内当該リンク
課題1：雇用及び雇用関係 課題2：労働条件及び社会的保護 課題3：社会対話 課題4：労働における安全衛生 課題5：職場における人材育成及び訓練	<div><div>▶</div> 人権</div> <div><div>▶</div> 人的資本</div> <div><div>▶</div> 健康と安全</div> <div><div>▶</div> ステークホルダーコミュニケーション</div> <div><div>▶</div> ESGパフォーマンスデータ</div>

環境

課題	グンゼサイト内当該リンク
----	--------------

課題3：気候変動の緩和及び気候変動への適応
課題4：環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復

- ステークホルダーコミュニケーション
- ESGパフォーマンスデータ

公正な事業慣行

課題	グンゼサイト内当該リンク
課題1：汚職防止 課題2：責任ある政治的関与 課題3：公正な競争 課題4：バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5：財産権の尊重	<ul style="list-style-type: none">➤ グンゼのサステナビリティ➤ サプライチェーン➤ ステークホルダーコミュニケーション➤ コンプライアンス

消費者課題

課題	グンゼサイト内当該リンク
課題1：公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2：消費者の安全衛生の保護 課題3：持続可能な消費 課題4：消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 課題5：消費者データ保護及びプライバシー 課題6：必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7：教育及び意識向上	<ul style="list-style-type: none">➤ 資源循環➤ 品質保証・顧客責任➤ 社会貢献➤ ステークホルダーコミュニケーション➤ コンプライアンス➤ リスクマネジメント➤ プライバシーポリシー

コミュニティ参画および発展

課題	グンゼサイト内当該リンク
課題1：コミュニティへの参画 課題2：教育及び文化 課題3：雇用創出及び技能開発 課題4：技術の開発及び技術へのアクセス 課題5：富及び所得の創出 課題6：健康 課題7：社会的投資	<ul style="list-style-type: none">➤ 人的資本➤ 健康と安全➤ 社会貢献➤ ステークホルダーコミュニケーション➤ コンプライアンス➤ 技術・研究開発

サステナビリティ

トップメッセージ ➤	グンゼのサステナビリティ ➤	環境 ➤	社会 ➤
ガバナンス ➤	ESGデータ関連 ➤	イニシアティブへの参画・外部評価 ➤	サステナビリティニュース ➤
統合レポート ➤			

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！Gunze

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- Gunzeの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- Gunzeのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- Gunzeの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGunze
- Our work. Our future.



TCFD対照表

統治 ▾ 戦略 ▾ リスクマネジメント ▾ 指標と目標 ▾

統治

気候関連のリスクと機会に関する組織のガバナンスを開示します。

開示推奨項目	該当箇所
a.気候関連のリスクと機会に対する取締役会の監督について説明する	サステナビリティ・マネジメント 気候変動対応
b.気候関連のリスクと機会の評価と管理における経営陣の役割について説明する	コーポレート・ガバナンス 有価証券報告書  統合レポート

戦略

気候関連のリスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす実際の影響と潜在的な影響を、そのような情報が重要な場合は開示します。

開示推奨項目	該当箇所
a.組織が短期、中期、長期にわたって特定した気候関連のリスクと機会について説明する	気候変動対応
b.気候関連のリスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に与える影響を説明する	環境マネジメント 有価証券報告書 
c.2°C以下のシナリオを含む、さまざまな気候関連シナリオを考慮して、組織の戦略のレジリエンスを説明する	統合レポート

リスクマネジメント

組織が気候関連リスクをどのように特定、評価、管理しているかを開示します。

開示推奨項目	該当箇所
a.気候関連リスクを特定および評価するための組織のプロセスについて説明する	サステナビリティ・マネジメント
b.気候関連リスクを管理するための組織のプロセスを説明する	コーポレート・ガバナンス 有価証券報告書 
c.気候関連リスクを特定、評価、管理するプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように統合されているかを説明する	統合レポート

指標と目標

関連する気候関連のリスクと機会を評価および管理するために使用される指標と目標を開示します。

開示推奨項目	該当箇所
a.組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って気候関連のリスクと機会を評価するために使用する指標を開示する	気候変動対応
b.Scope1、Scope2、および必要に応じてScope3の温室効果ガス(GHG)排出量と関連するリスクを開示する	環境マネジメント 有価証券報告書 



サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

統合レポート

「グンゼ統合レポート 2025」は、2024年度（2025年3月期）の財務・非財務情報レポートとして編集しています。グンゼが創業以来変わらない価値観を大切にしながらも、持続可能な事業基盤づくりを進めグローバルに選ばれ続ける会社を目指す「VISION 2030」の実現に向けた取り組みを、価値創造プロセスに基づく具体的なストーリーによって説明しています。

本レポートをステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして活用し、引き続き建設的な対話を通じて、グンゼグループのさらなる企業価値向上に取り組んでまいります。

グンゼ統合レポート2025



グンゼ統合レポート 2025（全ページ） (PDF:8.9MB)

分割版ダウンロード

グンゼの価値創造ストーリー (PDF:5.3MB)

- P01 メッセージ
- P02 目次
- P04 At a Glance
- P06 社長メッセージ
- P10 価値創造の奇跡
- P12 価値創造モデル
- P14 資本別価値創造モデルの解説

成長戦略 (PDF:2.0MB)

- P16 リスクと機会・マテリアリティ
- P18 前中期経営計画「VISION 2030 stage1」振り返り
- P20 中期経営計画「VISION 2030 stage2」

資本戦略 (PDF:2.4MB)

- P22 財務資本
- P26 人的資本
- P30 製造資本
- P32 知的資本
- P34 社会関係資本
- P36 自然資本
- P40 ステークホルダーエンゲージメント

事業戦略 (PDF:2.6MB)

- P42 機能ソリューション事業
- P44 メディカル事業
- P46 アパレル事業
- P48 ライフクリエイイト事業
- P50 部門横断 技術者戦略
- P52 グローバル戦略

コーポレートガバナンス (PDF:2.4MB)

- P54 コーポレートガバナンス
- P60 社外取締役鼎談
- P64 役員一覧

コーポレートデータ (PDF:1.7MB)

- P66 財務・非財務ハイライト
- P68 11ヵ年連結財務・非財務サマリー
- P70 会社情報／株式情報

過去の統合レポート

統合レポート2024 (PDF:9.9MB)

統合レポート2022 (PDF:10.1MB)

統合レポート2023 (PDF:8.1MB)

統合レポート2021 (PDF:27.2MB)

過去のCSR報告書

CSR報告書2017  (PDF:15MB)

CSR報告書2015  (PDF:5.3MB)

CSR報告書2013  (PDF:5.4MB)

CSR報告書2011  (PDF:13.9MB)

CSR報告書2009  (PDF:20MB)

CSR報告書2007  (PDF:9MB)

CSR報告書2005  (PDF:6.1MB)

CSR報告書2016  (PDF:18MB)

CSR報告書2014  (PDF:6.2MB)

CSR報告書2012  (PDF:8.9MB)

CSR報告書2010  (PDF:20.7MB)

CSR報告書2008  (PDF:19.4MB)

CSR報告書2006  (PDF:4.4MB)

サステナビリティ

トップメッセージ



グンゼのサステナビリティ



環境



社会



ガバナンス



ESGデータ関連



イニシアティブへの参画・外部評価



サステナビリティニュース



統合レポート



◀ サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室 

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報 
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告

重要なお知らせ

ご利用条件について

プライバシーポリシー

ソーシャルメディアポリシー

お問い合わせ窓口

サイトマップ

サステナビリティニュース

2026年 | 2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年以前 ▾

2026年

7月～9月

2026年08月19日 【グンゼサステナブルレター】vol.18 自然との共生編

4月～6月

2026年06月25日 【グンゼサステナブルレター】vol.17 より良いコミュニティ・社会づくり編

2026年05月26日 「第56回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2026年04月06日 「第55回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2026年02月25日 【グンゼサステナブルレター】vol.16 地域との連携編

過去のサステナビリティニュース

2026年 > 2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 >

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・
外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！Gunze

- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- Gunzeの肌着教室

- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



サステナビリティニュース

2026年 | 2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年以前 ▾

2026年

7月～9月

2026年08月19日 【グンゼサステナブルレター】vol.18 自然との共生編

4月～6月

2026年06月25日 【グンゼサステナブルレター】vol.17 より良いコミュニティ・社会づくり編

2026年05月26日 「第56回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2026年04月06日 「第55回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2026年02月25日 【グンゼサステナブルレター】vol.16 地域との連携編

過去のサステナビリティニュース

2026年 > 2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 >

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・
外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



サステナビリティニュース

2026年 | 2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年以前 ▾

2025年

10月～12月

2025年12月10日 【グンゼサステナブルレター】vol.15 自然との共生編

2025年10月27日 「第54回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

7月～9月

2025年09月30日 「第53回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2025年08月26日 【グンゼサステナブルレター】vol.14 サーキュラー エコノミーの実現編

4月～6月

2025年06月25日 【グンゼサステナブルレター】vol.13 より良いコミュニティ・社会づくり編

2025年05月28日 「第52回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2025年04月23日 「第51回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2025年02月26日 【グンゼサステナブルレター】vol.12 CO2削減の取り組み編

過去のサステナビリティニュース

2026年 > 2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 >

◀ サステナビリティトップへ

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！Gunze

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- Gunzeの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- Gunzeのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- Gunzeの肌着教室

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前 ▾

2024年

10月～12月

2024年12月16日 【グンゼサステナブルレター】vol.11 アパレルのサステナブル調達編

2024年11月19日 「第50回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2024年10月07日 「第49回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

7月～9月

2024年09月10日 【グンゼサステナブルレター】vol.10 GOL向上へ貢献編

4月～6月

2024年06月12日 【グンゼサステナブルレター】vol.9 より良いコミュニティ・社会づくり編

2024年05月17日 「第48回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2024年04月15日 「第47回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2024年03月22日 【グンゼサステナブルレター】vol.8 森林保全の取り組み編

過去のサステナビリティニュース

2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 > 2019年 >

◀ サステナビリティトップへ

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！Gunze

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- Gunzeの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- Gunzeのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- Gunzeの肌着教室

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

サステナビリティニュース

2025年

| 2024年

| 2023年

| 2022年

| 2021年

| 2020年以前

2023年

10月～12月

2023年12月06日

「第46回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2023年11月20日

【グンゼサステナブルレター】vol.7 アパレル事業のサステナブル経営編

2023年11月10日

「第45回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

7月～9月

2023年08月23日

【グンゼサステナブルレター】vol.6 より良いコミュニティ・社会づくり編

2023年07月11日

「肌着のはたらきとその生地」についてグンゼの肌着教室 ノートルダム学院小学校 出前授業実施

4月～6月

2023年06月14日

【グンゼサステナブルレター】vol.5 緑豊かな環境づくり編

2023年05月15日

「第44回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2023年04月11日

「第43回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2023年03月30日

【グンゼサステナブルレター】vol.4 プラスチック資源循環戦略編

2023年02月15日

【グンゼサステナブルレター】vol.3 QOL向上へ貢献編 (PDF:437 KB)

過去のサステナビリティニュース

2025年 >

2024年 >

2023年 >

2022年 >

2021年 >

2020年 >

2019年 >

トップメッセージ

グンゼのサステナビリティ

環境

社会

ガバナンス

ESGデータ関連

イニシアティブへの参画・外部評価

サステナビリティニュース

統合レポート

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告

重要なお知らせ

ご利用条件について

プライバシーポリシー

ソーシャルメディアポリシー

お問い合わせ窓口

サイトマップ

サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前 ▾

2022年

10月～12月

- | | |
|-------------|--|
| 2022年12月23日 | 「肌着の役割と必要性」についてグンゼの肌着教室 オンライン形式で実施（群馬県立吾妻特別支援学校） |
| 2022年12月16日 | 「肌着の役割と必要性」についてグンゼの肌着教室 オンライン形式で実施（名古屋市立一色中学校） |
| 2022年11月16日 | 「第42回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施 |
| 2022年10月06日 | 「第41回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施 |

7月～9月

- | | |
|-------------|--|
| 2022年09月21日 | 【グンゼサステナブルレター】vol2.緑豊かな環境づくり編   (PDF:521 KB) |
|-------------|--|

4月～6月

- | | |
|-------------|---|
| 2022年06月13日 | 【グンゼサステナブルレター】vol1.プラスチック資源循環戦略編   (PDF:535 KB) |
| 2022年05月24日 | 「第40回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施 |
| 2022年04月19日 | 「第39回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施 |

過去のサステナビリティニュース

2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 > 2019年 >

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・
外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >



企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前 ▾

2021年

10月～12月

2021年11月22日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 オンライン形式で実施（須知幼稚園）

2021年11月09日 「第38回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2021年10月04日 「第37回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

過去のサステナビリティニュース

2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 > 2019年 >

サステナビリティ

トップメッセージ >

グンゼのサステナビリティ >

環境 >

社会 >

ガバナンス >

ESGデータ関連 >

イニシアティブへの参画・外部評価 >

サステナビリティニュース >

統合レポート >

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんにちは！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室 

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報 
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE





サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前

2020年

10月～12月

2020年11月11日 「第36回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2020年02月17日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 八尾市立八尾小学校で実施

2020年01月21日 2019年度 劇団四季「こころの劇場」 京都・綾部公演に運営ボランティアとして参加

2020年01月20日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 奈良市立左京小学校で実施

過去のサステナビリティニュース

2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 > 2019年 >

サステナビリティ

トップメッセージ >	グンゼのサステナビリティ >	環境 >	社会 >
ガバナンス >	ESGデータ関連 >	イニシアティブへの参画・外部評価 >	サステナビリティニュース >
統合レポート >			

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート



- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



[トップ](#) > [サステナビリティ](#) > サステナビリティニュース

サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前 ▾

2019年12月20日

大阪府での公益財団法人による「企業人による山の確保」への参加

2019年11月28日

2019年度 劇団四季「こころの劇場」大阪公演に運営ボランティアとして参加

2019年11月11日

「第35回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2019年10月17日

「行きましょう！乳がん検診」乳がん検診促進イベントを実施

2019年10月08日

「第34回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

7月～9月

2019年09月27日

「シングルマザーの応援フェスタ2019」に参加

2019年09月20日

女子高校生のためのサマースクール 「ガールアップセミナー2019」に参加

2019年09月17日

立命館守山高等学校キャリアデザインプログラムに研究開発部（守山）で開催

2019年08月30日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 昭和放課後児童クラブで実施

2019年08月23日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 遷喬放課後児童クラブで実施

2019年08月19日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 庵我放課後児童クラブで実施

2019年08月19日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 京都大和の家で実施

2019年08月06日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 佐賀放課後児童クラブで実施

2019年08月01日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 六人部放課後児童クラブで実施

2019年07月29日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 大江放課後児童クラブで実施

4月～6月

2019年06月21日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 尼崎市立七松小学校で実施

2019年06月03日

「第33回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2019年04月15日

「第32回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2019年04月09日

新入社員による「京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2019年03月14日

【共生の森づくり】「第16回 共生の森 植樹祭」に参加

2019年02月20日

「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 尼崎市立園田東小学校で実施

過去のサステナビリティニュース

2025年 ▶ 2024年 ▶ 2023年 ▶ 2022年 ▶ 2021年 ▶ 2020年 ▶ 2019年 ▶

サステナビリティ

トップメッセージ ▶	グンゼのサステナビリティ ▶	環境 ▶	社会 ▶
ガバナンス ▶	ESGデータ関連 ▶	イニシアティブへの参画・外部評価 ▶	サステナビリティニュース ▶
統合レポート ▶			

◀ サステナビリティトップへ

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
 - プラスチックフィルム分野
 - メディカル分野
 - エンジニアリング
プラスチック分野
 - メカトロニクス分野
 - 繊維資材分野
 - 不動産関連分野
 - 商業デベロッパー分野
 - スポーツクラブ分野
 - 環境緑化分野
 - エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
 - オンラインストア・直営店舗情報
 - カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室 

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

- 新卒採用情報 
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

▶ 電子公告 ▶ 重要なお知らせ ▶ ご利用条件について ▶ プライバシーポリシー ▶ ソーシャルメディアポリシー ▶ お問い合わせ窓口 ▶ サイトマップ



[トップ](#) > [サステナビリティ](#) > サステナビリティニュース

サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前 ▾

2018年12月20日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 兵庫県加賀郡山手町立大谷小学校で実施

2018年12月17日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 大阪市立大淀小学校で実施

2018年12月12日 「社会探求」フィールドワークで富田林中学校の生徒が来訪

2018年12月11日 特定非営利活動法人AMDA（アムダ）を通じて西日本豪雨の被災地へ肌着を寄贈

2018年11月27日 立命館守山高等学校キャリアデザインプログラムに研究開発部（守山）が協力

2018年11月13日 滋賀アイステーション（滋賀県視覚障害者協会運営）ヘストッキングのハギレを提供

2018年11月08日 「第31回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2018年10月24日 「第30回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2018年10月11日 「だから行こう 乳がん検診」乳がん検診促進イベントを開催

7月～9月

2018年09月13日 「シングルマザーの応援フェスタ2018」に参加

2018年09月13日 女子高校生のためのサマースクール「ガールアップセミナー2018」に参加

2018年09月12日 「平成30年7月豪雨」による被災者への義援金寄付のご報告

2018年08月01日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 泉佐野市立第三小学校で実施

2018年07月27日 守山事業所の献血活動に対して厚生労働大臣より感謝状を受領

2018年07月13日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 日高川町立中津小学校で実施

4月～6月

2018年06月06日 2017年度 株主優待制度によるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへの寄付のご報告

2018年06月05日 「第29回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2018年05月25日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 山陽女学園で実施

2018年04月25日 「第28回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

1月～3月

2018年03月30日 「Well-Being OSAKA Lab」～働き方改革＆健康経営～キックオフイベントに参加

2018年03月06日 【共生の森づくり】「第15回 共生の森 植樹祭」に参加

2018年02月14日	「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 尼崎市立園田南小学校で実施
2018年01月22日	一時保護所（大阪府）に入所している児童へこども肌着を提供
2018年01月18日	「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 池田市立五月丘小学校で実施

過去のサステナビリティニュース

2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 > 2019年 >

サステナビリティ

トップメッセージ >	グンゼのサステナビリティ >	環境 >	社会 >
ガバナンス >	ESGデータ関連 >	イニシアティブへの参画・外部評価 >	サステナビリティニュース >
統合レポート >			

< サステナビリティトップへ

> 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

> 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

> 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

> サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

> 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

> 採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

[トップ](#) > [サステナビリティ](#) > サステナビリティニュース

サステナビリティニュース

2025年 | 2024年 | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年以前 ▾

2017年12月27日 付足并古利活動広入AMDA（アムダ）を通じて東日本大震災被災地へ給付金可相

2017年12月07日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 門真市立北巣本小学校で実施

2017年10月18日 「肌着を着よう！」グンゼの肌着教室 和泉市立北松尾小学校で実施

2017年10月02日 乳がん検診促進キャンペーン in なんばウォーク 「だから行こう 乳がん検診」イベント開催

2017年10月02日 「第26回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

7月～9月

2017年09月01日 九州北部豪雨災害による被災者への義援金の寄付

2017年08月21日 「肌着を着よう！」グンゼ肌着教室 泉佐野市立大木小学校、泉佐野市立末広小学校で実施

2017年08月02日 「肌着を着よう！」グンゼ肌着教室 泉佐野市立長坂小学校、泉佐野市立佐野台小学校、福知山市立成仁小学校で実施

4月～6月

2017年06月26日 「CSR ACTION BOOK」グンゼグループ CSR報告書 2017 掲載しました

2017年06月14日 加古川警察署より感謝状を受領

2017年05月23日 「第25回京都モデルフォレスト運動 in 綾部」を実施

2017年05月17日 2016年度 株主優待制度による熊本地震復興支援への寄付

1月～3月

2017年02月16日 3社合同「女性交流会in Kyoto」を開催

2017年02月09日 「イオングループ管理部門カンファレンス」に参加

2017年01月12日 KUBIC2016で最優秀賞を受賞した 明治大学牛尾ゼミ学生チームと意見交換会を実施

過去のサステナビリティニュース

2025年 > 2024年 > 2023年 > 2022年 > 2021年 > 2020年 > 2019年 >

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野

- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.



グンゼでは、肌着の役割などを楽しく学ぶ「グンゼの肌着教室」を行っています。
肌着の大切さを知っていただき、お子さまが健康に成長していけるようお手伝いしています。

「肌着教室」
とは？

「肌着教室」
の概要

開催実績

「肌着教室」とは？

最近、肌着を着ない子どもたちが多くなったと思いませんか？

「どうして肌着を着る必要があるのでしょうか？」
「からだの仕組みと肌着の役割」を理解していただくことで、
衛生的で健康なお子さまの体づくりを応援しています。



プログラム内容「肌着を着よう！」

「肌着の役割と汗の働き」を関連付けながら、
肌着を着る必要性について説明いたします。

・どうして肌着を着るのでしょうか？

・どうして汗が出るのでしょうか？

・汗が出る穴の数は？

・たくさん汗をかく場所はどこでしょうか？

・肌着とカットソーシャツはどう違うのでしょうか？

・清潔で気持ちの良い毎日を送るためには？

「肌着教室」の概要

対象	小学校児童（保護者、教職員可）
対象地域	京都府、大阪府を中心とした近畿エリア（応相談にて）
対象日	月曜日～金曜日（祝日、年末年始・夏季休暇など所定休業日を除く）
授業時間	1授業 45分（質疑含む）
費用	無料
形式	対面授業（基本クラス単位）
準備頂くもの	大画面モニター（パソコン接続）、机（見本展示）
ご注意事項	・開催希望日の6週間前までに下記の「お申し込みフォーム」より必要事項を入力の上、お申し込みください。 ・お申し込み後、担当スタッフよりご連絡させていただきます。ご連絡までに数日程度を要する場合がございます。あらかじめ、ご了承ください。

◀ サステナビリティトップページに戻る

サステナビリティ

トップメッセージ ▶	グンゼのサステナビリティ ▶	環境 ▶	社会 ▶
ガバナンス ▶	ESGデータ関連 ▶	イニシアティブへの参画・外部評価 ▶	サステナビリティニュース ▶
統合レポート ▶			

◀ サステナビリティトップへ

▶ 企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

▶ 製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリング
プラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維素材分野
- 不動産関連分野
- 商業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

▶ 技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- GOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

▶ サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの取組概要 

▶ 株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

▶ 採用情報

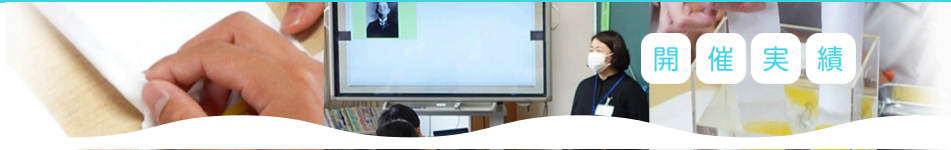
- 新卒採用情報 
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

「肌着教室」って、なに？

「肌着教室」の概要

開催実績

お申し込みフォーム



バックナンバー

- 2025 2024 2023 2022 2021 2020 2019 2018 2017 2016

2025年度

実施日	開催場所			参加人数
2026.3.4	京都府綾部市志賀郷町	綾部市立志賀小学校 (出前授業)	教職員・5年生	11名
2026.2.13	京都府綾部市上杉町	綾部市立東八田小学校 (出前授業)	教職員・5年生	12名
2026.2.10	大阪府大阪市都島区	大阪市立高倉小学校 (出前授業)	6年生	29名
2026.2.2	京都府綾部市栗町	綾部市立豊里小学校 (出前授業)	教職員・5年生	26名
2025.12.17	京都府綾部市八津合町	綾部市立上林小学校 (出前授業)	教職員・5年生	9名
2025.11.14	大阪府大阪市淀川区	大阪市立野中小学校 (出前授業)	教職員・5～6年生	107名
2025.5.19	京都府綾部市川糸町	京都府立綾部高校東分校 校定時制 (出前授業)	教職員・1～4年生	23名
2025.4.27	大阪府門真市新橋町	門真市子どもLOBBY (出前授業)	職員・1～4年生・保護者	12名

2024年度

実施日	開催場所			参加人数
2025.2.13	京都府綾部市上杉町	綾部市立東八田小学校 (出前授業)	教職員・5年生	9名
2025.1.17	兵庫県尼崎市大島	尼崎市立成文小学校 (出前授業)	教職員・4年生・保護者	54名
2024.12.17	京都府綾部市志賀郷町	綾部市立志賀小学校 (出前授業)	教職員・5年生	5名
2024.11.1	京都府綾部市大島町	綾部市立中筋小学校 (出前授業)	教職員・5年生	37名
2024.9.12	京都府城陽市寺田	城陽市役所 (出前授業)	教職員	14名
2024.8.4	大阪府門真市新橋町	門真市子どもLOBBY (出前授業)	小学3～5年生・保護者	9名
2024.7.10	京都府綾部市大島町	綾部市立中筋小学校 (出前授業)	教職員・6年生	54名
2024.7.4	京都府福知山市三和町	福知山市立三和学園 (出前授業)	教職員・4年生	18名
2024.7.4	大阪府大阪市浪速区	ヒューマンキャンパス 高等学校なんば学習センター (出前授業・オンライン併用)	教職員・高校1年生	107名

実施日	開催場所			参加人数
2024.2.15	京都府綾部市上杉町	綾部市立東八田小学校 (出前授業)	教職員・5年生	9名
2024.1.31	京都府綾部市八津合町	綾部市立上林小学校 (出前授業)	教職員・5年生	15名
2023.12.13	京都府綾部市志賀郷町	綾部市立志賀小学校 (出前授業)	教職員・5年生	8名
2023.6.29	京都府京都市左京区	私立ノートルダム学院 小学校 (出前授業)	教職員・6年生	129名
2023.6.28	京都府綾部市大島町	綾部市立中筋小学校 (出前授業)	教職員・6年生	33名

2022年度

実施日	開催場所			参加人数
2022.12.21	群馬県吾妻郡東吾妻町	群馬県立吾妻特別支援 学校高等部 (オンライン形式)	教職員・高校1年生、高 校2年生、高校3年生	8名
2022.12.15	名古屋市中川区一色新 町	名古屋市立一色中学校 (オンライン形式)	教職員・中学校1年生、 2年生、3年生	19名

2021年度

実施日	開催場所			参加人数
2021.11.16	京都府船井郡京丹波町	京丹波町立須知幼稚園 (オンライン形式)	職員	5名

2020年度

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、未実施

2019年度

実施日	開催場所			参加人数
2020.02.07	大阪府八尾市	八尾市立八尾小学校 理科クラブ	小学4～6年生	23名
2020.01.16	奈良県奈良市	奈良市立左京小学校	教員、保護者	23名
2019.08.27	京都府福知山市	昭和放課後児童クラブ	小学1～6年生	90名
2019.08.22	京都府福知山市	遷喬放課後児童クラブ	小学1～6年生	102名
2019.08.08	京都府福知山市	庵我放課後児童クラブ	小学1～6年生	32名
2019.08.07	京都府相楽郡精華町	京都大和の家	小学1～6年生	15名
2019.08.05	京都府福知山市	佐賀放課後児童クラブ 未就学児	小学1～6年生	13名
2019.07.31	京都府福知山市	六人部放課後児童クラ ブ	小学1～6年生	70名
2019.07.26	京都府福知山市	大江放課後児童クラブ	小学1～5年生	30名
2019.06.19	兵庫県尼崎市	尼崎市立七松小学校	5年生、特別支援学級生	74名

2018年度

実施日	開催場所			参加人数
-----	------	--	--	------

企業情報					製品・サービス	技術・研究開発	サステナビリティ	株主・投資家情報	採用情報
2018.12.21	京都府亀岡市	児童福祉施設 社会福祉法人 青葉学園	小学生 保育士	14名					
2018.12.05	大阪府大阪市	大阪市立大淀小学校	5～6年生 教員、PTA（保護者）	25名					
2018.07.25	大阪府泉佐野市	泉佐野市立第三小学校	1～6年生	30名					
2018.07.12	和歌山県日高郡	日高川町立中津小学校	5～6年生（女子生徒）	14名					
2018.05.23	広島県廿日市市	山陽女学園	中等部・高等部	162名					

2017年度

実施日	開催場所			参加人数
2018.02.07	兵庫県尼崎市	尼崎市立園田南小学校	6年生（3クラス）	98名
2018.01.16	大阪府池田市	池田市立五月丘小学校	PTA（保護者）	24名
2017.12.06	大阪府門真市	門真市立北巢本小学校	まなび舎Kids （3～6年）	27名
2017.10.17	大阪府和泉市	和泉市立北松尾小学校	児童クラブ（1～6年）	37名
2017.08.08	大阪府泉佐野市	泉佐野市立大木小学校	児童クラブ（1～6年）	14名
2017.08.08	大阪府泉佐野市	泉佐野市立末広小学校	児童クラブ（1～6年）	22名
2017.07.28	京都府福知山市	福知山市立成仁小学校	児童クラブ（1～6年）	60名
2017.07.27	大阪府泉佐野市	泉佐野市立佐野台小学校	児童クラブ（1～6年）	16名
2017.07.27	大阪府泉佐野市	泉佐野市立長坂小学校	児童クラブ（1～6年）	13名

2016年度

実施日	開催場所			参加人数
2017.03.27	大阪府泉大津市	泉大津市立穴師小学校	仲よし学級(2～3年)	4名
2017.03.23	大阪府泉大津市	泉大津市立浜小学校	仲よし学級(1～6年)	40名
2017.03.01	大阪府泉大津市	泉大津市立上條小学校	仲よし学級(1～4年)	45名
2017.02.22	大阪府門真市	門真市立みらい小学校	3年生、4年生	12名
2017.02.13	大阪府泉大津市	泉大津市立旭小学校	仲よし学級(1～3年)	47名
2017.02.01	大阪府泉大津市	泉大津市立戎小学校	仲よし学級(1～5年)	50名
2017.01.25	兵庫県尼崎市	尼崎市立園田小学校	教師、PTA保護者	40-50名
2016.12.13	和歌山県日高郡日高川町	日高川町立中津小学校	5年生、6年生女子	20数名
2016.11.09	大阪府泉大津市	泉大津市立椿小学校	3年生、4年生	23名
2016.10.12	大阪府門真市	門真市立沖小学校	まなび舎Kids(1～3年)	26名
2016.09.28	大阪府高石市	高石市立清高小学校	児童クラブ（1～5年）	22名
2016.08.03	大阪府泉佐野市	泉佐野市立上之郷小学校	児童クラブ（1～4年）	58名
2016.08.03	大阪府泉佐野市	泉佐野市立長南小学校	児童クラブ（1～4年）	45名
2016.08.03	大阪府泉佐野市	泉佐野市立日新小学校	児童クラブ（1～4年）	78名
2016.07.28	大阪府泉佐野市	泉佐野市立北中小学校	児童クラブ（1～4年）	約40名
2016.07.28	大阪府泉佐野市	泉佐野市立第一小学校	児童クラブ（1～4年）	約40名
2016.07.28	大阪府泉佐野市	泉佐野市立中央小学校	児童クラブ（1～4年）	約80名

お申し込みフォームへ

肌着教室トップ

サステナビリティトップページに戻る

サステナビリティ

トップメッセージ	グンゼのサステナビリティ	環境	社会
ガバナンス	ESGデータ関連	イニシアティブへの参画・外部評価	サステナビリティニュース
統合レポート			

サステナビリティトップへ

企業情報

- トップメッセージ
- 経営理念
- 会社概要
- 役員一覧
- コーポレートブランド
- 沿革・歴史
- 拠点情報
- グローバルネットワーク
- スペシャルコンテンツ
- こんなところに！グンゼ

製品・サービス

- アパレル分野
- プラスチックフィルム分野
- メディカル分野
- エンジニアリングプラスチック分野
- メカトロニクス分野
- 繊維資材分野
- 不動産関連分野
- 農業デベロッパー分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野
- エンジニアリング分野
- 保険サービス分野
- オンラインストア・直営店舗情報
- カタログ通販

技術・研究開発

- グンゼの技術力
- 研究開発体制
- 研究開発戦略
- QOLへの取り組み
- 研究開発の歴史

サステナビリティ

- トップメッセージ
- グンゼのサステナビリティ
- 環境
- 社会
- ガバナンス
- ESGデータ関連
- イニシアティブへの参画・外部評価
- サステナビリティニュース
- 統合レポート
- グンゼの肌着教室

株主・投資家情報

- トップメッセージ
- 経営方針
- 財務・業績
- 株主・株式情報
- IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- IRサポート
- 統合レポート
- IRニュース

採用情報

- 新卒採用情報
- キャリア採用情報
- 数字で見るGUNZE
- Our work. Our future.

電子公告 重要なお知らせ ご利用条件について プライバシーポリシー ソーシャルメディアポリシー お問い合わせ窓口 サイトマップ